参考資料　モデル事業の実施事例

1. 実施概要

平成３０年７月豪雨にて、避難情報が発令され、また、河川災害や土砂災害が発生し、避難を行った関市及び下呂市の２つの地域にて、それぞれ３回の「一人ひとりが避難の手順を考える勉強会」を開催。地域に潜む危険を知り、あらかじめ避難の手順を考え、早めの避難の実効性を高めることで、住民一人ひとりが自ら命を守るための取組みを行いました。

(1)関市上之保川合下

①地区の特徴

平成 30 年７月豪雨では、大雨特別警報が発令されているなか、累計雨量 551mm、時間最大雨量 82mm を記録し、津保川及び小那比川が氾濫。家屋の床上床下浸水が多数発生するなかで、自治会や消防団による各戸への声掛けのもと、多くの人が避難することとなりました。

地区の世帯数は 107 世帯。自治体任せではなく、地域住民が自ら考えて避難行動できるようになるため、当取組みを実施しました。

②実施内容

【第１回勉強会】

日　時：平成 30 年 12 月 15 日（土）9:30～12:00

場　所：関市上之保生涯学習センター2 階 2-1 会議室

参加者：24 人

当勉強会の主旨などを説明。災害が発生するなかでの避難行動をふり返り、地区に潜む災害リスクや、とったらよかったと思う避難行動、地区の防災対策の課題など、住民自らの経験をとおした「気付き」を共有することにより、日頃の備えと早めの避難行動の重要性を認識。また、一人ひとりが「安全な避難場所」や「避難にかかる時間」など、安全に避難するための手順を考えました。

○第１部 ガイダンス「本日の勉強会について」

・開催趣旨の説明

・全体的な検討スケジュールの説明

・本日の勉強会についての説明

○第２部 ワークショップ「安全に避難するためには（7 月豪雨災害のふり返り 等)」

・７月豪雨災害のふり返り

・とったらよかったと思う避難行動

○第３部 講義「一人ひとりが考えて決める避難手順」

【第２回勉強会】

日　時：平成 31 年 1 月 26 日（土）13:30～16:00
場　所：関市上之保生涯学習センター1 階 多目的ホール他
参加者：第１部 109 人、第２部 23 人

上之保川合下以外の地区についても、当取組みを実施する必要があると考え、第１部は上之保とその周辺地区を広く対象とし、早めの避難の重要性を伝えるための講演会を実施。その後、川合下の住民のみを対象とし、地域に潜む危険を具体的に知るため、まち歩きを実施。災害時に危険な場所、避難を阻害する要因となるものを確認し、災害が発生する前に早めの避難することの重要性を認識しました。

○第１部　講義「次の大雨への備え ～危険と課題～」
・第１回勉強会のふり返り
・自分の地域に予想される危険について
・一人ひとりが考えて決める避難手順
○第２部　まち歩き「地域に潜む危険を知る」
・まち歩きの手順説明
・まち歩き実施
・まち歩きを踏まえた意見交換

【第３回勉強会】

日　時：平成 31 年 2 月 23 日（土）9:30～12:00
場　所：関市上之保生涯学習センター2 階 2-1 会議室
参加者：30 人

第１、２回の勉強会の内容を踏まえ、安全な避難場所と経路の確認、避難にかかる時間の計算を行った上で、避難のタイミングを決定。また、災害の危険を回避するために必要な気象情報や避難情報等の使い方を学びました。その後、一人ひとりが自らカードに手順を記入し、また、普及や活用について意見交換を行いました。

○第１部　ワークショップ「災害・避難カードを書いてみよう」
・これまでの勉強会のふり返り
・私の避難タイミングの検討　等
○第２部　ワークショップ「災害・避難カードの活用について」
・災害・避難カードの活用について

(2)下呂市金山第一区

①地区の特徴

平成 30 年 7 月豪雨では、大雨特別警報が発令されているなか、累計雨量 504mm、時間最大雨量 108mm を記録し馬瀬川が増水。国道 41 号につながる県道の妙見町陸閘が閉鎖されたことで集落が孤立しました。さらに、岩屋ダムの異常洪水時防災操作実施による馬瀬川の更なる増水の可能性が高まるなか、また、複数の谷から土砂が流出し県道の一部が埋塞するなか、自治会や消防団による各戸への声掛けのもと、限られた避難経路をたどり、多くの人が避難することとなりました。

地区の世帯数は 127 世帯。従前より、区長をはじめ、民生児童委員や自主防災会長、各班長等により構成される自主防災組織があり、緊急時の体制があるなか、一人ひとりが避難の手順を考えることでその実行力を高めるため、当取組みを実施いました。

②実施内容

【第１回勉強会】

日　時：平成 31 年 1 月 16 日（水）19:00～21:30
場　所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室 他
参加者：31 人

関市上之保川合下の実施内容に同じ。

○第１部 ガイダンス「本日の勉強会について」
・開催趣旨の説明
・全体的な検討スケジュールの説明
・本日の勉強会についての説明

○第２部 ワークショップ「安全に避難するためには（7 月豪雨災害のふり返り 等)」
・7 月豪雨災害のふり返り
・とったらよかったと思う避難行動
・ほかのグループの「ふり返り」確認

○第３部 講義「一人ひとりが考えて決める避難手順」

【第２回勉強会】

日　時：平成 31 年 2 月 3 日（日）9:30～12:00
場　所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室　他
参加者：36 人

地域に潜む危険を具体的に知るため、まち歩きを実施。災害時に危険な場所、避難を阻害する要因となるものを確認し、災害が発生する前に早めの避難するこ

との重要性を認識しました。子供から年配の方までが参加し、避難の目安となる事象を話し合うことで、次世代への語り継ぎの場にもなりました。

○第１部　講義「次の大雨への備え ～危険と課題～」
・第１回勉強会のふり返り
・一人ひとりが考えて決める避難手順
・自分の地域に予想される危険について
○第２部　まち歩き「地域に潜む危険を知る」
・まち歩きの手順説明
・まち歩き実施
・まち歩きを踏まえた意見交換

【第３回勉強会】
日　時：平成 31 年２月 24 日（日）9:30～12:00
場　所：金山町 健康館･保健センター １階 栄養指導室
参加者：33 人
関市上之保川合下の実施内容に同じ。

○第１部　ワークショップ「災害・避難カードを書いてみよう」
・これまでの勉強会のふり返り
・私の避難タイミングの検討　等
○第２部　ワークショップ「災害・避難カードの活用について」
・災害・避難カードの活用について

2. 勉強会資料

（1）関市上之保川合下

【第１回勉強会】

・次第 …… P.73
・資料１　一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について…… P.74
・資料２　本日の勉強会について …… P.76
・資料３　大雨時の避難に必要な“所要時間”を計算しよう…… P.89
・参加者アンケート …… P.91
・とったらよかったと思う避難行動（意見交換の結果） …… P.93
・参加者の感想…… P.95
・事務局資料…… P.97

【第２回勉強会】

・次第 …… P.103
・資料１　一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について…… P.74（再掲）
・資料２　本日の勉強会について …… P.104
・資料３　第１回勉強会のふり返り（実施結果の概要） …… P.116
・資料４　関市上之保地区 まち歩き用地図…… P.118
・参加者アンケート …… P.119
・まち歩きを踏まえた気付き（意見交換の結果） …… P.121
・参加者の感想…… P.122
・事務局資料…… P.125

【第３回勉強会】

・次第 …… P.143
・資料１　一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について…… P.74（再掲）
・資料２　第１回、第２回勉強会のふり返り（実施結果の概要）…… P.144
・資料３　関市上之保地区 災害・避難カード …… P.148
・資料４　非常持出品リスト…… P.149
・資料５　「私のまちの危険情報を知るには？」情報の入手方法…… P.150
・参加者アンケート …… P.162
・災害・避難カードの記入例…… P.164
・災害・避難カードの普及・活用（意見交換の結果） …… P.165
・参加者の感想…… P.166
・事務局資料…… P.168

(2)下呂市金山第一区

【第１回勉強会】

・次第 …… P.185
・資料１　一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について…… P.186
・資料２　本日の勉強会について …… P.188
・資料３　大雨時の避難に必要な“所要時間”を計算しよう…… P.201
・参加者アンケート …… P.203
・とったらよかったと思う避難行動（意見交換の結果） …… P.205
・参加者の感想…… P.206
・事務局資料…… P.208

【第２回勉強会】

・次第 …… P.218
・資料１　一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について…… P.186（再掲）
・資料２　第１回勉強会のふり返り（実施結果の概要） …… P.219
・資料３　下呂市金山第一区 まち歩き用地図 …… P.221
・参加者アンケート …… P.222
・まち歩きを踏まえた気付き（意見交換の結果） …… P.224
・参加者の感想…… P.225
・事務局資料…… P.227

【第３回勉強会】

・次第 …… P.242
・資料１　一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について…… P.186（再掲）
・資料２　第１回、第２回勉強会のふり返り（実施結果の概要）…… P.243
・資料３　下呂市金山第一区 災害・避難カード …… P.247
・資料４　非常持出品リスト…… P.248
・資料５　「私のまちの危険情報を知るには？」情報の入手方法…… P.249
・参加者アンケート …… P.263
・災害・避難カードの記入例…… P.265
・災害・避難カードの普及・活用（意見交換の結果） …… P.266
・参加者の感想…… P.267
・事務局資料…… P.168（再掲）

（1）関市上之保川合下

【第１回勉強会】次第

関市上之保地区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第１回）
次　第

日時：平成 30 年 12 月 15 日（土）9:30～12:00
場所：関市上之保生涯学習センター2 階 2-1 会議室

時間	プログラム
9:30～9:40	**開会** ○あいさつ 関市 市長公室 危機管理課　課長 岐阜県 危機管理部 防災課　地域防災支援監 関市自治会連合会　上之保支部　支部長
9:40～10:00	**第１部 ガイダンス「本日の勉強会について」** ○開催趣旨の説明 ○全体的な検討スケジュールの説明 ○本日の勉強会についての説明 岐阜県 危機管理部 防災課
10:00～10:50	**第２部 ワークショップ「安全に避難するためには（７月豪雨災害のふり返り 等)」** ○7 月豪雨災害のふり返り ○とったらよかったと思う避難行動 ○ほかのグループの「ふり返り」確認
10:50～11:00	**休憩**
11:00～11:50	**第３部 講義「一人ひとりが考えて決める避難手順」** ○講義 清流の国ぎふ　防災・減災センター
11:50～12:00	**閉会** ○次回の開催内容の説明

●配布資料リスト
資料１　一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について
資料２　本日の勉強会について
資料３　大雨時の避難に必要な“所要時間”を計算しよう

【第１回勉強会】資料１

資料１

一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について

１　開催目的

平成３０年７月豪雨災害の際に、他県では、地域住民一人ひとりが避難場所などをあらかじめ認識するために作成した「災害・避難カード」が威力を発揮し、人的被害を防いだ事例がありました。

関市においても、多数の浸水被害が発生しており、自然災害の被害軽減のためには、住民自身による適切なタイミングでの避難が極めて重要となります。

そのため、「災害・避難カード」の作成をとおして、地域住民のみなさま一人ひとりが避難方法やタイミング、避難経路などについて話し合い、災害時にどのように行動するかを事前に決めておく取組みを実施します。

２　開催概要

計３回の勉強会を開催し、関市上之保地区における「災害・避難カード」を作成します。

具体的な内容と、各回の開催内容は以下のとおりです。

【第１回目（今回）】　平成３０年１２月１５日（土）

勉強会の主旨やスケジュールなどを説明。お住まいの地区の災害リスクや、地区の防災対策の現状、避難にかかる時間などについて、みなさんと考えます。

【第２回目】　平成３１年１月中旬（予定）

まち歩きを実施し、災害のときに危険な場所、避難所などを確認し、避難場所まで安全に行くことができる経路などを確認します。

【第３回目】　平成３１年１月下旬～２月上旬（予定）

第１、２回のワークショップ踏まえ、一人ひとりが「災害・避難カード」に避難にかかる時間、避難する時期や方法、経路、声掛けする方の氏名などを記入します。

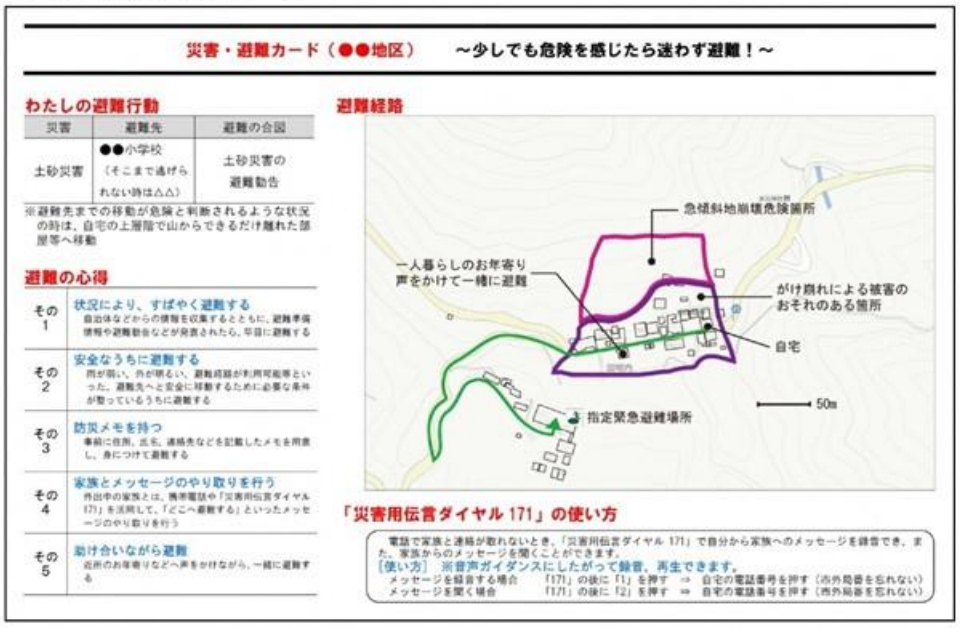
3 災害・避難カードのイメージ

・災害・避難カードとは、災害発生時に、どんな情報をもとに、どの経路で、どこに避難するのか等を一目で分かるようにしたカードです。

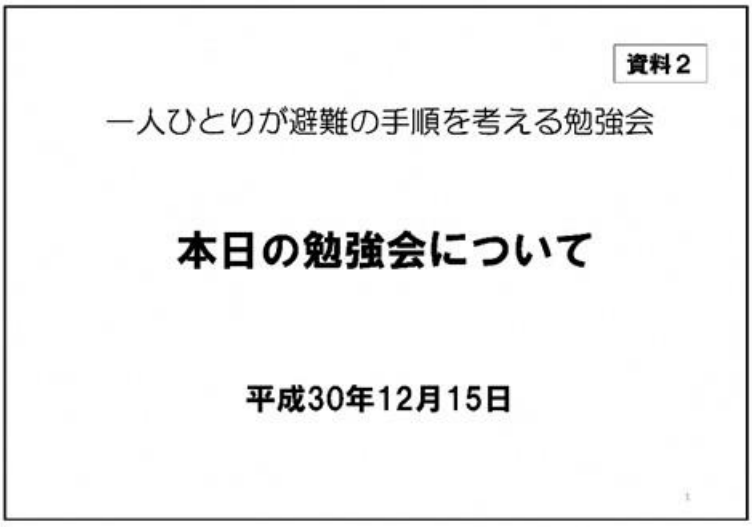
・住民のみなさんが、過去の災害の記憶（情報）、避難経路上の危険箇所、避難するのにかかる時間、必要な防災対策（要配慮者への声かけ等）などを自らの手でカードに記載し、作成していきます。

・作成した「災害・避難カード」は、自宅の冷蔵庫など、普段目にとまる場所に置いておきます。また、今後防災訓練を行う際には、当カードを活用します。

○災害・避難カードのイメージ



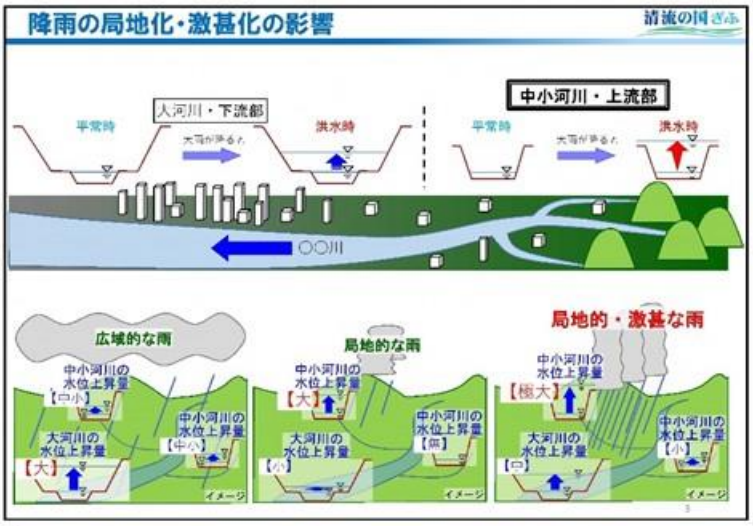
【第１回勉強会】資料２



1

2

1


降雨の局地化・激甚化の影響
清流の国ぎふ
大河川・下流部
中小河川・上流部
平常時
洪水時
○○川
広域的な雨
局地的な雨
局地的・激甚な雨
中小河川の水位上昇量
大河川の水位上昇量
【小】
【中小】
【大】
【小】
【極大】
【小】
イメージ

3

降雨の局地化・激甚化の影響
清流の国ぎふ
関市
行合雨量局
上之保水位局
関市上之保
川合下地区

4

降雨の局地化・激甚化の影響

5

土砂災害

6

3

土砂災害の種類
清流の国ぎふ
土石流
谷から、土、石、木などが、大雨による水といっしょになって、一気に流れてくる現象。
（およそ時速40～50km）
土石流のおそれのある箇所
約6，500箇所
がけ崩れ
大雨や地震により、"がけ"が突然、崩れ落ちる現象。
がけ崩れのおそれのある箇所
約8，400箇所
地すべり
大雨により、地面が広い範囲にわたりゆっくりと動き出すものをいいます。
地すべりのおそれのある箇所
約100箇所
岐阜県内の土砂災害警戒区域数 約15，000箇所

7

土砂災害の前ぶれと呼ばれる現象
清流の国ぎふ
時間的切迫性
★土石流
流水の異常な濁り
流木発生
渓流内の転石の音
山鳴り・地鳴り
水位の急激な低下
土石流発生
★がけ崩れ
湧水量の増加
小石がばらばら落下
湧水が濁り
小石がぼろぼろ落下
亀裂の発生
がけ崩れ発生
★地すべり
湧水量の増加
井戸水の濁り
亀裂の発生
山鳴り・地鳴り
地すべり発生

8

4

土砂災害防止法

清流の国ぎふ

土砂災害から住民の生命を守るために、
土砂災害が発生する恐れがある区域を明らかにし、
警戒避難体制の整備や一定の行為の制限を行う法律です。

基礎調査の実施
岐阜県が土砂災害により被害を受けるおそれのある場所の
地形や地質、土地の利用状況などを調査

土砂災害警戒区域の指定
通称：イエローゾーン
（土砂災害のおそれがある区域）

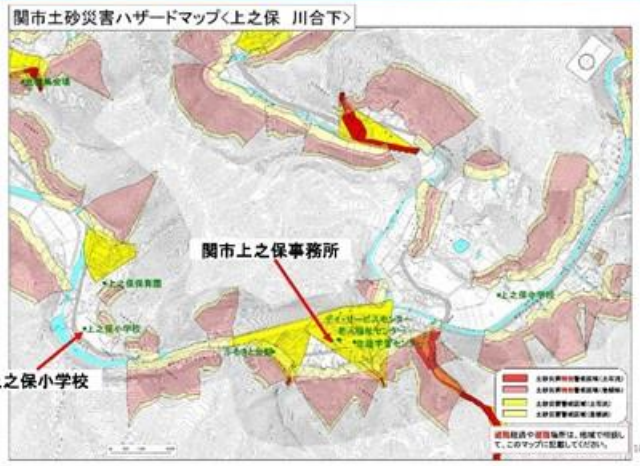
土砂災害特別警戒区域の指定
通称：レッドゾーン
（建築物損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域）

9

土砂災害の危険性を表すマップ

清流の国ぎふ

関市土砂災害ハザードマップ〈上之保　川合下〉



10

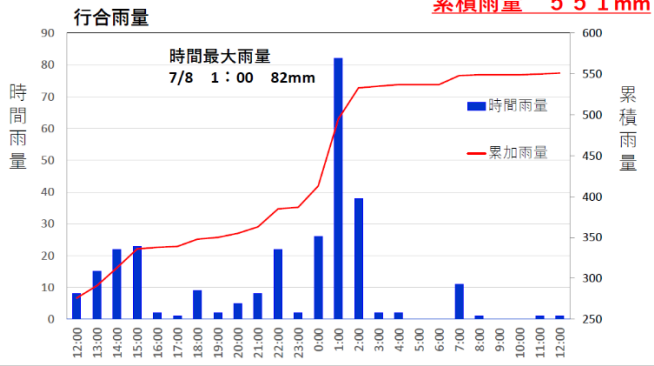
5

7月豪雨時の土砂災害の危険性

清流の国ぎふ

当時、累積雨量280mmの段階で、「土砂災害発生の危険性の基準」を超過していた。
２４時間の累積では「土砂災害発生の危険性の基準」の超過時の約２倍の雨量を記録していた。

累積雨量　５５１mm



11

7月豪雨時の土砂災害例（近隣の災害）

清流の国ぎふ

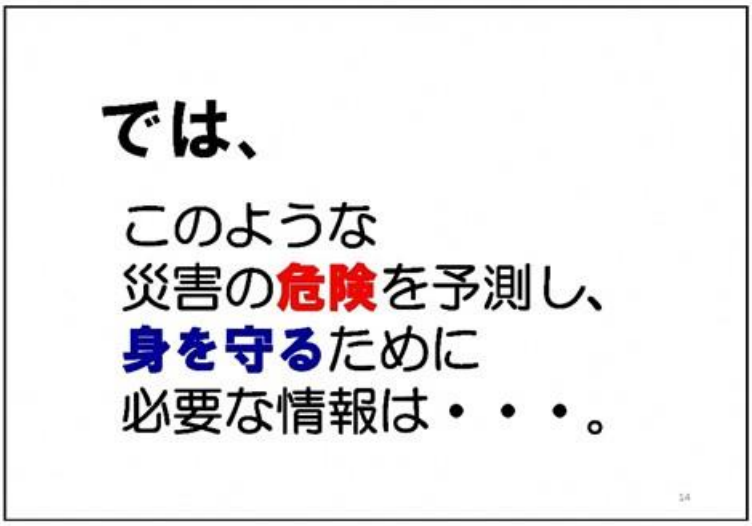
7月8日発生　土石流災害　家之洞（岐阜県郡上市八幡町小那比）

12

6

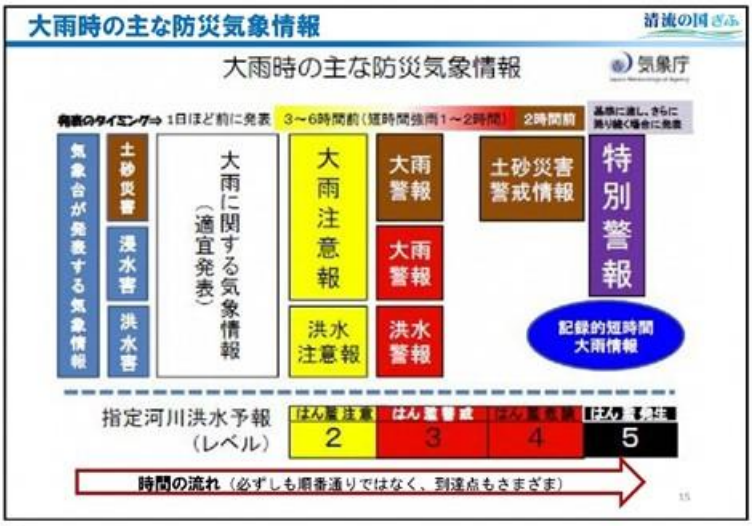
7月豪雨時の土砂災害例（近隣の災害）
清流の国ぎふ
7月8日発生　土石流災害　家之洞（岐阜県郡上市八幡町小那比）
①谷部の崩落
②市道への土砂流入
③土砂氾濫
④家屋への土砂流入
11

13

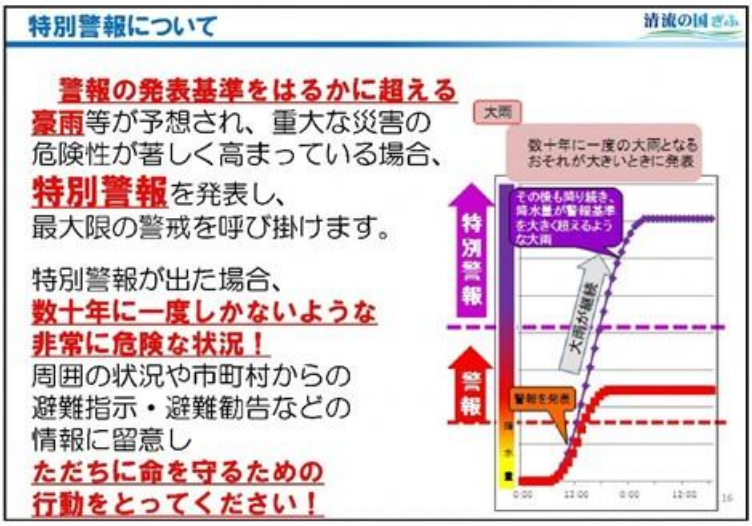

では、
このような
災害の危険を予測し、
身を守るために
必要な情報は・・・。
14

14

7


大雨時の主な防災気象情報
清流の国ぎふ
大雨時の主な防災気象情報
気象庁
発表のタイミング⇒ 1日ほど前に発表
3～6時間前（短時間強雨1～2時間）
2時間前
気象台が発表する気象情報
土砂災害
浸水害
洪水害
大雨に関する気象情報（適宜発表）
大雨注意報
洪水注意報
大雨警報
大雨警報
洪水警報
土砂災害警戒情報
特別警報
記録的短時間大雨情報
指定河川洪水予報（レベル）
2
3
4
5
時間の流れ（必ずしも順番通りではなく、到達点もさまざま）

15


特別警報について
清流の国ぎふ
警報の発表基準をはるかに超える
豪雨等が予想され、重大な災害の
危険性が著しく高まっている場合、
特別警報を発表し、
最大限の警戒を呼び掛けます。
特別警報が出た場合、
数十年に一度しかないような
非常に危険な状況！
周囲の状況や市町村からの
避難指示・避難勧告などの
情報に留意し
ただちに命を守るための
行動をとってください！
大雨
数十年に一度の大雨となるおそれが大きいときに発表
特別警報
警報
大雨が継続
警報を発表

16

各市町村が発令する避難情報

清流の国ぎふ

避難情報の種類	発令時の状況	住民がとるべき避難行動	発令基準（市町村ごとの基準例）
避難準備・高齢者等避難開始	・人的被害の発生する危険性が高まった状況	・避難行動要支援者など、避難に時間を要する方（高齢者、障がい者、乳幼児を含む家族など）は、指定緊急避難場所などへの避難を開始 ・上記以外の方は、気象情報に注意し、非常用持出袋の用意などの避難準備を開始	・大雨警報（土砂災害）が発表され、土壌雨量指数が高まったとき ・河川水位が避難判断水位に到達したとき（はん濫警戒情報）
避難勧告	・人的被害の発生する危険性が明らかに高まった状況	・まだ避難行動を開始していない全ての住民が指定緊急避難場所などへの避難を開始	・土砂災害警戒情報が発表された時 ・河川水位がはん濫危険水位に到達したとき（はん濫警戒情報）
避難指示（緊急）	・人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況	・確実な避難を完了（まだ避難をしていない住民は、直ちに避難）	・上記の基準を上回る危険性が確認されたとき

17

17

7月豪雨時は、
避難指示（緊急）のみ発令。

- 下之保観測所の水位が基準。
- 基準水位がない河川あり（中小河川）。
- 中小河川は水位上昇が急。

18

18

9

新たな取組み

中小河川でも
避難情報を発令できるよう
基準を追加。

19

19

避難判断のための新たな取組み

清流の国ぎふ

1．中小河川における
避難判断参考水位の設定。
・県内４２２の一級河川に**危機管理型水位計**を設置。
・津保川に３箇所、小那比川に１箇所、新たに設置。

2．洪水警報の**危険度分布図**の確認。
・３時間先の洪水予想。

3．現地の**情報収集体制**の強化
・消防・水防団からの情報収集　など

20

20

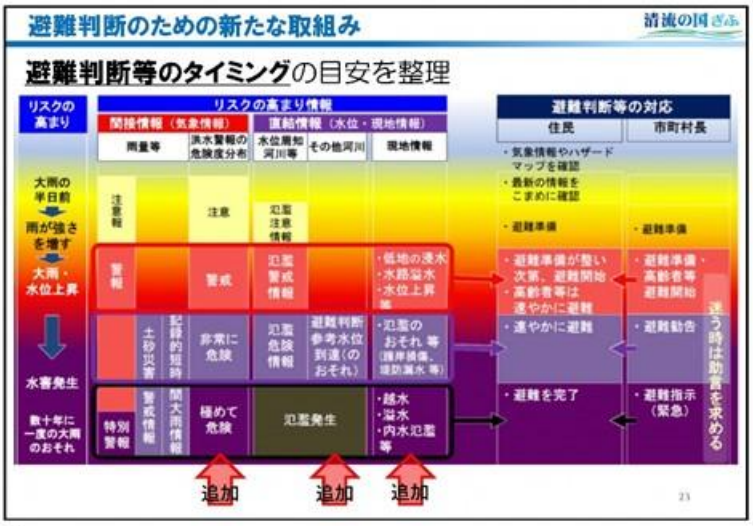
10

避難判断のための新たな取組み
清流の国ぎふ
危機管理型水位計を新たに設置
津保川
上之保鳥屋市
小那比川
上之保向島橋
津保川
上之保正洞橋
上之保水位局
津保川
上之保川合下
21

21

避難判断のための新たな取組み
清流の国ぎふ
洪水警報の危険度分布図の確認
※気象庁ＨＰより
22

22


避難判断のための新たな取組み
清流の国ぎふ
避難判断等のタイミングの目安を整理
リスクの高まり
リスクの高まり情報
関接情報（気象情報）
直結情報（水位・現地情報）
雨量等
洪水警報の危険度分布
水位周知河川等
その他河川
現地情報
避難判断等の対応
住民
市町村長
・気象情報やハザードマップを確認
・最新の情報をこまめに確認
大雨の半日前
雨が強さを増す
大雨・水位上昇
水害発生
数十年に一度の大雨のおそれ
注意報
注意
氾濫注意情報
・避難準備
・避難準備
警報
警戒
氾濫警戒情報
・低地の浸水
・水路溢水
・水位上昇
・避難準備が整い次第、避難開始
・高齢者等は速やかに避難
・避難準備・高齢者等避難開始
土砂災害
記録的短時
非常に危険
氾濫危険情報
避難判断参考水位到達（のおそれ）
・氾濫のおそれ 等（護岸損傷、堤防漏水 等）
・速やかに避難
・避難勧告
特別警報
警戒情報
関大雨情報
極めて危険
氾濫発生
・越水
・溢水
・内水氾濫等
・避難を完了
・避難指示（緊急）
逃う時は助音を求める
追加
追加
追加
23

23

しかし、
それだけでは限界。
取組を始めたばかり・・・
予測にも限界がある・・・
24

24

12

一人ひとりが
避難を考える取組み
自分の生活環境などをふり返り、
一人ひとりが避難の手順について考え、
どう行動するのかあらかじめ決めておく。
それが今回の取組み
25

25

13

【第１回勉強会】資料３

地区名＿＿＿＿＿＿　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿　資料３

大雨時の避難に必要な“所要時間”を計算しよう

- 大雨時避難の活動手順を整理します
- 『早めの避難』とは『スピード速く』ではなく、『タイミング早く』であることを理解して下さい

① 安全な所はどこですか？

② 片道何分ですか？(通常)　(徒歩)＿＿＿分　(車)＿＿＿分

③ 片道何分ですか？(豪雨時)　(徒歩)＿＿＿分　(車)使用不可

④ 避難を決断してから家を出るまでに何分必要ですか？　＿＿＿＿分

⑤ 避難を決断してから、安全な所に無事辿り着くまでに何分かかりますか？

②+④	②+④	③+④
(徒歩)＿＿＿分	(車)＿＿＿分	(豪雨時)＿＿＿分

■時間雨量が 20mm を越えると、屋外は危険

⑥ 持ち物は？

合計 ＿＿＿＿＿ kg

1

要支援者の支援手順と所要時間も整理しよう

⑦ 要支援者にとっての安全な所はどこですか？

⑧ 要支援者はどこにいますか？	
どなたですか？	さん
⑨ 気象情報の入手方法は？	
⑩ 避難開始を決断する目安は？	
⑪ 不安と感じる現象は？(複数)	
⑫ 避難開始を誰が決断しますか？	さん
⑬ 誰が避難開始を連絡しますか？	さん
⑭ 誰に避難開始を連絡しますか？	さん
⑮ 連絡手段は？	
⑯ 第二の連絡手段は？	
⑰ 安全な所の解錠手順は？	
⑱ 安全な所の解錠担当者は？(複数名)	さん　さん　さん
⑲ 避難手段は(徒歩、誰の車)？	
㉑ 避難ルートは？	

㉒ 命を守る為に必要な総所要時間（決断⇒連絡完了⇒避難準備完了
⇒安全な所の解錠完了⇒避難開始⇒避難中⇒全員の避難完了）は？

約　時間　分

㉓ 先送りや時間切れの原因は？

2

【第１回勉強会】参加者アンケート

一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第１回）
参加者アンケート

本日の勉強会で感じたことなどについて、ご記入をお願いいたします。
今後の参考とさせていただきます。

(1) 最初に、普段からの備えについて教えてください。

①ご自身が避難する避難場所を知っていますか。
知っていた ←　→ 知らなかった

②土砂災害や洪水のおそれがある場合、家族で避難場所や避難行動の方法を決めていますか。
はい ←　→ いいえ

③ハザードマップを確認したことがありますか。
はい ←　→ いいえ

(2) 次に、下記の各項目に対し、ご自分の感想と近い項目に○をつけてください。

①第１回勉強会の時間はどうでしたか。
短い ← ちょうどよい → 長い

②配布資料はどうでしたか。
わかりやすい ← どちらとも言えない → わかりにくい

③会場全体に掲示した資料や各テーブルに配置した資料はわかりやすいものでしたか。
わかりやすい ← どちらとも言えない → わかりにくい

④説明の時間はどうでしたか。
短い ← ちょうどよい → 長い

⑤ガイダンス「本日の勉強会について」の内容はいかがでしたか。
わかりやすい ← どちらとも言えない → わかりにくい

⑥ワークショップ「安全に避難するためには（7 月豪雨災害のふり返り 等）」の内容はいかがでしたか。

わかりやすい ← どちらとも言えない → わかりにくい

⑦講義「一人ひとりが考えて決める避難手順」の内容はいかがでしたか。

楽しかった ← どちらとも言えない → つまらなかった

⑧いつまでに避難を完了するのがよいか分かりましたか。

はい ← どちらとも言えない → いいえ

⑨土砂災害や洪水に関することについて、知識が身につきましたか。

高まった ← どちらとも言えない → 高まらなかった

⑩第１回勉強会に参加したことで、防災の取組に対する意欲は高まりましたか。

高まった ← どちらとも言えない → 高まらなかった

(3) 最後に、今後情報提供して欲しいこと、第１回勉強会の印象や質問、地域で活動されていることなど、何でも自由にご記入ください。

性別　男性・女性

年代　20 代・30 代・40 代・50 代・60 代・70 代・80 代・90 代以上

地区　大之田・棚井・竹之腰・横腰

お名前　（　　） ※お名前のご記入は任意です。

ご協力ありがとうございました。お帰りの際にご提出ください。

【第１回勉強会】とったらよかったと思う避難行動（意見交換の結果）

①当時の行動やできなかったこと

・両隣の家に避難の呼びかけをした
・午前２時頃、自治会長へサイレンを鳴らすように話しに行った
・午前１時 40 分頃、隣の家に声をかけて避難を開始した。軽トラ等を高台に移動した
・今まで経験したことがない水がきていたので避難所へ避難した
・３日前から妻と交代で確認をしており、当日も 0 時前に気象庁レーダーをスマートフォンで確認していた。
・家の中に水が流れ込んできたため、午前２時頃に家の天井を破り、そこに掴まって耐えた。
・雨が４日間続いたことで危険を感じた。
・市のメールを見たが、上之保地区は安心だと思って油断していた。
・警報があってから、２階から１階に行ったところ玄関の中に水が１０センチくらい来ていたため、床上のものを机の上に上げた。
・午前１時 50 分頃、水が家の中に入り、大切なものをバッグに入れて家から出た。膝まで水が来ていたため、裏庭の石垣を上がって避難した。
・川を車が流れていったため、避難が難しいと思い自宅にいた。
・友達からのメールがきっかけで、何も持たずに避難所へ逃げた。
・消防から呼びかけを受けて、とりあえず逃げた。他の人を助けに行けなかった。
・7/7 当日は朝からの降雨はあまり気にならない程度だった。また、特別警報が発令されていたが、水位は普段より１m程の増水を夜 10 時頃まで繰り返していた。1 時 50 分頃、1 km ほど下流の地域に嫁いだ娘から「道路に水がついた」と連絡を受け、自宅玄関を開けたところ、すでに水が玄関内に入ってきていた。（道路は激流となっていた）
・泥水に気づいた時、すでに道路は激流で近隣の避難状況を確認することなどできない状況であり、家族を裏庭から 1.5m程の高台へ石垣を登らせ避難させた。自分は向いの家（平屋）の避難を自宅側から電灯を振り大声を出しながら確認した。取り残されていることが判明し、助けを呼んでくる旨を大声で叫び、1.5m程の石垣を登り、学習センター敷地にいた消防団に助けを求め一緒に戻ったが、すでに水位は道路上で、1.5m以上に増水しており、救助できなかった。
・車が川を流れて行ったので「もう自分たちは道を渡れない」と思い自宅にいた。
・サイレンで気づいた時には道路に水が流れ、車も流されていたため、自宅の２階へ逃げるしかなかった。

・自宅の２階へ避難したため水がひくまでは下りられなかった
・戻ってきて畳を上げていたころ、電気が消えて何もできずに２階へ移った。
・午前 2:00 頃、避難の時に胸まで水がつき、素足で避難した。
・午前 1:00 に就寝した後サイレンが鳴り、家の中に水が入ってきた。水がひざ下まできたため、避難の準備をするが、非常持ち出し袋を持って避難する頃には外の水は胸まで来ていた。
・自家用車にて避難所への避難をしようと思ったが、危険を感じ家の２階に避難した。
・午前 1:37　家の前からも、裏からもいきなり水が家に入ってきたので、母と自分が逃げることしか考えられなかった。
・午前 1:37　自宅でテレビを見ていたら停電してすぐに警報がなった。このとき既に泥水が家に入ってきていた。眠っていた母を起こして家の２階へ避難させ、２階に上がった。
・情報収集する行動を起こせなかった。

②命を守る具体的な気づき

・早めの避難が必要。個人だけでなく上之保全体の意識を変えないといけない。
・携帯電話、スマホでの情報入手方法について、わかりやすく書面で伝えてほしい。
・早めの準備が必要だと感じた。
・天気予報を早めに見る。
・警報が出ていたのは知っていたが、武芸川地域のことだと思い込みがあった。
・体調を悪くしている人などの事も、今一度考えたい
・とにかく避難は早めに自主避難、自己判断を行う。行政をあてにしない。
・地域に設置されている水位計を活用するための講習会があると良い。
・近所や周りで呼びかけ合いが必要だと思った。
・過信せず、早めの行動を取ることが大切かと思う。

【第１回勉強会】参加者の感想

関市上之保地区　第1回WSアンケート集計　　回答件数：24

(1) 最初に、普段からの備えについて教えてください。

①ご自身が避難する避難場所を知っていますか。

知っていた	23
知らなかった	1

②土砂災害や洪水のおそれがある場合、家族で避難場所や避難行動の方法を決めていますか。

はい	18
いいえ	6

③ハザードマップを確認したことがありますか。

はい	13
いいえ	11

(2) 次に、下記の各項目に対し、ご自分の感想と近い項目に○をつけてください。

①第1回勉強会の時間はどうでしたか。

短い	5
ちょうどよい	18
長い	1

②配布資料はどうでしたか。

わかりやすい	19
どちらとも言えない	4
わかりにくい	0

③会場全体に掲示した資料や各テーブルに配置した資料はわかりやすいものでしたか。

わかりやすい	19
どちらとも言えない	4
わかりにくい	1

④説明の時間はどうでしたか。

短い	0
ちょうどよい	23
長い	0

⑤ガイダンス「本日の勉強会について」の内容はいかがでしたか。

わかりやすい	23
どちらともいえない	0
わかりにくい	0

⑥ワークショップ「安全に避難するためには（7月豪雨災害のふり返り 等）」の内容はいかがでしたか。

わかりやすい	20
どちらともいえない	4
わかりにくい	0

⑦講義「一人ひとりが考えて決める避難手順」の内容はいかがでしたか。

楽しかった	17
どちらとも言えない	6
つまらなかった	0

⑧いつまでに避難を完了するのがよいか分かりましたか。

はい	22
どちらとも言えない	1
いいえ	0

⑨土砂災害や洪水に関することについて、知識が身につきましたか。

高まった	23
どちらとも言えない	1
高まらなかった	0

⑩第１回勉強会に参加したことで、防災の取組に対する意欲は高まりましたか。

高まった	22
どちらとも言えない	2
高まらなった	0

(3) 最後に、今後情報提供して欲しいこと、第1回勉強会の印象や質問、地域で活動されていることなど、何でも自由にご記入ください。

大変有意義な勉強会で、ありがとうございました。
早めの避難が必要と思うが、その時の状況とかを考えてしまうので、その意識を変えないといけないが、上之保全体を変えないといけない。作業したいので夜の勉強会がいい。
私は被災者ではないのですが、勉強になりました。
思ったより熱の入った勉強会でした。何事も世間が支えてくれる事を願います。もちろん個人もそれ以上に努力しますが。
携帯電話、スマホでの情報入手方法について、わかりやすく書面で伝えてほしい。
今後の関市の情報（取り組み）
村岡先生のお話は、具体的でポイントをしぼった話で、避難の判断の大切さが良くわかった。また、やること（行動）が具体的で何をどのように考えれば良いかがわかった。河川災害、土砂災害のメカニズムと避難情報の状況、また各自が避難判断することの重要性が理解できた。今回のことは、より多くの人に知っていただけるとよいと思った。
体調を悪くしている人などの事を今一度考えたい
とにかく避難は早めに自主避難、自己判断。行政をあてにしない。
大之田水位計の活用の講習会があると良い。
情報を早くもらいたい。
大変勉強になった。今後ともよろしくお願いします。
もっと多くの人に参加してほしかった。
地域以外の人も参加してほしい。
雨が降っている様子。
もっと多くの人が参加してほしかった。資料は両面コピーでない方が良い。見ずらいから。講義、村岡先生の話は参考になった。
勉強会の必要性がわかった。

性別

男性	10
女性	13

年代

20代	0
30代	0
40代	0
50代	1
60代	12
70代	7
80代	2
90代以上	0

地区

大之田	3
棚井	17
竹之腰	0
横腰	1
その他	1 ※行合

【第１回勉強会】事務局資料

関市上之保地区

第１回　一人ひとりが避難の手順を考える勉強会　進行表

2018.12.14版

◆開催場所、日時

・日時：平成３０年１２月１５日（土）９：３０～１２：００

・場所：関市上之保生涯学習センター　２階 2-1 会議室

◆次第

9:30　開会

9:40　ガイダンス「本日の勉強会について」

10:00　講義「安全に避難するためには（７月豪雨のふりかえり　等）」

10:50　休憩

11:00　ワークショップ「一人ひとりが考えて決める避難手順」

11:50　まとめ

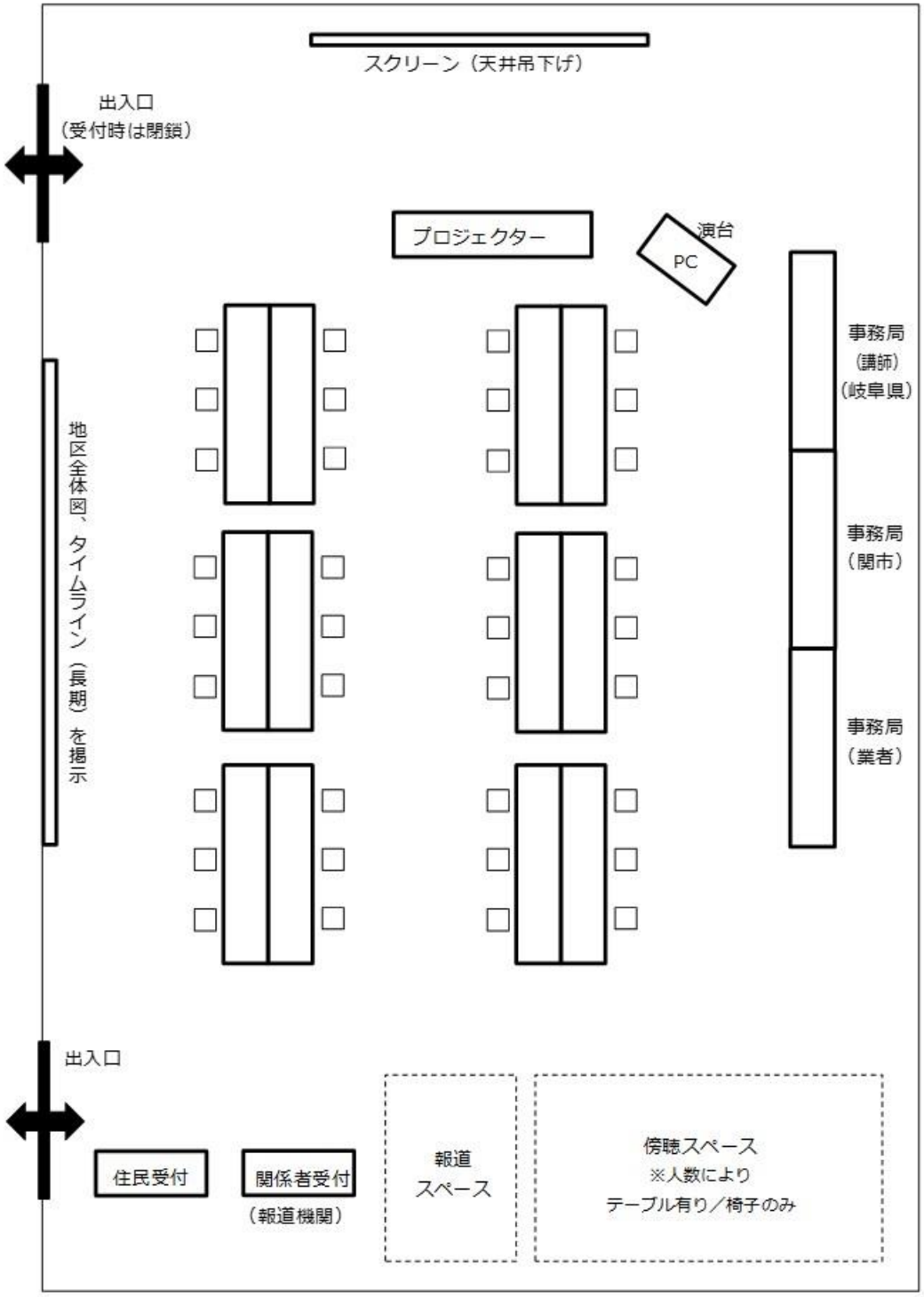
１ プログラム

	時間	内容	備考	担当
	8：30～9：00	準備 机を６グループ分並べる 地区ごと（３つ）×２を基本 １グループにつきイスを６～８脚程度想定参加者数によって椅子の数を増やす	■受付に配置 ・名簿、資料など ■壁やホワイトボードに掲示 ・地図（地区全体） ■各机に配置 ・タイムライン（短） ・地図（地区ごと） ・フセン（大、小）、マーカー、ボールペン	業者 受付：市、業者
	9：00～9：30	受付		
	9：30～9：40 （10分）	① 開会 ② あいさつ（市→県→自治会）	・開会など全体的な進行は業者 ・県、市、区長があいさつ	①業者 ②県、市、自治会
	9：40～10：00 （20分）	**ガイダンス「本日の勉強会について」** ① 事務局紹介 （講師→県→市→業者） ② 開催趣旨の説明 ③ 全体的な検討スケジュールの説明 ④ 本日の勉強会についての説明（岐阜県）	●資料等 ・説明パワーポイント	①県 ②県 ③県 ④県

	10：00～10：50 （50 分） ①35 分 ②15 分 （時間は、状況を見ながら調整）	**安全に避難するためには（７月豪雨のふりかえり）** ①　・当時の避難の状況をふりかえり、水位や状況をフセンで記載（事柄、時刻、規模、危険性など） ② 課題の抽出 ・とったらよかったと思う行動は？（命を守るために必要だと思った行動を記入してもらう）	●資料等 ・地図（地区全体、地区別） ・写真 ・タイムライン（短） ■１テーブルに１人以上ずつ補助をつけて、進行や記入を手助けする。 ■タイムライン（長）は、講師の指示で壁に掲示する	県、市、講師
	10：50～11：00	**休憩**		
	11：00～11：50 （50 分） 11：50～12：00 （10 分）	**一人ひとりが考えて決める避難手順** ・「安全に避難するには」を踏まえ、避難に必要な手順、時間を考える **まとめ** ①次回の開催内容の説明 ②閉会	●資料「大雨時の避難に必要な“所要時間”を計算しよう」	講師 ①県 ②業者

2 第１回勉強会の開催に向けて

(1) 会場レイアウト（関市上之保生涯学習センター2 階 2-1 会議室）



(2) 準備物など

項目	準備物等	備考	数量	担当
配布資料（個人）	次第	A4 版片面	70 部	
	事業概要資料	A4 版両面	70 部	
	本日の勉強会について（パワーポイント資料 2in1 印刷）	A4 版両面	70 部	
	大雨時の避難に必要な“所要時間”を計算しよう	A4 版両面	70 部	
	第 1 回アンケート	A4 版両面	70 部	
	封筒 A3	A3	70 部	
配布資料（テーブル）	浸水箇所位置図（①～⑥をプロットしたもの）	A3 版	8部	
	浸水状況記入図（①～⑥のクリアファイル入り写真）	A4 版	8部	
	地区詳細図（横腰、竹之腰）	A1 版	各 2 部	
	地区詳細図（大之田）	A1 版	4部	
	タイムライン（短期）	A1 版	8部	
会場掲示資料	地区全体図（白図、警戒区域入図）	A0 版	2 部	
	タイムライン（長期）	A0 版横長	1 部	
その他（テーブル）	記入用ボールペン（ジェットストリーム 0.7mm）	–	70 本	
	浸水状況記入用油性ペン（マッキー細･極細）	–	12 本	
	地区詳細図記入用マーカーペン（プロッキー10 色）	–	6 ｾｯﾄ	
	75mm×75mm ふせん（パステルカラー）	–	6 ｾｯﾄ	
	75mm×25mm ふせん（パステルカラー）	–	6 ｾｯﾄ	
その他（会場）	名簿（参加者用、関係者用）	A3 版	2部	
	名簿記入用ボールペン（ジェットストリーム 0.7mm）	–	2 本	
	会場案内図（生涯学習センター1 階等での案内用）	A3 版	1 ｾｯﾄ	
	設営道具（テープ、ピン、ごみ袋など）	–	–	
	Ａ４用紙（メモ用）	Ａ４判	100 枚	
	Ａ３用紙（メモ用）	Ａ３判	100 枚	
	Ａ０判模造紙（抽出した課題を貼りだすため）	Ａ０判	10 枚	
その他（電子機器等）	ノート PC	–	1 台	
	プロジェクター	–	1 台	
	ケーブル	–	1 本	
	延長コード	–	1 台	
	差し棒	–	1 本	
	デジタルカメラ	–	1 台	
	カードリーダー	–	1 台	
	レーザーポインタ（スクロール機能付き）	–	1 台	
	IC レコーダー	–	1 台	
その他	アンメルツまたはベンジン（油性ペンを消すためのもの）	–	1 本	
	お茶	–	100 本	
	カイロ	–	100 枚	

3　ワークショップの行動

安全に避難するには（7月豪雨のふり返り　等）

1．発災時の被害状況変遷ならびに住民による行動(情報収集、声掛け、避難行動など)を正方形付箋に記入し、配布した地図に貼る。
また、クリアファイルに入った各地点の写真に、クリアファイルの上から冠水の状況を図示する。（１５～２０分間）

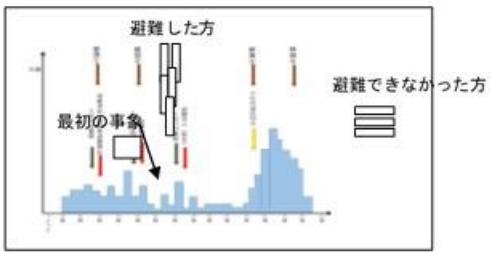
【地区】横腰、竹之腰、大之田・棚井

【方法】１）災害について（○色）
・付箋に記入する内容・・・事象、時刻、規模や範囲、
危険性（不安、通行困難、命にかかわる）
・進行は発生した順序にこだわらなくても良い。
・事象が発生した付近に貼り、範囲をペンで図示する。
・最も早く発生した事象に○印をつける。

２）避難行動について（○色）
・命を守るために必要と思った行動(情報収集、声掛け、避難行動など)を記入。
例：気づいたら道路を水が流れていたので、２階に避難した。
隣近所に声掛けをして一緒に避難所まで避難した。　等
・地図の端に貼っていく。

【注意点】　参加者はグループワークに不慣れであることが予想されるので、
記入を逐一促すこと(貴重な情報を会話で終わらせず、記録すること)
どうしても、記録が残らない状況に陥れば、スタッフが代筆することも必要

2．タイムラインに整理したイベントの中で、最初に発生した災害を四角付箋に転記し、
Ａ１版のタイムライン上の発生時刻に貼る。
また、参加者の地区名・氏名を縦付箋に記入し、Ａ１版のタイムライン上の避難行動を開始した時刻の位置に貼る。避難できなかった方は欄外にそろえて貼る。（5～１０分）



3．「とったらよかったと思う行動(情報収集、声掛け、避難行動など)」について付箋に記入し、Ａ１版の白紙の模造紙に貼る。（１５分）

4．参加者が一斉にほかの席の「ふり返り」を確認しに行く。スタッフは担当テーブルに残り説明。（５分）

ワークショップ終了。
１０分間の休憩。

5．各テーブルのスタッフが、それぞれの地区における「最初に確認された事象」及び「上之保小学校までの避難が困難になる事象」を、ひとつなぎの地図（Ａ０版）に正方形付箋（新たに記入）と引き出し線で記入。

講師の講義へ

【第２回勉強会】次第

関市上之保地区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第２回）
次 第（案）

日時：平成 31 年 1 月 26 日（土）13:30～16:00
場所：関市上之保生涯学習センター1 階 多目的ホール他

時間	プログラム　※第１部は勉強会参加者以外も聴講可
13:30～13:35	**開会** ○あいさつ（5 分） 関市 市長公室 危機管理課　課長 岐阜県 危機管理部 防災課　地域防災支援監 関市自治会連合会 上之保支部　支部長
13:35～14:30	**【第１部】講義「次の大雨への備え ～危険と課題～」** ○勉強会の概要説明（5 分） 岐阜県 危機管理部 防災課　地域支援係長 ○講義（50 分） ・第１回勉強会のふり返り ・自分の地域に予想される危険について ・一人ひとりが考えて決める避難手順 清流の国ぎふ 防災･減災センター
14:30～14:40	**休憩**
14:40～15:55	**【第２部】まち歩き「地域に潜む危険を知る」** ○まち歩きの手順説明（5 分） ○まち歩き（45 分） ○まち歩きを踏まえた意見交換（25 分） 清流の国ぎふ 防災･減災センター
15:55～16:00	**閉会** ○第３回勉強会の開催内容の説明（5 分）

<配布資料>
次第
資料１　関市上之保地区 一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について
資料２　第１回勉強会のふり返り
資料３　関市上之保地区 まち歩き用地図
参加者アンケート

【第２回勉強会】資料２

資料２

一人ひとりが避難の手順を考える勉強会

本日の勉強会について

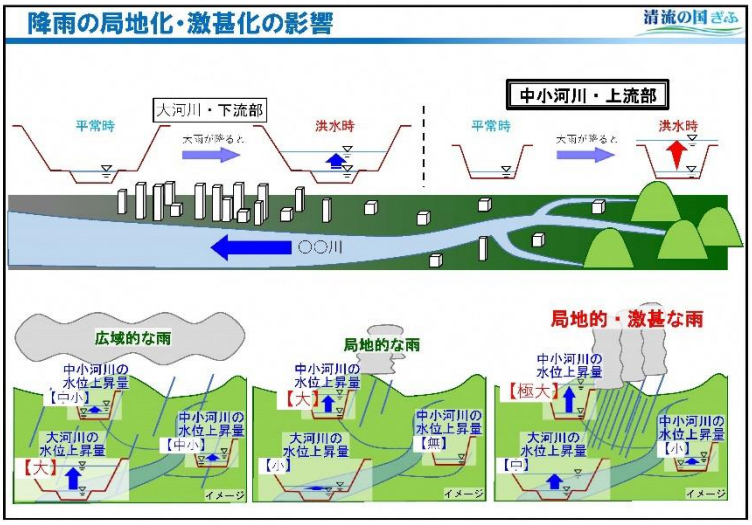
平成31年1月26日

1

河川災害

2

1


降雨の局地化・激甚化の影響
清流の国ぎふ
大河川・下流部
中小河川・上流部
平常時
洪水時
大雨が降ると
○○川
広域的な雨
局地的な雨
局地的・激甚な雨
中小河川の水位上昇量
【中小】
【大】
【極大】
【無】
【小】
大河川の水位上昇量
イメージ

3

降雨の局地化・激甚化の影響
清流の国ぎふ
郡上市和良町沢
下呂市境から5.0km上流
撮影時刻　7/8　am2:00

4

降雨の局地化・激甚化の影響

清流の国ぎふ

5

降雨の局地化・激甚化の影響

清流の国ぎふ

6

3

土砂災害

7

土砂災害の種類

清流の国ぎふ

土石流

谷から、土、石、木などが、大雨による水といっしょになって、一気に流れてくる現象。
（およそ時速40～50km）

土石流のおそれのある箇所
約6，500箇所

がけ崩れ

大雨や地震により、“がけ”が突然、崩れ落ちる現象。

がけ崩れのおそれのある箇所
約8，400箇所

地すべり

大雨により、地面が広い範囲にわたりゆっくりと動き出すものをいいます。

地すべりのおそれのある箇所
約100箇所

岐阜県内の土砂災害警戒区域数　約15，000箇所

資料提供 NPO法人土砂災害防止広報センター

8

4

土砂災害防止法

清流の国ぎふ

土砂災害から住民の生命を守るために、
土砂災害が発生する恐れがある区域を明らかにし、
警戒避難体制の整備や一定の行為の制限を行う法律です。

基礎調査の実施
岐阜県が土砂災害により被害を受けるおそれのある場所の
地形や地質、土地の利用状況などを調査

土砂災害警戒区域の指定
通称：イエローゾーン
（土砂災害のおそれがある区域）

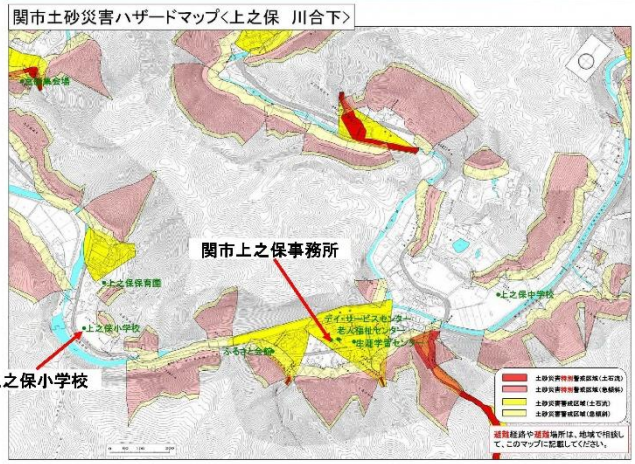
土砂災害特別警戒区域の指定
通称：レッドゾーン
（建築物損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域）

9

土砂災害の危険性を表すマップ

清流の国ぎふ

関市土砂災害ハザードマップ<上之保　川合下>



10

7月豪雨時の土砂災害例（近隣の災害）

清流の国ぎふ

土砂氾濫

11

7月豪雨時の土砂災害例（近隣の災害）

清流の国ぎふ

家屋への土砂流入

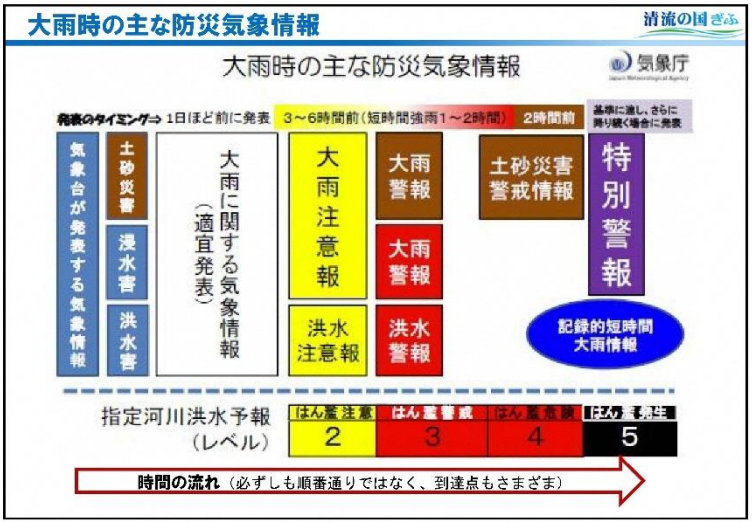
12

6

では、

このような
災害の**危険**を予測し、
身を守るために
必要な情報は・・・。

13



14

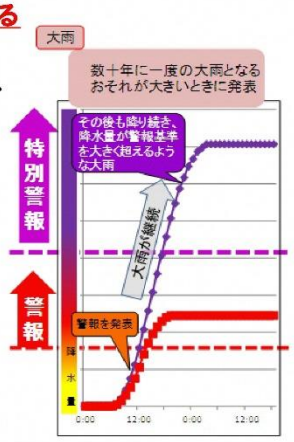
7

特別警報について

清流の国ぎふ

警報の発表基準をはるかに超える豪雨等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、**特別警報**を発表し、最大限の警戒を呼び掛けます。

特別警報が出た場合、
数十年に一度しかないような非常に危険な状況！
周囲の状況や市町村からの避難指示・避難勧告などの情報に留意し
ただちに命を守るための行動をとってください！



15

各市町村が発令する避難情報

清流の国ぎふ

避難情報の種類	発令時の状況	住民がとるべき避難行動	発令基準（市町村ごとの基準例）
避難準備・高齢者等避難開始	・人的被害の発生する危険性が高まった状況	・避難行動要支援者など、避難に時間を要する方（高齢者、障がい者、乳幼児を含む家族など）は、指定緊急避難場所などへの避難を開始 ・上記以外の方は、気象情報に注意し、非常用持出袋の用意などの避難準備を開始	・大雨警報（土砂災害）が発表され、土壌雨量指数が高まったとき ・河川水位が避難判断水位に到達したとき（はん濫警戒情報）
避難勧告	・人的被害の発生する危険性が明らかに高まった状況	・まだ避難行動を開始していない全ての住民が指定緊急避難場所などへの避難を開始	・土砂災害警戒情報が発表された時 ・河川水位がはん濫危険水位に到達したとき（はん濫警戒情報）
避難指示（緊急）	・人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況	・確実な避難を完了（まだ避難をしていない住民は、直ちに避難）	・上記の基準を上回る危険性が確認されたとき

16

8

７月豪雨時は、
避難指示（緊急）のみ発令。

- 下之保観測所の水位が基準。
- 基準水位がない河川あり（中小河川）。

17

新たな取組み

中小河川でも
避難情報を発令できるよう
基準を追加。

18

9

避難判断のための新たな取組み

清流の国ぎふ

1．中小河川における
避難判断参考水位の設定。

・家屋浸水が想定される一級河川に**危機管理型水位計**を設置。
・津保川に３箇所、小那比川に１箇所、新たに設置。

2．洪水警報の**危険度分布図**の確認。

・３時間先の洪水予想。

3．現地の**情報収集体制**の強化

・消防・水防団からの情報収集　など

19

避難判断のための新たな取組み

清流の国ぎふ

危機管理型水位計を新たに設置し、**避難判断参考水位**を設定

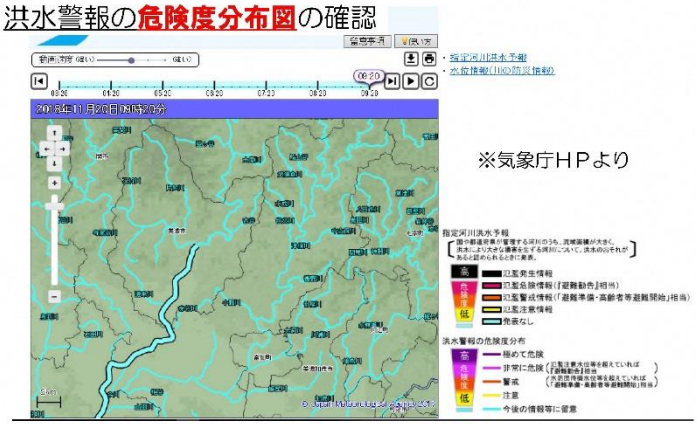
20

10

避難判断のための新たな取組み

清流の国ぎふ

洪水警報の**危険度分布図**の確認

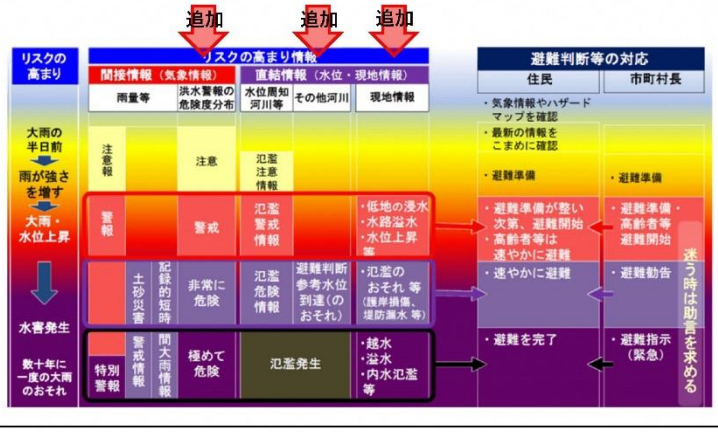


21

避難判断のための新たな取組み

清流の国ぎふ

避難判断等のタイミングの目安を整理



22

しかし、

それだけでは**限界**。

取組を始めたばかり・・・
予測にも限界がある・・・

23

一人ひとりが
避難を考える取組み

自分の生活環境などをふり返り、
一人ひとりが避難の手順について考え、
どう行動するのか**あらかじめ決めておく**。

それが今回の取組み

24

12

【第２回勉強会】資料３

資料３

関市上之保地区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会
第１回勉強会のふり返り

１ 開催概要

開催日時：平成３０年１２月１５日（土）　午前９時 30 分～午前 12 時
開催場所：上之保生涯学習センター　２階　２－１会議室

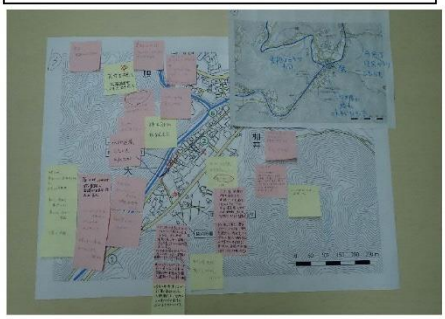
【第１部】 ガイダンス「本日の勉強会について」岐阜県 危機管理部 防災課

【第２部】ワークショップ「安全に避難するためには（７月豪雨災害のふり返り 等）」
○７月豪雨災害のふり返り
○とったらよかったと思う避難行動
○ほかのグループの「ふり返り」確認

・川を見た時に以前の大雨の時と同じくらいの水位に見えたので油断した
・自分のところは大丈夫との思い込みがあった
・急に水位が上昇する実感がなかった。経験もなかった。
・情報収集する行動を起こせなかった
・過信せず早めの行動をとることが大切かと思う

◆住民の方の声

・2:30 サイレンに起こされた。自分の家は安全と思っていた。逃げようとしたら既に道路を車がながされていた。
・泥水に気づいた時、すでに道路は激流で近隣の避難状況を確認することなどできない状況であった。
・もう少し早く起きて逃げればよかった。
・サイレンで気づいた時には道路に水が流れ車も流れていたため２階へ逃げるしかなかった



1

第３部 講義「一人ひとりが考えて決める避難手順」
→大雨時の避難に必要な“所要時間”を計算しよう
→要支援者の支援手順と所要時間も計算しよう

・注意報、警報などの情報は、前日から出ていた
・「避難」ではなく「脱出」になっていないか？
・いざという状況になる前に、早めに避難を完了しておく必要がある
・自分が避難にかかる時間を把握し、いつまでに避難を完了させるのが重要

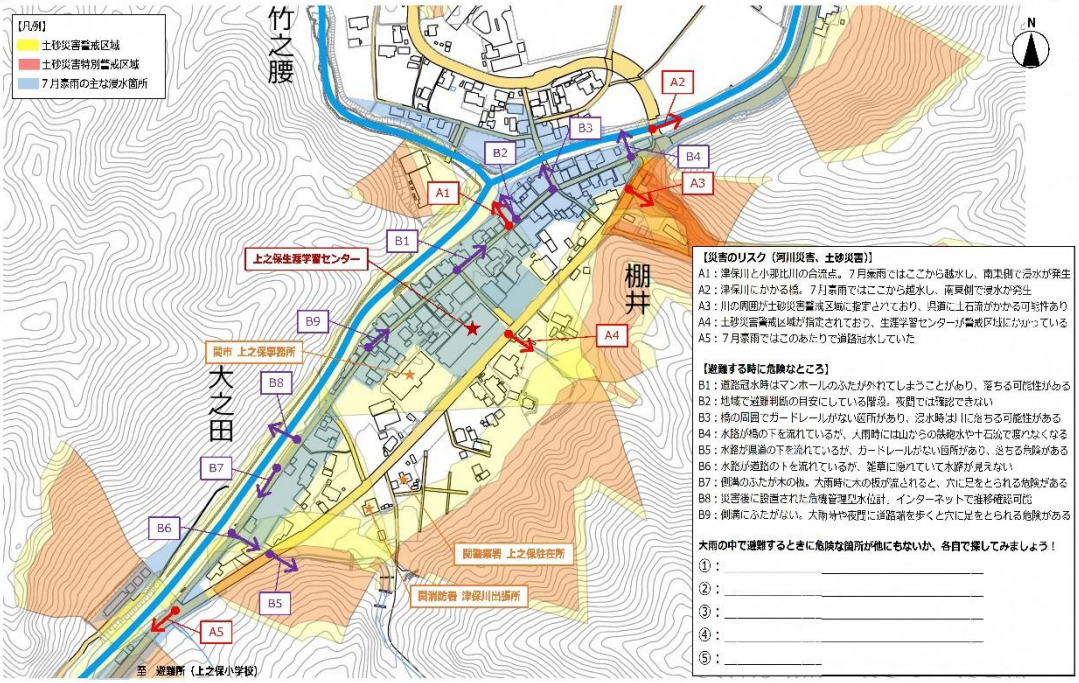
2 参加者からの主な意見（参加者アンケートより）

・大変有意義な勉強会で、ありがとうございました。
・早めの避難が必要と思うが、その時の状況とかを考えてしまうので、その意識を変えないといけないが、上之保全体を変えないといけない。
・私は被災者ではないのですが、勉強になりました。
・村岡先生のお話は、具体的でポイントをしぼった話で、避難の判断の大切さが良くわかった。また、やること（行動）が具体的で何をどのように考えれば良いかがわかった。河川災害、土砂災害のメカニズムと避難情報の状況、また各自が避難判断することの重要性が理解できた。今回のことは、より多くの人に知っていただけるとよいと思った。
・とにかく避難は早めに自主避難、自己判断。行政をあてにしない。
・大変勉強になった。今後ともよろしくお願いします。
・もっと多くの人が参加してほしかった。

【第２回勉強会】資料４

資料４

関市上之保地区 まち歩き用地図　～大雨の中で避難するときに危険なところを確認してみましょう！～



【災害のリスク（河川災害、土砂災害）】

A1：津保川と小瀬北川の合流点。７月豪雨ではここから越水し、南東側で浸水が発生
A2：津保川にかかる橋。７月豪雨ではここから越水し、南東側で浸水が発生
A3：川の周囲が土砂災害警戒区域に指定されており、渓流に土石流がかかる可能性あり
A4：土砂災害警戒区域が指定されており、生涯学習センターが警戒区域にかかっている
A5：７月豪雨ではこのあたりで道路冠水していた

【避難する時に危険なところ】

B1：道路冠水時はマンホールのふたがかれてしまうことがあり、落ちる可能性がある
B2：地域で避難判断の目安にしている階段。夜間では確認できない
B3：橋の周囲でガードレールがない箇所があり、増水時は川に落ちる可能性がある
B4：水路が橋の下を流れているが、大雨時には山からの鉄砲水や土石流で渡れなくなる
B5：水路が県道の下を流れているが、ガードレールがない箇所があり、落ちる危険がある
B6：水路が道路の下を流れているが、雑草に覆われていて水路が見えない
B7：側溝のふたが木の板。大雨時に木の板が流されると、穴に足をとられる危険がある
B8：災害後に設置された危機管理型水位計、インターネットで推移確認可能
B9：側溝にふたがない。大雨時や夜間に道路端を歩くと穴に足をとられる危険がある

大雨の中で避難するときに危険な箇所が他にもないか、各自で探してみましょう！

①：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
②：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
③：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
④：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
⑤：＿＿＿＿＿＿＿＿

【第２回勉強会】参加者アンケート

関市上之保地区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第２回）
参加者アンケート

本日の勉強会で感じたことなどについて、ご記入をお願いいたします。
今後の参考とさせていただきます。

(1) 本日の勉強会は、どちらまで（何部まで）参加されましたか。

第１部（講義）まで　・　第２部（まち歩き）まで

(2) 次に、下記の各項目に対し、ご自分の感想と近い項目に○をつけてください。

①第２回勉強会の時間はどうでしたか。　短い ←　ちょうどよい　→ 長い

②配布資料はどうでしたか。　わかりやすい ←　どちらとも言えない　→ わかりにくい

③説明の時間はどうでしたか。　短い ←　ちょうどよい　→ 長い

④【第１部】講義「次の大雨への備え～危険と課題～」の内容はいかがでしたか。　わかりやすい ←　どちらとも言えない　→ わかりにくい

◆第２部に参加された方にお聞きします。
⑤【第２部】まち歩き「地域に潜む危険を知る」の内容はいかがでしたか。　わかりやすい ←　どちらとも言えない　→ わかりにくい

⑥第２回勉強会に参加したことで、防災の取組に対する意欲は高まりましたか。　わかりやすい ←　どちらとも言えない　→ わかりにくい

⑦本日の内容を踏まえて、家族で避難行動の方法を決めておこうと思いましたか。　はい ←　どちらとも言えない　→ いいえ

⑧本日の内容を踏まえて、上之保地区で避難行動の方法について話し合っていきたいと思いましたか。

そう思う　←　どちらとも言えない　→ そう思わない

(3) 最後に、今後情報提供して欲しいこと、第２回勉強会の印象や質問、地域で活動されていることなど、何でも自由にご記入ください。

性別　**男性・女性**

年代　**20 代・30 代・40 代・50 代・60 代・70 代・80 代・90 代以上**

地区　**川合下（大之田、棚井、竹之腰、横腰）、**
上之保（鳥屋市・行合・川合上・川合中・和野田・山本・先谷・名倉・明ヶ島・船山）、
その他（　　）

お名前　**（　　）**　※お名前のご記入は任意です。

ご協力ありがとうございました。お帰りの際にご提出ください。

【第２回勉強会】まち歩きを踏まえた気付き（意見交換の結果）

・食料品等の防災用品を常に集めておく。
・避難する場所を、災害の種類ごとに考えておきたい。
・明るいうちに早めの対応をしておく。
・普段利用している道路でも、暗いと危険がいっぱいであることがわかった。
・道路には段差がたくさんあり、特に夜間は危険だと分かった。
・マンホール等は外れて穴になってしまう。明るい時と違い大変危険だと思った。
・連絡網なども日頃から確認したい。
・避難場所が小学校であることは知りませんでした。今年は、早めに勇気を持って避難したいと思います。
・警報が出た時には遅いため、注意報などの時から注意してみておきたい。
・避難訓練は生涯学習センターで実施しているため、指定避難所の上之保小学校でやらないといけないと思った。
・早めに逃げないと避難するところがなくなる。
・避難行動の方法について話し合っていきたいと思った。
・早めの避難をします。

【第２回勉強会】参加者の感想

関市上之保地区　第2回WSアンケート集計　　回答件数：92

(1) 本日の勉強会は、どちらまで（何部まで）参加されましたか。

第1部（講義まで）	47
第2部（まち歩き）まで	17

(2) 次に、下記の各項目に対し、ご自分の感想と近い項目に○をつけてください。
①第2回勉強会の時間はどうでしたか。

短い	6
ちょうどよい	78
長い	1

②配布資料はどうでしたか。

わかりやすい	62
どちらとも言えない	24
わかりにくい	1

③説明の時間はどうでしたか。

短い	7
ちょうどよい	79
長い	2

④【第1部】講義「次の大雨への備え~危険と課題~」の内容はいかがでしたか。

わかりやすい	76
どちらとも言えない	11
わかりにくい	0

◆第2部に参加された方にお聞きします。
⑤【第2部】まち歩き「地域に潜む危険を知る」の内容はいかがでしたか。

わかりやすい	29
どちらとも言えない	4
わかりにくい	0

⑥第2回勉強会に参加したことで、防災の取組に対する意欲は高まりましたか。

高まった	38
どちらとも言えない	4
高まらなった	0

⑦本日の内容を踏まえて、家族で避難行動の方法を決めておこうと思いましたか。

はい	45
どちらとも言えない	5
いいえ	0

⑧本日の内容を踏まえて、上之保地区で避難行動の方法について話し合っていきたいと思いましたか。

そう思う	48
どちらとも言えない	7
そう思わない	0

(3) 最後に、今後情報提供して欲しいこと、第2回勉強会の印象や質問、地域で活動されていることなど、何でも自由にご記入ください。

早く避難することが、大切だとわかった。とても有意義な話だった。
避難の大切さがわかりました。脱出とはちがうということ。
川の水位があふれる所に堤防を作ってほしい。道路は暗いと危険がいっぱい。水害が起こるメカニズムを考えてどう対処するのがいいか。少しでも水害が起こらないようにしてほしい。
避難場所、国道を考えてみたいと思う。

とにかく、正確な情報がほしい。空振りであっても、逃げます。（妻）7月8日洪水の2～3日前、気象庁の発表をとても気にしていました。が、それは、東京から預かっている孫（6才）を7日に新幹線（指定席）で送り届けることでした。私の心配は、公共機関が不通（名鉄電車）になる心配でした。ですから、皆さんの危険予想とは、申し訳ありませんがそんな心配だったことでした。6日中に犬山線で名古屋駅へ、もう名古屋駅でさえ新幹線が遅延状態でした。今日のお話で、皆さん2～3日前に予想していましたか？というお話で。そんな小さなことですが、私は脱出したと思っていました。東京の8日未明の日本のサッカーワールドカップNHKの20分の休憩時に上之保津保川氾濫を聞きました。	
「ギリギリ」まで待ってではなく「そうなる前に早めに完了」をすることにより、自分以外の人にも良い利点があることを知りました。	
小学校とは気が付きませんでした。今年は、早めに勇気を持って避難したいと思います。	
消防団員の者です。今日まで避難のタイミングを知らせることばかりをしていたように感じました。必要なのは、一人ひとりの住民の方に逃げる意識を持ってもらうことだとわかりました。今後の消防団の活動に生かしていきたいと思いました。	
大変いい話でした。	
勉強になりました。上之保以外でも話をしていただきたい。	
今日の話を聞いてよかったです。早めの避難が大切と良くわかりました。	
もっと避難について話を聞いてみたいです。	
雨量について、AIの時代、上之保はどのような情報がでますか？	
私どもは以前も浸水し、今回も家族で決めたマニュアル通りにしましたが、今一度話し合う必要があると痛感しました。空振りでもよいので、何度も何度も関市の放送を流してほしいです。住民の意識も大きく変わります。	
心配で大雨になると夜は寝ていることができない。	
上之保地区は河川に沿って道路が発達し、今までの経験上水に浸からない地区に住居（集落）ができて地域ができてきました。従って、過去の経験から水に浸かる地区はわかっており、その住民は経験から避難ができ、被災が大きかった割りに人的被害はありませんでした。しかし、大部分の地域では避難するにも指定されている避難所も危険な位置にあり、避難所へのルートも河川の浸水をしており、避難を躊躇しました。この異常気象が続く中、「今まではなかった」と考えず、「これまでになかった災害が起こりうる」ことを考え、自治会ごとに避難所の位置、避難ルートの確保を考えていかなければならない。	
会場が熱すぎます。体調不良になりました。	
天気予報の専門の人を市役所に置いてほしいです。	
情報は必ず入っている。自分の事として、早く準備は整えておき、脱出にならないように避難は早く、経路が安全なうちに安全な場所に避難完了する。良い勉強になりました。	
スマホを持っていない人でも、わかりやすく連絡していただくことを進めてもらいたい。	
画面説明用に差し棒で説明してほしい（防災課の大塚係長さんへ）。すばらしい講義でした。ぜひ中学生の子達に聞かせてやってほしい。まち歩きで危険なところが多く発見できた。	
指定されたところまでにいくことに不安を感ずる（少し遠い）。もう少し近場で検討してほしい。	
避難行動の方法について話し合っていきたいと思いました。	
年配の方の意見で、インターネットができない人の情報獲得手段として「川の階段や壁に水位がわかる表示をしたらいい」というものがあり、どちらにしても早い避難ということになれば、足を使って見に行く手段があってもいいと思った。	
お話を聞いて、とにかく明るい、足元も周囲も見える状態で考えるのと、短い時間の危険が迫っている時に考えるのは、大きな差があると思いました。情報は、大切でも、最後は自分の判断しかなく、自分の意思が大切だと感じました。	

あらためて早めの避難の大事なことが認識できた。ただ実際の場面にあったとき、いつ、どこへ、何を持って（何を残して）避難するかは迷うことだろうと思う。上之保地域では、避難所（安全な場所）の特定が難しい、その辺のことをもう少し知りたい。災害の状況、台風の場合と自身の場合では対応が違うと思われる。そうした個別的な対応についても勉強できるとよいと思う。
早めの避難をします。

性別

男性	38
女性	36

年代

20代	0
30代	0
40代	5
50代	8
60代	33
70代	32
80代	5
90代以上	0

地区

川合下（大之田）	6
川合下（棚井）	16
川合下（竹之腰）	1
川合下（横腰）	1
鳥屋市	6
行合	9
川合上	2
川合中	15
和野田	1
山本	0
先谷	3
名倉	4
明ヶ島	5
船山	2
その他	4

【第２回勉強会】事務局資料

関市上之保地区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第２回）
★事務局資料★

１ 勉強会について

(1) 開催目的

平成 30 年 7 月豪雨災害の際に、他県では、地域住民一人ひとりが避難場所などをあらかじめ認識するために作成した「災害・避難カード」が威力を発揮し、人的被害を防いだ事例があった。

関市上之保地区においても、多数の浸水被害が発生しており、自然災害の被害軽減のためには、住民自身による適切なタイミングでの避難が極めて重要となる。

そのため、「災害・避難カード」の作成を通して、地域住民一人ひとりが避難方法やタイミング、避難経路などについて話し合い、災害時にどのように行動するかを事前に決めておく取組みを実施する。

(2) 開催概要

計 3 回の勉強会を開催し、関市上之保地区における「災害・避難カード」を作成する。各回の開催内容は以下のとおりとする。

【第１回勉強会】

日時：平成 30 年 12 月 15 日（土）9:30～12:00

場所：関市上之保生涯学習センター 2 階 2-1 会議室

内容：勉強会の開催趣旨やスケジュールなどの説明、地区の災害リスクや、地区の防災対策の現状、避難にかかる時間などについて、住民とともに考える。

済

【第２回勉強会】

日時：平成 31 年 1 月 26 日（土）13:30～16:00

場所：関市上之保生涯学習センター1 階 多目的ホール等

内容：まち歩きを実施し、災害のときに危険な場所、避難所などを確認し、避難場所まで安全に行くことができる方法などを確認する。

【第３回勉強会】

日時：平成 31 年 2 月 23 日（土）9:30～12:00（予定）

場所：関市上之保生涯学習センター 2 階 2-1 会議室

内容：第 1 回及び第 2 回ワークショップを踏まえ、一人ひとりが「災害・避難カード」に避難にかかる時間、避難する時期や方法、経路、声掛けする方の氏名などを記入する。

(3) 作成する「災害・避難カード」のイメージ

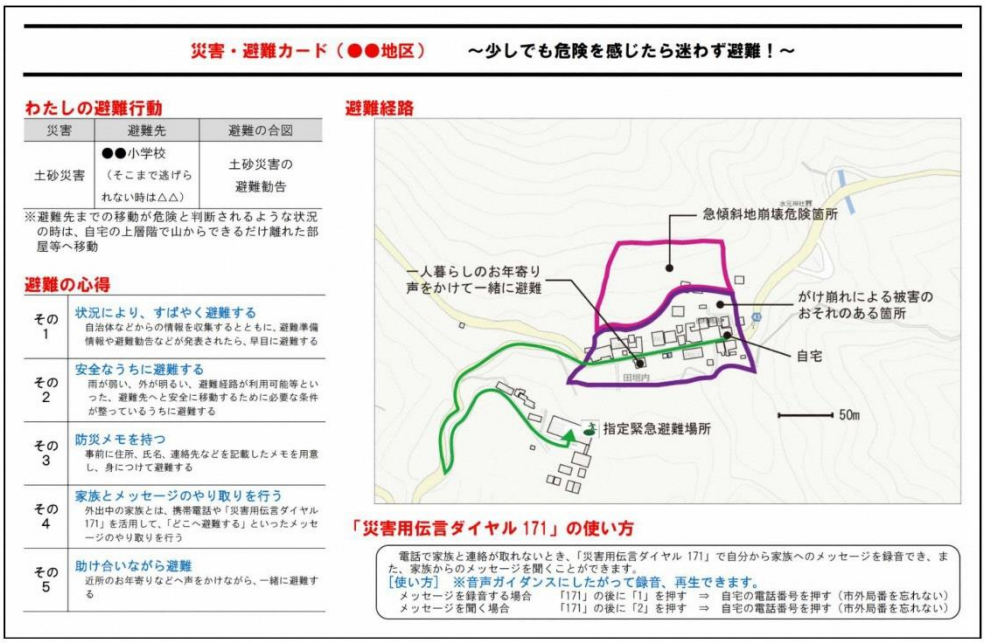
災害・避難カードとは、災害発生時に、どんな情報をもとに、どの経路で、どこに避難するのか等を一目で分かるようにしたカードである。

住民のみなさんが、過去の災害の記憶（情報）、避難経路上の危険箇所、避難するのにかかる時間、必要な防災対策（要配慮者への声かけ等）などを自らの手でカードに記載し、作成していく。

作成した「災害・避難カード」は、自宅の冷蔵庫など、普段日にとまる場所に置いておく。また、今後防災訓練を行う際には、当カードを活用する。

下呂市金山第 区の「災害・避難カード」の構成は、金山第 区長と下呂市危機管理課と協議しながら、第3回勉強会までに検討・確定する。

＜「災害・避難カード」のイメージ＞



災害・避難カード（●●地区）　～少しでも危険を感じたら迷わず避難！～

わたしの避難行動

災害	避難先	避難の合図
土砂災害	●●小学校 （そこまで逃げられない時は△△）	土砂災害の避難勧告

※避難先までの移動が危険と判断されるような状況の時は、自宅の上層階で山からできるだけ離れた部屋等へ移動

避難の心得

その1	状況により、すばやく避難する 自治体などからの情報を収集するとともに、避難準備情報や避難勧告などが発表されたら、早目に避難する
その2	安全なうちに避難する 雨が弱い、外が明るい、避難経路が利用可能等といった、避難先へと安全に移動するために必要な条件が整っているうちに避難する
その3	防災メモを持つ 事前に住所、氏名、連絡先などを記載したメモを用意し、身につけて避難する
その4	家族とメッセージのやり取りを行う 外出中の家族とは、携帯電話や「災害用伝言ダイヤル171」を活用して、「どこへ避難する」といったメッセージのやり取りを行う
その5	助け合いながら避難 近所のお年寄りなどへ声をかけながら、一緒に避難する

避難経路

「災害用伝言ダイヤル171」の使い方

電話で家族と連絡が取れないとき、「災害用伝言ダイヤル171」で自分から家族へのメッセージを録音でき、また、家族からのメッセージを聞くことができます。
［使い方］　※音声ガイダンスにしたがって録音、再生できます。
メッセージを録音する場合　「171」の後に「1」を押す　⇒　自宅の電話番号を押す（市外局番を忘れない）
メッセージを聞く場合　「171」の後に「2」を押す　⇒　自宅の電話番号を押す（市外局番を忘れない）

2 第２回勉強会について

(1) 開催プログラム

日時：平成 31 年 1 月 26 日（土）13:30～16:00
場所：関市上之保生涯学習センター1 階 多目的ホール他

時間	プログラム　※第１部は勉強会参加者以外も聴講可
13:30～13:35	**開会** ○あいさつ（5 分） 関市 市長公室 危機管理課　課長 岐阜県 危機管理部 防災課　地域防災支援監 関市自治会連合会 上之保支部　支部長
13:35～14:30	**【第１部】講義「次の大雨への備え ～危険と課題～」** ○勉強会の概要説明（5 分） 岐阜県 危機管理部 防災課 地域支援係長 ○講義（50 分） ・第１回勉強会のふり返り ・一人ひとりが考えて決める避難手順 ・自分の地域に予想される危険について 清流の国ぎふ 防災･減災センター
14:30～14:40	**休憩**
14:40～15:55	**【第２部】まち歩き「地域に潜む危険を知る」** ○まち歩きの手順説明（5 分） ○まち歩き（45 分） ○まち歩きを踏まえた意見交換（25 分） 清流の国ぎふ 防災･減災センター
15:55～16:00	**閉会** ○第３回勉強会の開催内容の説明（5 分）

<配布資料>

次第
資料１　関市上之保地区 一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について
資料２　第１回勉強会のふり返り
資料３　関市上之保地区 まち歩き用地図
参加者アンケート

(2) 当日の動き

	時間	内容	役割分担
0	11:30	**勉強会の案内（多目的ホール）** ○11:30 までに多目的ホールへ集合する ○学習発表会の中で午後の勉強会の PR を行う ・12:00～、教員が連絡事項等を来場者に伝えるため、その際に勉強会への来場のお願いを実施 ・学校からは、午前中の内容と午後の内容を関連付けてＰＲして欲しいと要望あり	岐阜県
1	12:00	**集合** ○事務局スタッフは、12 時までに現地に集合する ○会場（多目的ホール）は、12 時まで上之保小学校の学習発表会で使用しているため、それまでは会場外で待機する ○なお、早めに来て上之保小学校の学習発表会を観ても良い	各自
2	12:00～12:30	**会場設営①（多目的ホール）** ○舞台上に演台を配置する ○マイクの確認（マイクテスト）を行う ○プロジェクターを設置し、講師の PC と接続して、投影を確認する ○受付台を配置し、配布資料を準備する ○生涯学習センター入口に会場案内を掲示する ○ビニール紐で座席エリアを制限する	委託業者を中心に対応
3		**会場設営②（2-1 会議室）** ○2-1 会議室を解錠してもらい、テーブルを 4 グループ分、1 グループ 2 本並べて配置する ○予備として、テーブルを 2 グループ分、1 グループ 2 本並べて配置する ○事務局（講師、岐阜県、関市）用のテーブルを配置する ○それぞれにイスを配置する（1 グループ 8 脚程度） ○各テーブルに、地区図とフセン、マジック等を配置する	委託業者を中心に対応
4	12:30～13:00	**事務局ミーティング** ○事務局資料を用いて、第 2 回勉強会のタイムスケジュールの確認、まち歩きにおけるグループ編成、役割分担について説明する	岐阜県から一言挨拶 委託業者から説明

5	13:00～13:30	**受付** ○参加者の受付をする　※参加者は一度受付を通過する流れとする ・名簿に名前と地区を記入してもらう ・受付時に、第１部のみ参加、第２部まで参加を確認する ・参加者配布資料を手渡す。第２部まで参加する方には、順番にグループ割りを行う（封筒に 1,2,3,4 ,1,2…と番号を記入する） ・該当するハザードマップを渡す ・会場に案内する（ビニール紐で区切った座席エリア） ○関係者の受付をする ・名簿に所属と名前を記入してもらう ・岐阜県につなげる （本日の資料と、地区の図面を渡せるように準備） ○開会後 10 分程度は受付対応し、その後、受付用紙を持って会場に入る	委託業者を中心に対応
6	13:30～13:35	**開会** ○全体の司会進行は委託業者が行う ○開会にあたり、関市からあいさついただく ○続いて、岐阜県からあいさついただく ○最後に、関市自治会連合会上之保支部長からあいさついただく ○配布資料の確認を行う ・不足があれば、事務局スタッフが補充する ・アンケートの記入を依頼する	委託業者が司会進行 あいさつは、 ①関市 ②岐阜県 ③支部長 の順番
7	13:35～14:30	**【第１部】講義「次の大雨への備え ～危険と課題～」** ○委託業者より第１部に入ることをアナウンスする ○はじめに、岐阜県から勉強会の概要説明をいただくことをアナウンスする ○岐阜県にマイクを手渡す ○岐阜県より勉強会の概要を説明していただく ○マイクを委託業者に返す ○委託業者より講師を紹介し、「次の大雨への備え ～危険と課題～」と題して講義いただくことをアナウンスする ○講師にマイクを手渡す ○講師より、第１回勉強会のふり返り、第２部のまち歩きの趣旨説明等をしていただく ○マイクを委託業者に返す	委託業者が司会進行 岐阜県が概要説明 講師が講義
8	14:30～14:40	**休憩** ○委託業者より第１部の終了をアナウンスする ○第１部のみ参加の方には、アンケートの記入と提出を依頼する ・出入り口にアンケート回収箱を設置し、スタッフ１名が付く ○第２部まで参加の方には、10 分間の休憩の後、再び多目的ホールに集まっていただくように依頼する ・ホールの前方へ参加者が集まるよう誘導する	委託業者が司会進行 回収係は委託業者 誘導は委託業者

9	14:40～15:30	**【第２部】まち歩き「地域に潜む危険を知る」** ○委託業者より第２部に入ることをアナウンスする ○委託業者よりまち歩きの手順説明を行う ・４グループに分かれてまち歩きを行うこと ・各グループに事務局スタッフが数名付き、説明、説明補助、記録、安全確認等を行うこと ・道路を歩くため、事務局スタッフの誘導に従って欲しいこと ・体調不良等があればすぐに事務局スタッフまで伝えて欲しいこと ○説明後、生涯学習センター入口付近（駐車場）へグループ毎に集合する ・事務局スタッフは「●グループはこちらです」と参加者を集める ・紙に「●グループ」と書いたものを掲げて集まりやすいようにする ○カイロをグループの方に配布する ・ごみ袋を用意する ○各グループ参加者が集まった後、それぞれのルートでまち歩きを行う ・説明担当者は、ルート上のポイントで、参加者の気付きを促すように説明を行う ・補助担当者は、説明担当者を補助する ・記録担当者は、まち歩きの様子を写真に撮るとともに、参加者の会話の中で記録すべき内容をメモに取る ・安全確認担当者は、参加者が車道に大きくはみ出さないように注意するなど、参加者の安全に注意する ○まち歩き終了後、意見交換を行うため、2-1 会議室に誘導する ○参加者にお茶を配るとともに、適宜休憩を取ってもらう	委託業者が司会進行 まち歩きにおける役割分担は(3)まち歩きのグループ編成を参照
10	15:30～15:55	○全グループがまち歩きを終了し、テーブルについたのを確認したら、委託業者よりまち歩きを踏まえた意見交換を行うことをアナウンスする ○スタッフは同行したグループの進行補助を行う。 ○まち歩きの中で気付いたこと、感じたことをフセンに書き出してもらい、図面に貼りだしてもらう ・フセンは 75×75mm、色は自由 ○図面に貼り出しながら、意見交換を行う ○落ち着いたところで、委託業者よりグループ毎に地図を壁に貼り出してもらうようにアナウンスする ・事務局スタッフが壁に貼り出す　→貼りだす場所は前方 ○講師からの講評をいただく ・講師の講評は、ポイントごと（A1～B９）に行う。 ・講師の質問等に対して、適宜事務局スタッフが意見交換の内容を補足説明する ・参加者は講師の周りに集まり、講評を聞いてもらう	委託業者が司会進行 講師より講評
11	15:55～16:00	**閉会** ○アンケートの記入と提出を依頼する ・事務局スタッフはアンケートを回収する ○アンケート回収後、岐阜県より次回の開催内容と日時、場所について説	委託業者が司会進行 岐阜県にて次回の

12	16:00～16:30	**後片付け** ○忘れ物がないよう、参加者に呼びかけながら、退室を促す ○会場（会議室、多目的ホール）の片づけを行う	各自
13	16:30	**撤収** ○会場から一切の荷物を運び出し、撤収する	各自

(3) まち歩きのグループ編成

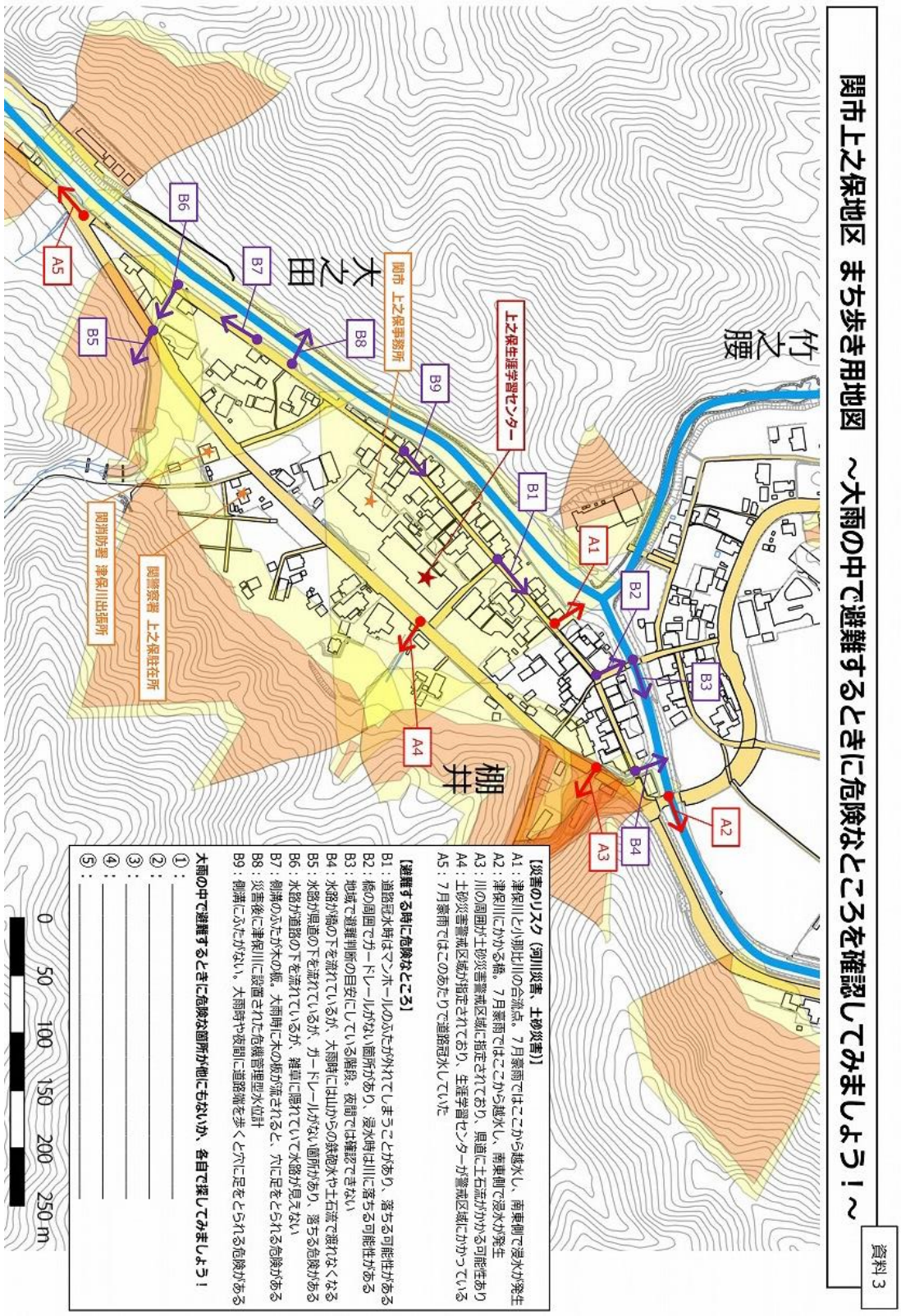
	所属	役職	氏名	役割

講師　　１名
岐阜県　１２名（報道対応１名、全体指揮１名）
関市　　５名
委託業者　５名

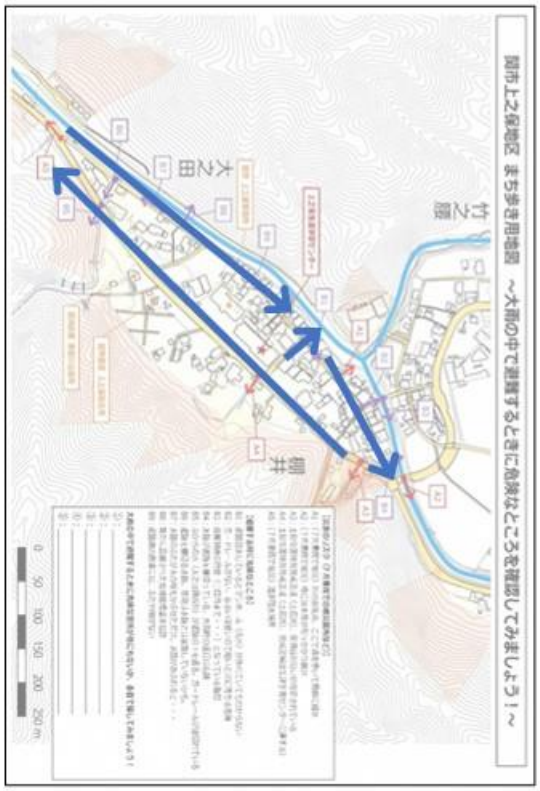
合計　　２３名

グループ	説明	補助	記録	安全確認
本部	業者	関市、業者	－	－
1G	岐阜県	関市	岐阜県	岐阜県
2G	岐阜県	関市	岐阜県	岐阜県
3G	岐阜県	関市	岐阜県	業者
4G	関市	業者	業者	岐阜県

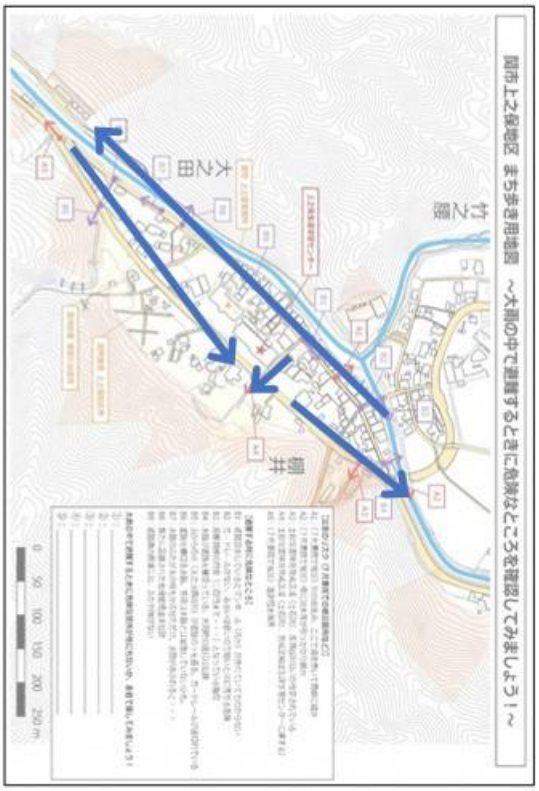
(4) まち歩きのルート及びポイント



1G


関市上之保地区 まち歩き用地図 ～大雨の中で避難するときに危険なところを確認してみましょう！～
竹之原
大之田
柳井

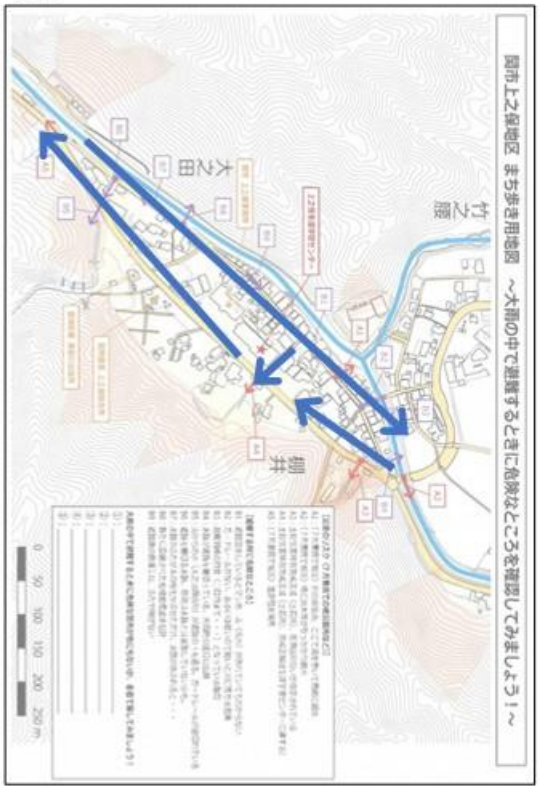
2G


関市上之保地区 まち歩き用地図 ～大雨の中で避難するときに危険なところを確認してみましょう！～
竹之原
大之田
柳井

3G

関市上之保地区 まち歩き用地図 ～大雨の中で避難するときに危険なところを確認してみましょう！～
竹之原
大之田
柳井

4G


関市上之保地区 まち歩き用地図 ～大雨の中で避難するときに危険なところを確認してみましょう！～
竹之原
大之田
柳井

【まち歩きでの説明のポイント】

○Ａ：早めの避難の必要性の認識

・身の回りに予測される危険を現地確認し、それが形として現れる前に逃げることの必要性を認識してもらう

・「こうなってからでは逃げるのが遅い」という事を理解してもらう

○Ｂ：安全に避難するための手順と時間の把握

・安全に避難するために把握すべき避難行動の阻害要因を現地で確認する

・実際に避難行動にかかる時間を体感してもらう

・避難所へ避難する時にどこに気を付ければいいのか、気を付けながら進むと時間がかかるということを理解してもらう

【各ポイントでの説明のポイント】

○Ａ１：津保川と小那比川の合流点。７月豪雨では、ここから越水し、南東側で浸水が発生

＜説明の趣旨＞

・津保川と小那比川の合流点。７月豪雨の時は、ここで南東側に越水し、道路を水が流れた

・今は水位が少なく河川敷も広いが、ここが溢れるほどの水があったことを想像してもらう

Ａ２：津保川にかかる橋。７月豪雨では、ここから越水し、南東側で浸水が発生

＜説明の趣旨＞

・津保川にかかる橋。流木等が引っかかり、越水し道路冠水が発生した。

・ここから南東側に家が浸水している。

Ａ３：川の周囲が土砂災害警戒区域に指定されており、県道に土石流がかかる可能性あり

＜説明の趣旨＞

・南側の山から流れてくる反洞谷川沿いに土砂災害特別警戒区域が指定されている

・土砂災害特別警戒区域が、県道にかかっており、通行できなくなるおそれがある

Ａ４：土砂災害警戒区域が指定されており、生涯学習センターが警戒区域にかかっている

＜説明の趣旨＞

・生涯学習センターの南側の山が土砂災害特別警戒区域に指定されている

・土砂災害警戒区域の範囲として、生涯学習センターがかかっている

Ａ５：７月豪雨では、このあたりで道路冠水していた

＜説明の趣旨＞

・７月豪雨では、道路が冠水し、道に水が流れてモノが流されてきたとのこと

Ｂ１：道路冠水時はマンホールのふたが外れてしまうことがあり、落ちる可能性がある

＜説明の趣旨＞

・普段何気なく歩いている道路でも、大雨の時は、汚水のマンホールが外れる可能性がある

・深夜や泥水が流れている中の避難では、マンホールに気付かず、ふたが外れていると、引き込まれるおそれがある

Ｂ２：橋の周囲でガードレールがない箇所があり、浸水時は川に落ちる可能性がある

＜説明の趣旨＞

・橋の南側の左側は、川に向かって傾斜になっていて、暗いと川の方に進んでしまう危険がある

・橋の反対側の右側のガードレールが低く、同様に暗いと川に落ちる危険がある

Ｂ３：地域で避難判断の目安にしている階段。夜間では確認できない

＜説明の趣旨＞
・７月豪雨の時、この階段で水位を確認していた
・暗くなるまでは確認できたが、周囲に明かりがないと夜になると見えないのではないか
・目安にするとしても、夜に大雨が降った時のことを考えておく必要があるのでは
・７月豪雨の時は、より川上で越水したため、道路側から水が流れてきた

Ｂ４：水路が橋の下を流れているが、大雨時には山からの鉄砲水や土石流で渡れなくなる

＜説明の趣旨＞
・山側からの水路が橋の下を通っているが、傾斜がきつい
・土砂災害で通れなく可能性がある
・橋を渡っているときに、山からの鉄砲水で足元をすくわれる可能性がある

Ｂ５：水路が県道の下を流れているが、ガードレールがない箇所があり、落ちる危険がある

＜説明の趣旨＞

・山からの水の流れが、県道の下を通っているところ

・金網とガードレールの間が１mほど開いており、暗い中を歩くのは危険

・土砂災害特別警戒区域が県道にかかっており、土砂災害により通れなくなる可能性がある

Ｂ６：水路が道路の下を流れているが、雑草に隠れていて水路が見えない

＜説明の趣旨＞

・山からの水路が道路の下を通っているが、雑草が茂っていて水路が見えない

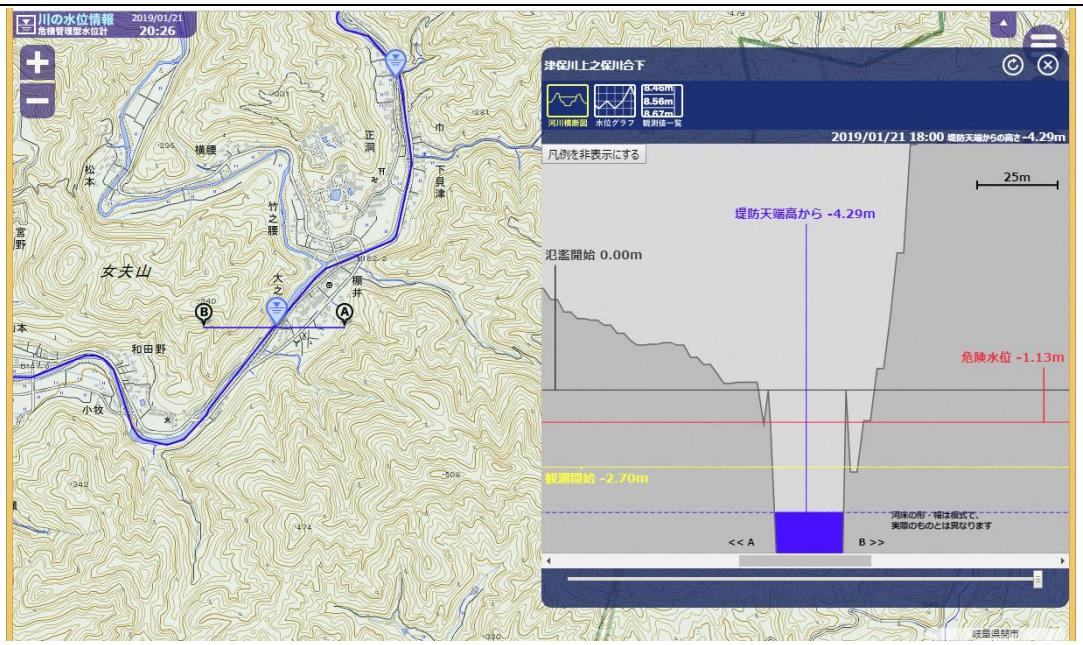
・水路の上を渡っている感覚ではないかもしれないが、大雨時には鉄砲水が通るかもしれない

Ｂ７：側溝のふたが木の板。大雨時に木の板が流されると、穴に足をとられる危険がある

＜説明の趣旨＞
・側溝のふたは、コンクリートもしくはグレーチング（鉄の金網）になっている
・木の板でふたをしている箇所があり、大雨時には流されて足をつっこんでしまう可能性がある

Ｂ８：災害後に設置された危機管理型水位計。インターネットで水位確認可能。

＜説明の趣旨＞
・７月豪雨のあと、ここに危機管理型水位計が設置された。川合下の設置箇所はここ。
・関市内の設置箇所は、津保川（関市上之保川合下、上之保川合中、上之保鳥屋市）３箇所、小那比川（関市上之保明ヶ島）１箇所、津保川（関市富之保粟野）１箇所
・一般財団法人河川情報センターのHP「川の水位情報」でいつでも水位を確認できる



Ｂ９：側溝にふたがない。大雨時や夜間に道路端を歩くと穴に足をとられる危険がある

＜説明の趣旨＞

・側溝に、ふたやグレーチング（金網）がない箇所が、ここ以外にも何か所かある

・大雨の時や暗い時に道路端を歩いていると、溝に落ち込む危険がある

(5) 準備物

項目	準備物等	備考	数量	確認
配布資料（個人）	次第	A4 版	120 部	
	【資料１】一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について	A4 版	120 部	
	【資料２】第１回勉強会のふり返り	A4 版	120 部	
	【資料３】関市上之保地区 まち歩き用地図	A3 版	120 部	
	アンケート用紙	A4 版	120 部	
	ゴルフペン	–	120 本	
	封筒	角型 2 号	120 部	
配布資料（テーブル）	地区図（A1～B9 を除いたもの）	A1 版	6 枚	
その他（テーブル）	フセン（75×75mm、色指定なし）	–	適量	
	記入用ボールペン	–	適量	
	記入用油性ペン	–	適量	
	記入用マーカーペン	–	適量	
その他（会場）	名簿（参加者用、関係者用）	A3 版	–	
	アンケート回収 BOX	–	2 個	
	会場案内用紙（センター入口掲示用）	–	–	
	設営道具（テープ、磁石）	–	–	
	メモ用紙	–	–	
その他（電子機器等）	ノート PC	–	1 台	
	プロジェクター	–	1 台	
	ケーブル	–	–	
	延長コード	–	–	
	差し棒	–	–	
	デジタルカメラ	–	4 台	
	IC レコーダー	–	1 台	
	ビデオカメラ	–	1 台	
	三脚	–	–	
その他	カイロ	–	50 個	
	お茶	–	50 本	

【第３回勉強会】次第

関市上之保地区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第３回）
次 第

日時：平成 31 年２月 23 日（土）9:30～12:00
場所：関市上之保生涯学習センター2 階 2-1 会議室

時間	プログラム
9:30～9:35	**開会** ○あいさつ（5 分） 関市 市長公室 危機管理課　課長
9:35～11:00	**【第１部】ワークショップ「災害・避難カードを書いてみよう」** ○これまでの勉強会のふり返り（10 分） ○私の避難タイミングの検討（75 分） 清流の国ぎふ 防災･減災センター
11:00～11:10	**休憩**
11:10～11:50	**【第２部】ワークショップ「災害・避難カードの活用について」** ○災害・避難カードの活用について（40 分） 清流の国ぎふ 防災･減災センター
11:50～12:00	**閉会** ○あいさつ（10 分） 岐阜県 危機管理部 防災課　地域防災支援監

<配布資料>

次第
資料１　関市上之保地区 一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について
資料２　第１回、第２回勉強会のふり返り
資料３　関市上之保地区 災害・避難カード
資料４　非常持出品リスト
資料５　「私のまちの危険情報を知るには？」情報の入手方法
参加者アンケート

【第３回勉強会】資料２

資料２

関市上之保地区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会
第１回勉強会のふり返り

１ 開催概要

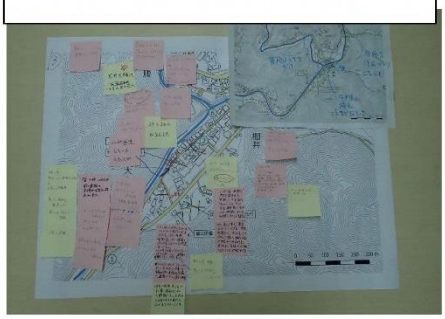
第１部 ガイダンス「本日の勉強会について」岐阜県 危機管理部 防災課

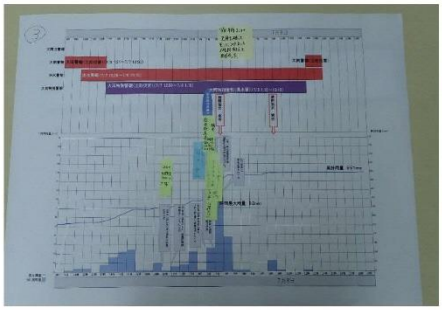
第２部 ワークショップ「安全に避難するためには（７月豪雨災害のふり返り 等）」

○７月豪雨災害のふり返り
○とったらよかったと思う避難行動
○ほかのグループの「ふり返り」確認

・川を見た時に以前の大雨の時と同じくらいの水位に見えたので油断した
・自分のところは大丈夫との思い込みがあった
・急に水位が上昇する実感がなかった。経験もなかった。
・情報収集する行動を起こせなかった
・過信せず早めの行動をとることが大切かと思う

・2:30 サイレンに起こされた。自分の家は安全と思っていた。逃げようとしたら既に道路を車がながされていた。
・泥水に気づいた時、すでに道路は激流で近隣の避難状況を確認することなどできない状況であった。
・もう少し早く起きて逃げればよかった。
・サイレンで気づいた時には道路に水が流れ車も流れていたため２階へ逃げるしかなかった





第３部 講義「一人ひとりが考えて決める避難手順」

○講義　清流の国ぎふ　防災・減災センター

→大雨時の避難に必要な“所要時間”を計算しよう

→要支援者の支援手順と所要時間も計算しよう

出ていた

・「避難」ではなく「脱出」になっていないか？

・いざという状況になる前に、早めに避難を完了しておく必要がある

2　参加者からの主な意見（参加者アンケートより）

・大変有意義な勉強会で、ありがとうございました。

・早めの避難が必要と思うが、その時の状況とかを考えてしまうので、その意識を変えないといけないが、上之保全体を変えないといけない。

・私は被災者ではないのですが、勉強になりました。

・村岡先生のお話は、具体的でポイントをしぼった話で、避難の判断の大切さが良くわかった。また、やること（行動）が具体的で何をどのように考えれば良いかがわかった。河川災害、土砂災害のメカニズムと避難情報の状況、また各自が避難判断することの重要性が理解できた。今回のことは、より多くの人に知っていただけるとよいと思った。

・とにかく避難は早めに自主避難、自己判断。行政をあてにしない。

・大変勉強になった。今後ともよろしくお願いします。

・もっと多くの人が参加してほしかった。

関市上之保地区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会
第２回勉強会のふり返り

1　開催概要

開催日時：平成３１年１月２６日（土）　午後１時 30 分～午後４時

開催場所：関市上之保生涯学習センター　多目的ホール及び２－１会議室

【第１部】　講義「次の大雨への備え　～危険と課題」

○勉強会の概要説明　　岐阜県 危機管理部 防災課

○講義　　清流の国ぎふ　防災・減災センター

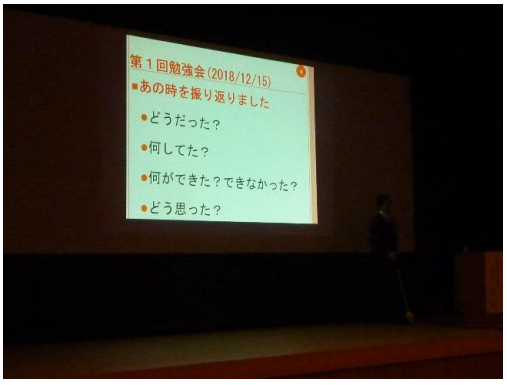
・第１回勉強会のふり返り

・一人ひとりが考えて決める避難手順

・自分の地域に予想される危険について

◆講義の主な内容

・第１回勉強会では、「もっと早く起きて逃げればよかった」という意見があったが、前の日に気象庁は警告を出していた。
・地元の子どもたちの発表「自分たちが早めに避難することで、大人を避難させる」。
・避難と脱出は違います。
・ぎりぎりを見極めない。率先して避難することが大切。



【第２部】　まち歩き「地域に潜む意見を知る」

○まち歩きの手順説明

○まち歩き

○まち歩きを踏まえた意見交換

講評　清流の国ぎふ　防災・減災センター

2　参加者からの主な意見（まち歩きからの気づき、参加者アンケートより）

・段差がたくさんあり、特に夜間は危険。

・マンホール、グレーチングは、外れて穴となる。明るい時と違い暗いと危険である。

・警報が出た時には遅いため、注意報などの時に注意して見ておく。

・安全だと思っていたところが危険と知った。

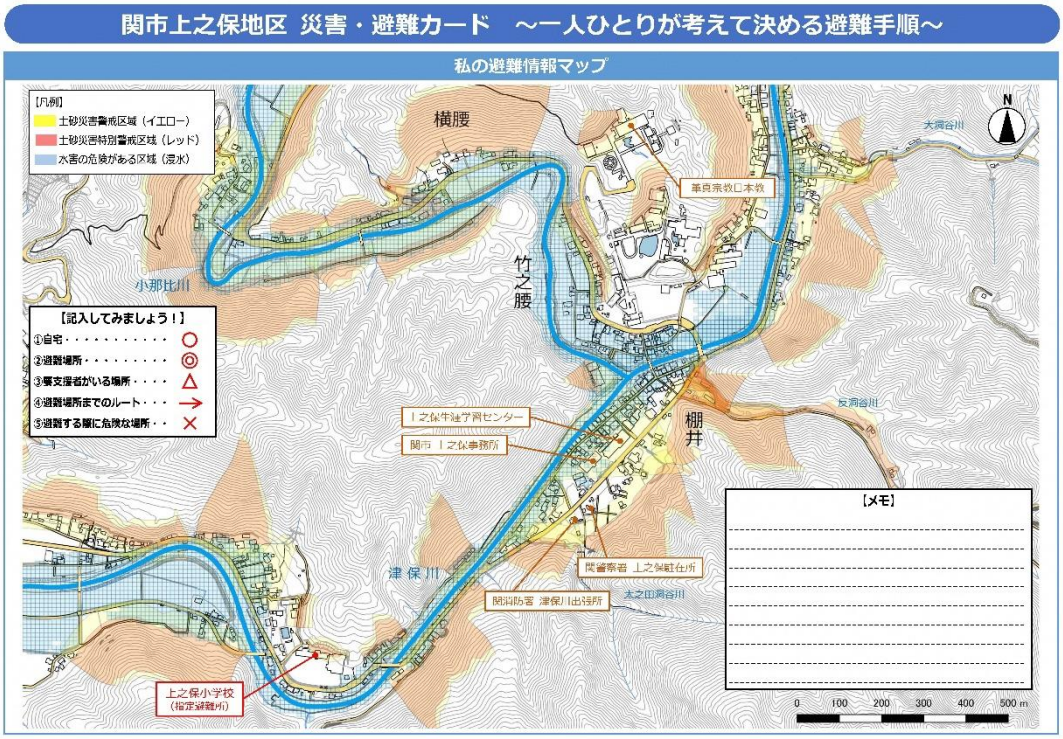
・今まで危ないと思っていなかった谷が危ないと知った。

・早く避難することが、大切だとわかった。とても有意義な話だった。

・「ギリギリ」まで待ってではなく「そうなる前に早めに完了」をすることにより、自分以外の人にも良い利点があることを知りました。

・情報は必ず入っている。自分の事として、早く準備は整えておき、脱出にならないように避難は早く、経路が安全なうちに安全な場所に避難完了する。良い勉強になりました。

【第３回勉強会】資料３


関市上之保地区 災害・避難カード　～一人ひとりが考えて決める避難手順～
私の避難情報マップ
【凡例】
土砂災害警戒区域（イエロー）
土砂災害特別警戒区域（レッド）
水害の危険がある区域（浸水）
【記入してみましょう！】
①自宅
②避難場所
③要支援者がいる場所
④避難場所までのルート
⑤避難する際に危険な場所
横腰
竹之腰
棚井
小那比川
津保川
大洞谷川
友洞谷川
太之田洞谷川
華良宗牧口本教
上之保生涯学習センター
関市 上之保事務所
関警察署 上之保駐在所
関消防署 津保川出張所
上之保小学校
（指定避難所）
【メモ】
N
0 100 200 300 400 500 m
1

私の避難タイミング
大雨に関する気象情報
注意報
警報
特別警報
記録的短時間大雨情報
土砂災害警戒情報
注意
警戒
非常に危険
極めて危険
危険水位
避難準備・高齢者等避難開始
避難準備・高齢者等避難開始
避難勧告
避難指示（緊急）
いつ、何をする？
日中
夕暮れ時
①避難に必要な時間は？
A 安全な場所は？
<確認してみましょう！>
イエローの外
レッドの外
浸水区域の外
B 安全な場所まで片道何分（通常時）？
徒歩なら⇒ 分 / 車なら⇒ 分
C 安全な場所まで片道何分（豪雨時）？
徒歩なら⇒ 分 / 車なら⇒ 使用不可
D 避難を決断してから家を出るまでに何分？ 分
E 要支援者を支援するのに何分？ 分
F 避難を決断してから安全な場所まで何分？
②誰と避難する？
誰と？
連絡先は？
③何を持って避難する？
何を？
大きさは？
重さは？
[合計] kg
私のまちの危険情報を知るには？
<気象情報>
●気象情報（注意報・警報等）を知るには？
岐阜, 気象台 検索 ⇒岐阜地方気象台 HP
<警報の危険度分布>
●洪水や土砂災害等の危険度の高まりを知るには？
岐阜, 気象台 検索 ⇒岐阜地方気象台 HP
<水位情報>
●津保川、小那比川の水位を知るには？
川の水位情報 検索 ⇒川の水位情報 HP
<避難情報>
●関市の避難情報を知るには？
関市役所 検索 ⇒関市 HP「緊急情報」
<その他>
岐阜地方気象台
（スマートフォン向け HP）
関市役所
（スマートフォン向け HP）
2

【第３回勉強会】資料４

資料４

非常持出品(備蓄品)

※関市 HP より抜粋

●貴重品

・現金（10 円玉などの小銭があると便利です）

・携帯電話、預貯金通帳、印鑑、免許証、権利証書、健康保険証など

●非常食品など

カンパン、缶詰、栄養補助食品、

紙皿、紙コップ、割りばし、缶切り、栓抜き、スプーン、フォーク

●応急医薬品

ばんそうこう、消毒薬、持病のある人は常備薬

●衛生品

・タオル、トイレットペーパー、ウェットティッシュ、生理用品、紙おむつ

●衣類

・下着、上着、靴下、雨具など

●燃料など

卓上コンロ、携帯コンロ、固形燃料、ライター、マッチ、携帯ラジオ、懐中電灯、電池

●その他の生活用品

毛布、寝袋、軍手、洗面用具、使い捨てカイロ、ろうそく、ロープ、新聞紙、キッチン用ラップ（止血、汚れた皿にかぶせて使う）

【第３回勉強会】資料５

資料５

災害・避難カード
「私のまちの危険情報を知るには？」

情報の入手方法（関市）

1

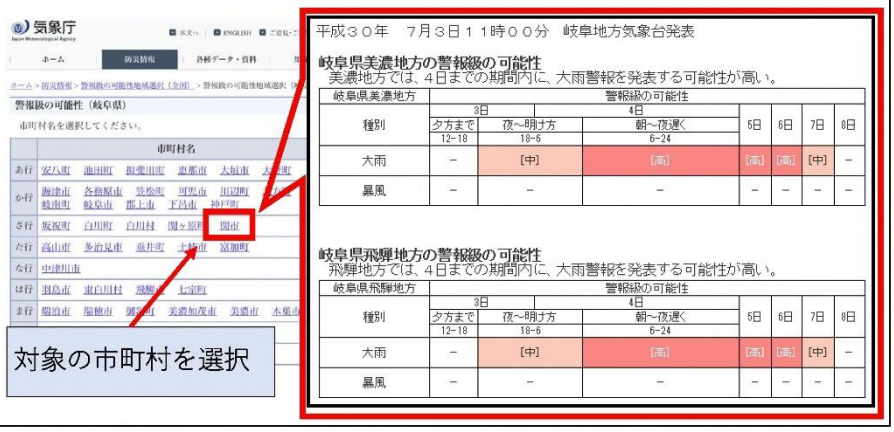
＜気象情報＞
●気象情報（警報級の可能性）とは？

岐阜，気象台　検索

2

1

＜気象情報＞
●気象情報（警報級の可能性）とは？



平成３０年　７月３日１１時００分　岐阜地方気象台発表

岐阜県美濃地方の警報級の可能性
美濃地方では、４日までの期間内に、大雨警報を発表する可能性が高い。

岐阜県美濃地方	警報級の可能性						
種別	3日	4日		5日	6日	7日	8日
	夕方まで	夜～明け方	朝～夜遅く				
	12-18	18-6	6-24				
大雨	－	[中]	[高]	[高]	[高]	[中]	－
暴風	－	－	－	－	－	－	－

岐阜県飛騨地方の警報級の可能性
飛騨地方では、４日までの期間内に、大雨警報を発表する可能性が高い。

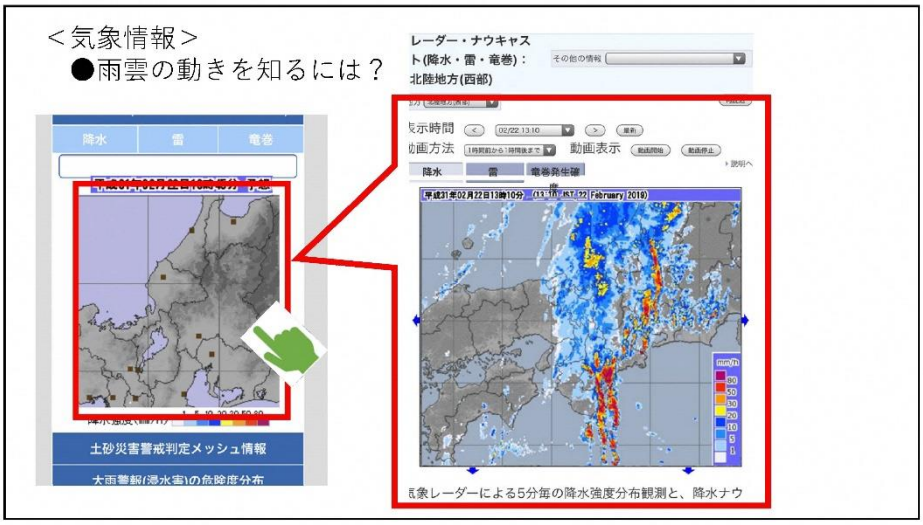
岐阜県飛騨地方	警報級の可能性						
種別	3日	4日		5日	6日	7日	8日
	夕方まで	夜～明け方	朝～夜遅く				
	12-18	18-6	6-24				
大雨	－	[中]	[高]	[高]	[高]	[中]	－
暴風	－	－	－	－	－	－	－

3

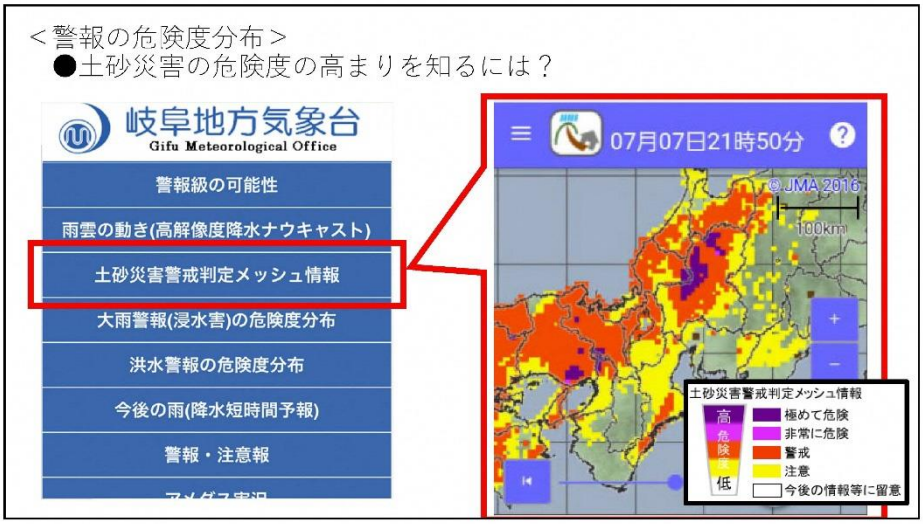
＜気象情報＞
●雨雲の動きを知るには？

4

2


＜気象情報＞
●雨雲の動きを知るには？
降水
雷
竜巻
土砂災害警戒判定メッシュ情報
レーダー・ナウキャス
ト(降水・雷・竜巻)：
北陸地方(西部)
動画表示
降水
雷
竜巻発生確
気象レーダーによる5分毎の降水強度分布観測と、降水ナウ

5


＜警報の危険度分布＞
●土砂災害の危険度の高まりを知るには？
岐阜地方気象台
Gifu Meteorological Office
警報級の可能性
雨雲の動き(高解像度降水ナウキャスト)
土砂災害警戒判定メッシュ情報
大雨警報(浸水害)の危険度分布
洪水警報の危険度分布
今後の雨(降水短時間予報)
警報・注意報
07月07日21時50分
© JMA 2016
100km
土砂災害警戒判定メッシュ情報
高
危険度
低
極めて危険
非常に危険
警戒
注意
今後の情報等に留意

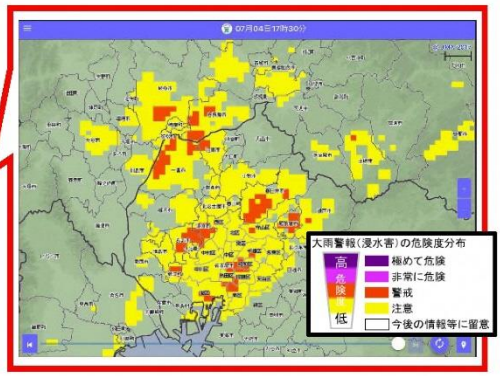
6

3

＜警報の危険度分布＞
●大雨（浸水害）の危険度の高まりを知るには？

岐阜地方気象台
Gifu Meteorological Office

- 警報級の可能性
- 雨雲の動き(高解像度降水ナウキャスト)
- 土砂災害警戒判定メッシュ情報
- 大雨警報(浸水害)の危険度分布
- 洪水警報の危険度分布
- 今後の雨(降水短時間予報)
- 警報・注意報



7

＜警報の危険度分布＞
●洪水の危険度の高まりを知るには？

岐阜地方気象台
Gifu Meteorological Office

- 警報級の可能性
- 雨雲の動き(高解像度降水ナウキャスト)
- 土砂災害警戒判定メッシュ情報
- 大雨警報(浸水害)の危険度分布
- 洪水警報の危険度分布
- 今後の雨(降水短時間予報)
- 警報・注意報

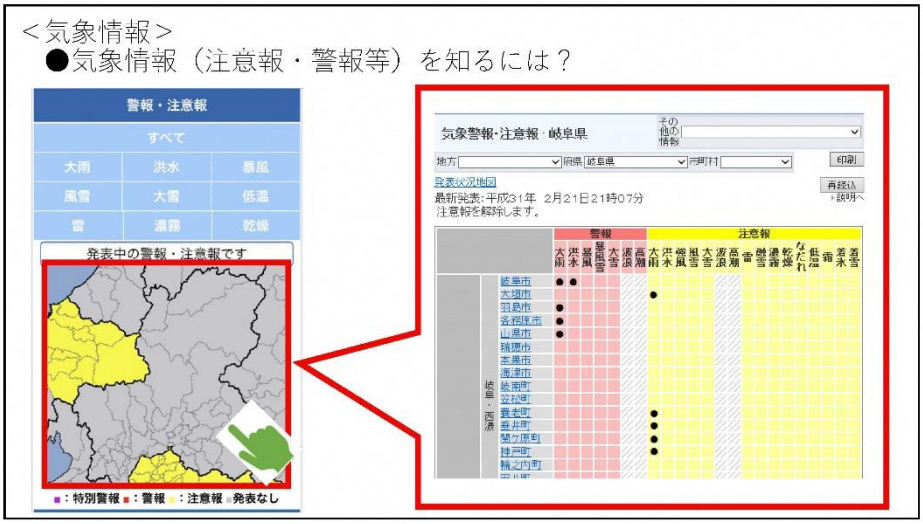
8

4

＜気象情報＞
●気象情報（注意報・警報等）を知るには？

9

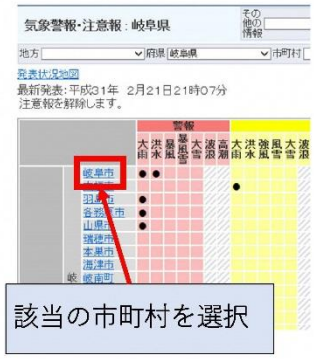
＜気象情報＞
●気象情報（注意報・警報等）を知るには？



10

＜気象情報＞

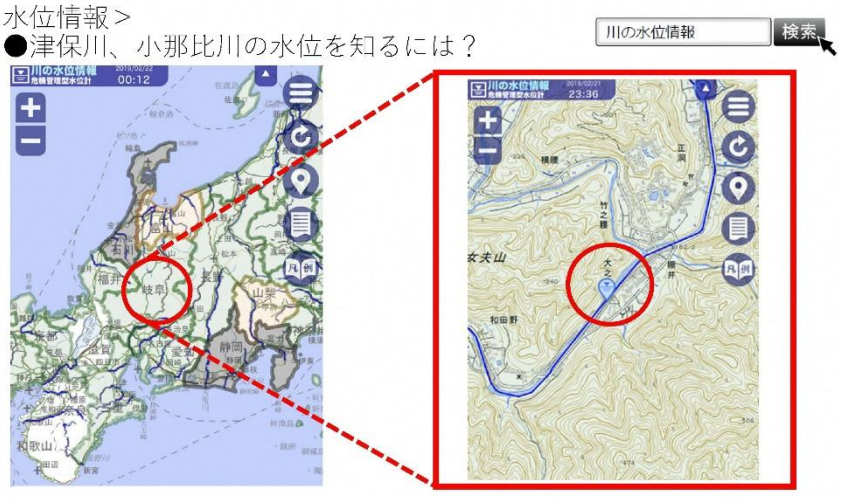
●気象情報（注意報・警報等）を知るには？



11

＜水位情報＞

●津保川、小那比川の水位を知るには？



12

6

＜水位情報＞
●津保川、小那比川の水位を知るには？

13

＜避難情報＞
●関市の避難情報を知るには？

14

7

テレビやラジオ等での表現

注意報や警報の伝え方・・・定型

「大雨に関する気象情報」として、
以後に予測されることを
付け加えて伝える。

15

危険を伝えることができるよう
慎重に言葉を選択し、１００文字程度で表現。

【注意！】
表現の内容は、
どの地域でも起こる可能性がある。
他人事ではない。

16

8

○過去の大きな災害になぞらえて表現。
例：○○豪雨に匹敵する。

○インパクトのある語句で表現。
例：命に危険を及ぼす土砂災害が発生していて
もおかしくない極めて危険な状態。

例：朝倉では15:38までの１時間に観測史上１位
となる129.5mmの降水量を観測した。

○雨雲の現状と今後の予測。

○県内の記録的な雨の観測地や災害の状況。

17

【注意！】
表現の内容は、
どの地域でも起こる可能性がある。
他人事ではない。

18

9

平成３０年７月豪雨の際に
気象庁が記者会見（はじめて）

梅雨前線の停滞、南からの湿った風の流入、
過去の経験や予報資料からの予測、
週末にかかること　などから

○平成３０年７月５日
「西日本と東日本における８日頃にかけての大雨について」
○平成３０年７月６日
「西日本と東日本における記録的な大雨について」
○平成３０年７月７日
「西日本と東日本における記録的な大雨について」

19

○平成３０年７月５日
「西日本と東日本における８日頃にかけての大雨について」

○　西日本と東日本では、記録的な大雨となるおそれがあります。

○　西日本から東日本にかけて、台風第７号の影響や、太平洋高気圧の縁に沿って暖かく湿った空気が流れ込み、梅雨前線の活動が活発になり、広い範囲で大雨が続いています。この状況は、**８日頃にかけて続く見込み**です。
非常に激しい雨が断続的に数日間降り続き、記録的な大雨となるおそれがあります。

20

10

○平成３０年７月６日
「西日本と東日本における記録的な大雨について」

○　太平洋高気圧の縁に沿って暖かく湿った空気が流れ込み、西日本から東日本に停滞する梅雨前線の活発な活動が続いています。この影響により、西日本及び東日本では、猛烈な雨を伴って、広い範囲で記録的な大雨となっています。

○　引き続き、西日本と東日本では、**猛烈な雨が断続的に明後日８日まで降り続く見込み**です。**今後、重大な災害の発生するおそれが著しく高くなり、大雨特別警報を発表する可能性があります。**

21

○平成３０年７月７日
「西日本と東日本における記録的な大雨について」

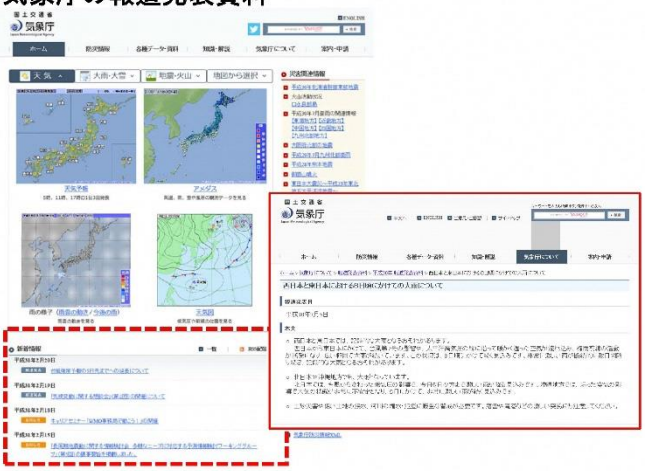
○　西日本と東日本に停滞している梅雨前線の活動は、一昨日５日から活発な状況が続いています。この影響で、西日本から東日本にかけての広い範囲で記録的な大雨が続いており、広島県、岡山県、鳥取県、兵庫県、京都府に大雨特別警報を発表しています。

○　西日本と東日本では、梅雨前線が８日にかけて停滞し、活動が活発な状況が続きます。**現在雨が止んだり、弱まっているところでも再び雨が強まり、８日にかけて局地的に非常に激しい雨が降るおそれがあります。**

22

11

気象庁の報道発表資料



23

【第３回勉強会】参加者アンケート

関市上之保地区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第３回）
参加者アンケート

本日の勉強会で感じたことなどについて、ご記入をお願いいたします。
今後の参考とさせていただきます。

（１）記の各項目に対し、ご自分の感想と近い項目に○をつけてください。

①第３回勉強会の時間はどうでしたか。
短い ← ちょうどよい → 長い

②配布資料はどうでしたか。
わかりやすい ← どちらとも言えない → わかりにくい

③説明の時間はどうでしたか。
短い ← ちょうどよい → 長い

④【第１部】ワークショップ「災害・避難カードを書いてみよう」の内容はいかがでしたか。
わかりやすい ← どちらとも言えない → わかりにくい

⑤【第２部】ワークショップ「災害・避難カードの活用について」の内容はいかがでしたか。
わかりやすい ← どちらとも言えない → わかりにくい

⑥第３回勉強会に参加したことで、防災の取組に対する意欲は高まりましたか。
わかりやすい ← どちらとも言えない → わかりにくい

⑦本日の内容を踏まえて、家族で避難行動の方法を決めておこうと思いましたか。
はい ← どちらとも言えない → いいえ

⑧本日の内容を踏まえて、川合下地区で避難行動の方法について話し合っていきたいと思いましたか。
そう思う ← どちらとも言えない → そう思わない

（２）最後に、今後情報提供して欲しいこと、第３回勉強会の印象や質問、地域で活動されていることなど、何でも自由にご記入ください。

性別　**男性・女性**

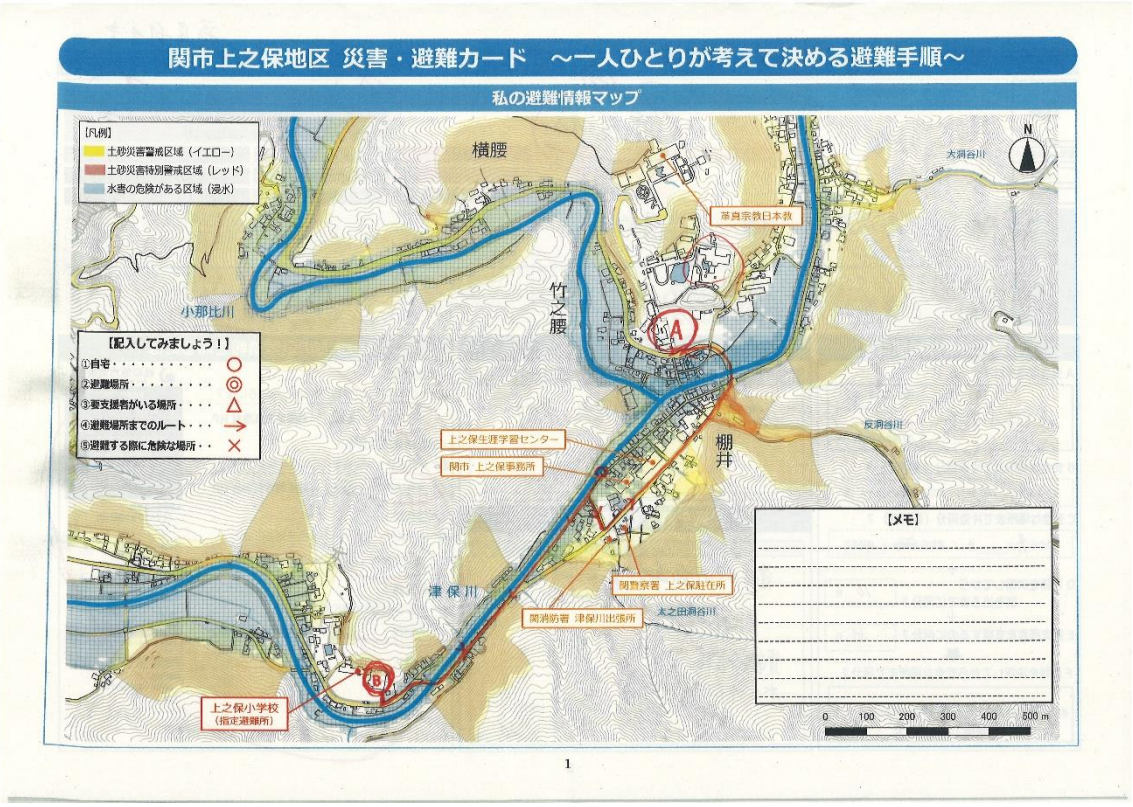
年代　**20 代・30 代・40 代・50 代・60 代・70 代・80 代・90 代以上**

地区　**大之田・棚井・竹之腰・横腰**

お名前　**（　　）**　※お名前のご記入は任意です。

ご協力ありがとうございました。お帰りの際にご提出ください。

【第３回勉強会】災害・避難カードの記入例



関市上之保地区 災害・避難カード ～一人ひとりが考えて決める避難手順～

私の避難情報マップ

【凡例】
土砂災害警戒区域（イエロー）
土砂災害特別警戒区域（レッド）
水害の危険がある区域（浸水）

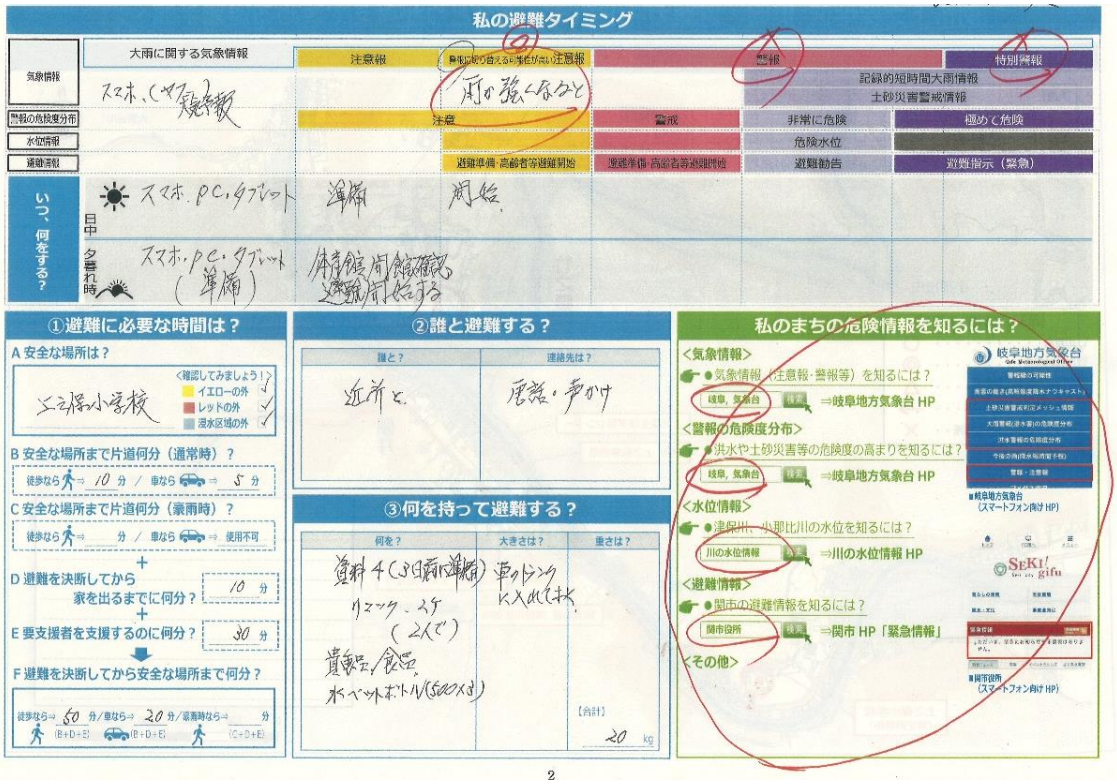
【記入してみましょう！】
①自宅
②避難場所
③要支援者がいる場所
④避難場所までのルート
⑤避難する際に危険な場所

横腰 竹之腰 棚井 小那比川 津保川 大洞谷川 反洞谷川 太之田洞谷川
基真宗教日本教
上之保生涯学習センター
関市 上之保事務所
関警察署 上之保駐在所
関消防署 津保川出張所
上之保小学校（指定避難所）
A B

【メモ】

0 100 200 300 400 500 m

1



私の避難タイミング

気象情報	大雨に関する気象情報	注意報	警報		特別警報
				記録的短時間大雨情報	
				土砂災害警戒情報	
警報の危険度分布		注意	警戒	非常に危険	極めて危険
水位情報				危険水位	
避難情報		避難準備・高齢者等避難開始	避難準備・高齢者等避難開始	避難勧告	避難指示（緊急）
いつ、何をする？ 日中	スマホ、PC、タブレット	準備	開始		
夕暮れ時	スマホ、PC、タブレット（準備）	体育館開館確認 近隣声掛け開始する			

①避難に必要な時間は？

A 安全な場所は？ 上之保小学校（確認してみましょう！ イエローの外 ✓ レッドの外 ✓ 浸水区域の外 ✓）

B 安全な場所まで片道何分（通常時）？ 徒歩なら⇒ 10 分 / 車なら⇒ 5 分

C 安全な場所まで片道何分（豪雨時）？ 徒歩なら⇒ 分 / 車なら⇒ 使用不可

＋

D 避難を決断してから家を出るまでに何分？ 10 分

＋

E 要支援者を支援するのに何分？ 30 分

F 避難を決断してから安全な場所まで何分？ 徒歩なら⇒ 60 分（B+D+E） / 車なら⇒ 20 分（B+D+E） / 豪雨時なら⇒ 分（C+D+E）

②誰と避難する？

誰と？	連絡先は？
近所と	声掛け・声かけ

③何を持って避難する？

何を？	大きさは？	重さは？
資料4（3日前に準備）	車のトランクに入れておく	
リュック、ライト（2人で）		
貴重品/食品、水ペットボトル(500×3)		
		【合計】 20 kg

私のまちの危険情報を知るには？

<気象情報>
● 気象情報（注意報・警報等）を知るには？
岐阜、気象台 検索 ⇒岐阜地方気象台 HP

<警報の危険度分布>
● 洪水や土砂災害等の危険度の高まりを知るには？
岐阜、気象台 検索 ⇒岐阜地方気象台 HP

<水位情報>
● 津保川、小那比川の水位を知るには？
川の水位情報 検索 ⇒川の水位情報 HP

<避難情報>
● 関市の避難情報を知るには？
関市役所 検索 ⇒関市 HP「緊急情報」

<その他>

岐阜地方気象台 Gifu Meteorological Office
岐阜地方気象台（スマートフォン向け HP）
SEKI! in gifu
関市役所（スマートフォン向け HP）

2

【第３回勉強会】災害・避難カードの普及・活用（意見交換の結果）

・隣近所への声掛けが大事だと思う。
・居間や台所等各家庭で目につきやすいところに掲示しておく。
・夏（出水期）前に避難訓練を実施する。
・不安に思ったら近所や家族に連絡を取る。
・定期的に地域の人が集まって継続的に話し合う。
・家に帰ったら家族と話し合いたい。
・班で情報を共有しておく。
・遠方の家族等にカードを見せて知ってもらう。
・同じ地域の人たちが作成した災害避難カードをお互いに見て、共有できる部分や改善点などを考えてみることが必要
・実際にカードに記入した避難所へのルートを日中や夕方に通って確認をする。
・避難場所として適当なところに緊急の時の避難場所としての協力依頼が必要
・非常用持出袋の内容を、他の人と照らし合わせて考えてみることが必要。

【第３回勉強会】参加者の感想

関市上之保地区　第3回WSアンケート集計　　回答件数:28

(1) 下記の各項目に対し、ご自分の感想と近い項目に○をつけてください。

①第3回勉強会の時間はどうでしたか。

短い	1
ちょうどよい	25
長い	2

②配布資料はどうでしたか。

わかりやすい	23
どちらとも言えない	5
わかりにくい	0

③説明の時間はどうでしたか。

短い	2
ちょうどよい	25
長い	1

④【第1部】ワークショップ「災害・避難カードを書いてみよう」の内容はいかがでしたか。

わかりやすい	25
どちらとも言えない	2
わかりにくい	1

⑤【第2部】ワークショップ「災害・避難カードの活用について」の内容はいかがでしたか。

わかりやすい	23
どちらとも言えない	1
わかりにくい	2

⑥第3回勉強会に参加したことで、防災の取組に対する意欲は高まりましたか。

高まった	25
どちらとも言えない	2
高まらなった	0

⑦本日の内容を踏まえて、家族で避難行動の方法を決めておこうと思いましたか。

はい	28
どちらとも言えない	0
いいえ	0

⑧本日の内容を踏まえて、上之保地区で避難行動の方法について話し合っていきたいと思いましたか。

そう思う	17
どちらとも言えない	2
そう思わない	0

(3) 最後に、今後情報提供して欲しいこと、第2回勉強会の印象や質問、地域で活動されていることなど、何でも自由にご記入ください。

となり近所の声かけが大事だと思います
体験して、改めて早目の準備とフライングの大切さを実感。※避難の場所の開放状況の知らせ要
今後勉強会してもらうと思います
この勉強会に参加して、自分自身避難という事にかなり意識が変わりました。大変良かったと思います。ありがとうございました。
今回は具体的なカード作成なので意欲的にできた。地域全体に広めていくときに、今回の村岡先生の避難カード作成時のポイントをぜひ皆さんにも聞いていただけたら良いと思います。
三回にわたりありがとうございました。フライング出来るよう努力します。

自分自身は普段から防災に対する意識は高いと思っています。しかし近隣の中には危機意識が低いと思われる方が、普段世間話しなどで感じられます。今日の勉強会で防災意識が高まったと思います。大変ありがとうございました。
・家族と再度確認し、話し合（避難カードを利用）する。・近所の人と訓練する。・スマホの勉強会をしてほしい。
いかに早めの行動が大事かと知りました。参加して良かったです。
電源がアウトになった場合が心配。大之田水位計について自分で見に行って判断の目安にしたい。
実際に時間に行動を書くことで意識を深めてよかった。

性別

男性	6
女性	15

年代

20代	0
30代	0
40代	0
50代	1
60代	10
70代	10
80代	3
90代以上	0

地区

大之田	5
棚井	14
竹之腰	1
横腰	0

関市上之保地区＆下呂市金山第一区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第３回）
★事務局資料★

１ 勉強会について

(1) 勉強会の開催概要（関市上之保地区）

平成 30 年 7 月豪雨災害の際に、他県では、地域住民一人ひとりが避難場所などをあらかじめ認識するために作成した「災害・避難カード」が威力を発揮し、人的被害を防いだ事例があった。

関市上之保地区においても、多数の浸水被害が発生しており、自然災害の被害軽減のためには、住民自身による適切なタイミングでの避難が極めて重要となる。

そのため、「災害・避難カード」の作成を通して、地域住民一人ひとりが避難方法やタイミング、避難経路などについて話し合い、災害時にどのように行動するかを事前に決めておく取組みを実施する。

計３回の勉強会を開催し、関市上之保地区における「災害・避難カード」を作成する。各回の開催内容は以下のとおりとする。

【第１回勉強会】

日時：平成 30 年 12 月 15 日（土）9:30～12:00

場所：関市上之保生涯学習センター ２階 2-1 会議室

内容：勉強会の開催趣旨やスケジュールなどを説明。地区の災害リスクや、地区の防災対策の現状、避難にかかる時間などについて、住民とともに考える。

済

【第２回勉強会】

日時：平成 31 年 1 月 26 日（土）13:30～16:00

場所：関市上之保生涯学習センター1 階 多目的ホール等

内容：まち歩きを実施し、災害のときに危険な場所、避難所などを確認し、避難場所まで安全に行くことができる方法などを確認する。

済

【第３回勉強会】

日時：平成 31 年 2 月 23 日（土）9:30～12:00

場所：関市上之保生涯学習センター ２階 2-1 会議室

内容：第１回及び第２回ワークショップを踏まえ、一人ひとりが「災害・避難カード」に避難にかかる時間、避難する時期や方法、経路、声掛けする方の氏名などを記入する。

(2) 勉強会の開催概要（下呂市金山第一区）

平成 30 年 7 月豪雨災害の際に、他県では、地域住民一人ひとりが避難場所などをあらかじめ認識するために作成した「災害・避難カード」が威力を発揮し、人的被害を防いだ事例があった。

下呂市金山第一区においても、土砂災害等が多く発生したことから、自然災害の被害軽減のためには、住民自身による適切なタイミングでの避難が極めて重要となる。

そのため、「災害・避難カード」の作成を通して、地域住民一人ひとりが避難方法やタイミング、避難経路などについて話し合い、災害時にどのように行動するかを事前に決めておく取組みを実施する。

計 3 回の勉強会を開催し、下呂市金山第一区における「災害・避難カード」を作成する。各回の開催内容は以下のとおりとする。

【第１回勉強会】

日時：平成 31 年 1 月 16 日（水）19:00～21:30

場所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室

内容：勉強会の開催趣旨やスケジュールなどを説明。地区の災害リスクや、地区の防災対策の現状、避難にかかる時間などについて、住民とともに考える。

済

【第２回勉強会】

日時：平成 31 年 2 月 3 日（日）9:30～12:00

場所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室 他

内容：まち歩きを実施し、災害のときに危険な場所、避難所などを確認し、避難場所まで安全に行くことができる方法などを確認する。

済

【第３回勉強会】

日時：平成 31 年 2 月 24 日（日）9:30～12:00

場所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室

内容：第 1 回及び第 2 回ワークショップを踏まえ、一人ひとりが「災害・避難カード」に避難にかかる時間、避難する時期や方法、経路、声掛けする方の氏名などを記入する。

(3) 作成する「災害・避難カード」のイメージ（共通）

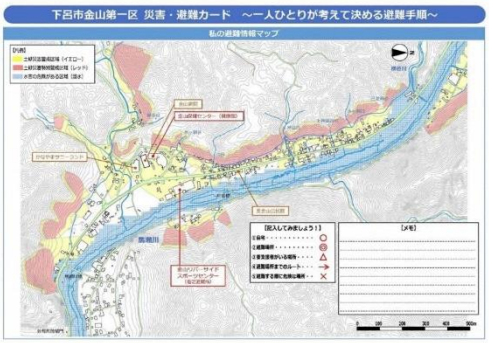
災害・避難カードとは、災害発生時に、どんな情報をもとに、どの経路で、どこに避難するのか等を一目で分かるようにしたカードである。

住民のみなさんが、過去の災害の記憶（情報）、避難経路上の危険箇所、避難するのにかかる時間、必要な防災対策（要配慮者への声かけ等）などを自らの手でカードに記載し、作成していく。

作成した「災害・避難カード」は、自宅の冷蔵庫など、普段日にとまる場所に置いておく。また、今後防災訓練を行う際には、当カードを活用する。

「災害・避難カード」の構成は、自治会長及び市危機管理課等と協議しながら、第３回勉強会までに検討・確定する。

＜「災害・避難カード」のイメージ＞



2

3

2 第３回勉強会について

(1) 当日のプログラム（関市上之保地区）

日時：平成 31 年 2 月 23 日（土）9:30～12:00
場所：関市上之保生涯学習センター2 階 2-1 会議室

時間	プログラム
9:30～9:35	**開会** ○あいさつ（5 分） 関市 市長公室 危機管理課　課長
9:35～11:00	**【第１部】ワークショップ「災害・避難カードを書いてみよう」** ○これまでの勉強会のふり返り（10 分） ○私の避難タイミングの検討（75 分） 清流の国ぎふ 防災･減災センター
11:00～11:10	**休憩**
11:10～11:50	**【第２部】ワークショップ「災害・避難カードの活用について」** ○災害・避難カードの活用について（40 分） 清流の国ぎふ 防災･減災センター
11:50～12:00	**閉会** ○あいさつ（10 分） 岐阜県 危機管理部 防災課　地域防災支援監

<配布資料>

次第
資料１　関市上之保地区 一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について
資料２　第１回、第２回勉強会のふり返り
資料３　関市上之保地区 災害・避難カード
資料４　非常持出品リスト
資料５　「私のまちの危険情報を知るには？」情報の入手方法
参加者アンケート

(2) 当日のプログラム（下呂市金山第一区）

日時：平成 31 年 2 月 24 日（日）9:30～12:00
場所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室

時間	プログラム
9:30～9:35	**開会** ○あいさつ（5 分） 下呂市金山第一区　区長
9:35～11:00	**【第１部】ワークショップ「災害・避難カードを書いてみよう」** ○これまでの勉強会のふり返り（10 分） ○私の避難タイミングの検討（75 分） 清流の国ぎふ 防災･減災センター
11:00～11:10	**休憩**
11:10～11:50	**【第２部】ワークショップ「災害・避難カードの活用について」** ○災害・避難カードの活用について（40 分） 清流の国ぎふ 防災･減災センター
11:50～12:00	**閉会** ○あいさつ（10 分） 下呂市 金山振興事務所　金山地域振興課長 岐阜県 危機管理部 防災課　地域防災支援監

<配布資料>

次第
資料１　下呂市金山第一区 一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について
資料２　第１回、第２回勉強会のふり返り
資料３　下呂市金山第一区 災害・避難カード
資料４　非常持出品リスト
資料５　「私のまちの危険情報を知るには？」情報の入手方法
参加者アンケート

(3) 当日の動き（共通）

	時間	内容	役割分担
1	8:00	**集合** ○事務局スタッフは、8 時までに現地に集合する	各自
2	8:00～8:30	**会場設営（関市上之保地区）** ○通路側を前面とした教室形式の配置とする ○テーブル 12 本、椅子 12×3 脚を配置する ○各席にサインペンとボールペンを配置する ○事務局用にテーブル 1 本、椅子 3 脚を配置する ○講師用にテーブル 1 本、椅子 1 脚を配置する ○傍聴者（関係者）用に椅子 15 脚程度を配置する ○入口付近（室外）に受付用にテーブルを 2 本配置する ○講師準備資料を壁に掲示する ○マイクを確認する	委託業者を中心に対応
		会場設営（下呂市金山第一区） ○通路側を前面とした教室形式の配置とする ○テーブル 12 本、椅子 12×3 脚を配置する ○各席にサインペンとボールペンを配置する ○事務局用にテーブル 1 本、椅子 3 脚を配置する ○講師用にテーブル 1 本、椅子 1 脚を配置する ○傍聴者（関係者）用に椅子 15 脚程度を配置する ○入口付近（室外）に受付用にテーブルを 2 本配置する ○講師準備資料を壁に掲示する ○マイクを確認する	
3	8:30～9:00	**事務局ミーティング** ○事務局資料を用いて、第 3 回勉強会のタイムスケジュールの確認、災害・避難カードの構成、ワークショップの進め方について説明する	岐阜県から一言挨拶 委託業者から説明
4	9:00～9:30	**受付** ○参加者の受付をする ・名簿に名前を記入してもらい、班に○印をつけてもらう ・参加者配布資料一式を手渡し、テーブル割り図を使って案内する ・会場内に案内係を配置し、入ってきた参加者を各テーブルへ案内する ○関係者の受付をする ・名簿に所属と名前を記入してもらう ・岐阜県につなげる ○開会後 10 分程度は受付対応し、その後、受付用紙を持って会場に入る	委託業者を中心に対応

5	9:30～9:35	**開会** ○全体の司会進行は委託業者が行う ○開会にあたり、主催者からあいさつをいただく ○配布資料の確認を行う ・不足があれば、事務局スタッフが補充する ・アンケートの記入を依頼する	委託業者が司会進行
6	9:35～11:00	**【第１部】ワークショップ「災害・避難カードを書いてみよう」** ○委託業者より第１部に入ることをアナウンスする ○はじめに、岐阜県危機管理部防災課より、これまでの勉強会のふり返りと、災害・避難カードの説明をしていただく ○その後、講師の進行のもと、参加者一人ひとりが災害・避難カードを記入する ○適宜、講師から書き方に関する説明をいただき、事務局スタッフは説明を受けて参加者の記入をサポートする	委託業者が司会進行
7	11:00～11:10	**休憩** ○委託業者より第１部の終了をアナウンスする ○休憩の後、再び会場に集まっていただくように依頼する ○会場を教室形式からグループワーク形式に変更する ○テーブルを２本並べるように配置する ○各テーブルにワークシート、フセンを配置する	委託業者が司会進行
8	11:10～11:50	**【第２部】ワークショップ「災害・避難カードの活用について」** ○委託業者より第２部に入ることをアナウンスする ○はじめに、委託業者より、これから行うグループワークの内容について説明する ○各グループで、ワークシートに意見を書き出す ○事務局スタッフはファシリテーターとして意見を引き出すとともに、参加者の意見をフセンに書き出してワークシートに貼り出す ○ワークシートを壁に貼り出し、講師より講評をいただく	委託業者が司会進行
9	11:50～12:00	**閉会** ○アンケートの記入と提出を依頼する ・事務局スタッフはアンケートを回収する ○主催者からあいさつをいただく ○委託業者より勉強会の終了をアナウンスする ○勉強会を終了する	委託業者が司会進行 下呂市あいさつ

10	12:00～12:30	**後片付け** ○忘れ物がないよう、参加者に呼びかけながら、退室を促す ○会場の片づけを行う	各自
11	12:30	**撤収** ○会場から一切の荷物を運び出し、撤収する	各自

(4) 事務局スタッフ（関市上之保地区）

	所属	役職	氏名	役割

講師　　1名
岐阜県　　10名（報道対応1名、全体指揮1名）
関市　　4名
委託業者　　4名

合計　　19名

(5) 事務局スタッフ（下呂市金山第一区）

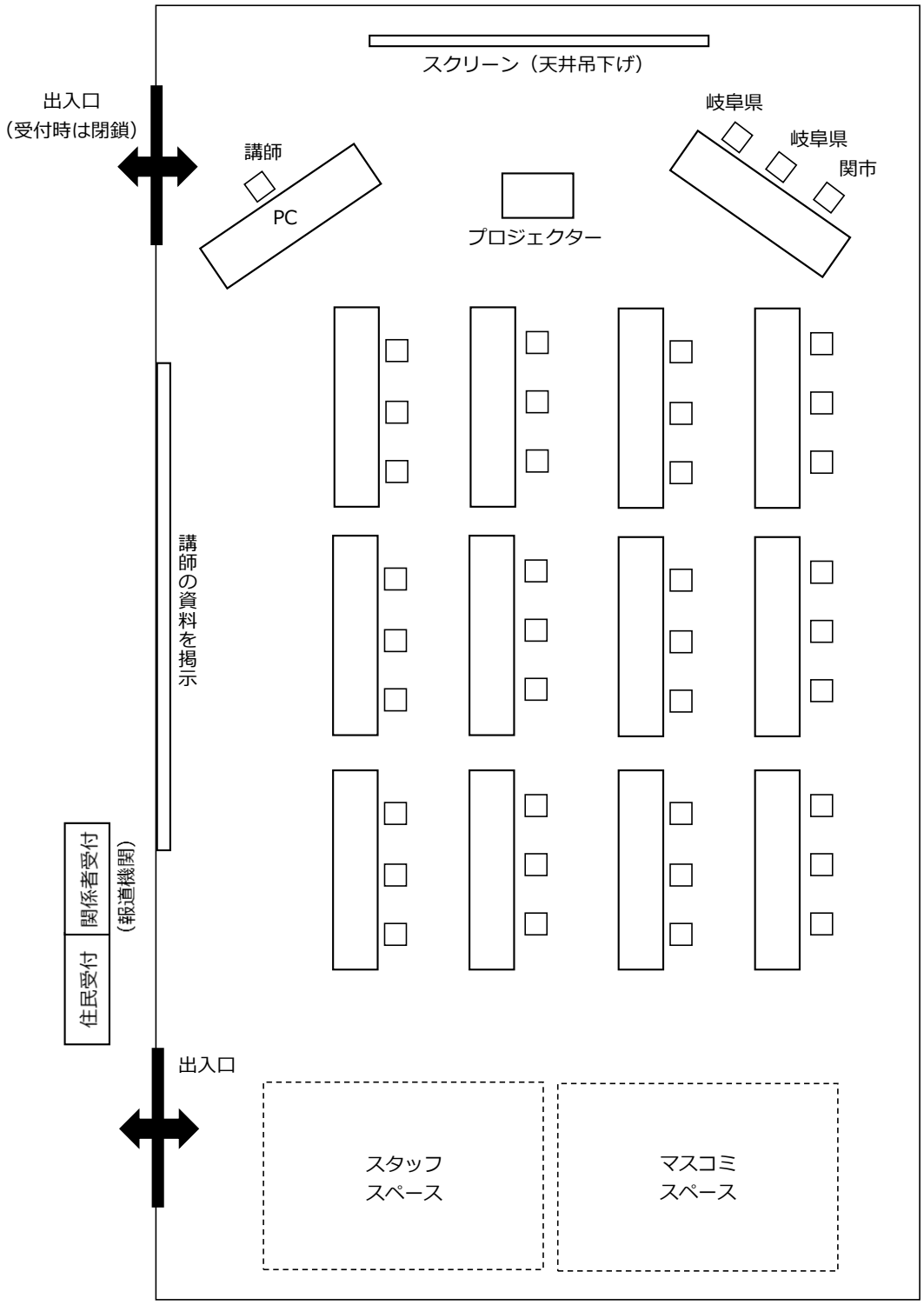
	所属	役職	氏名	役割

講師　　1名
岐阜県　　13名（報道対応1名、全体指揮1名）
下呂市　　2名
委託業者　4名

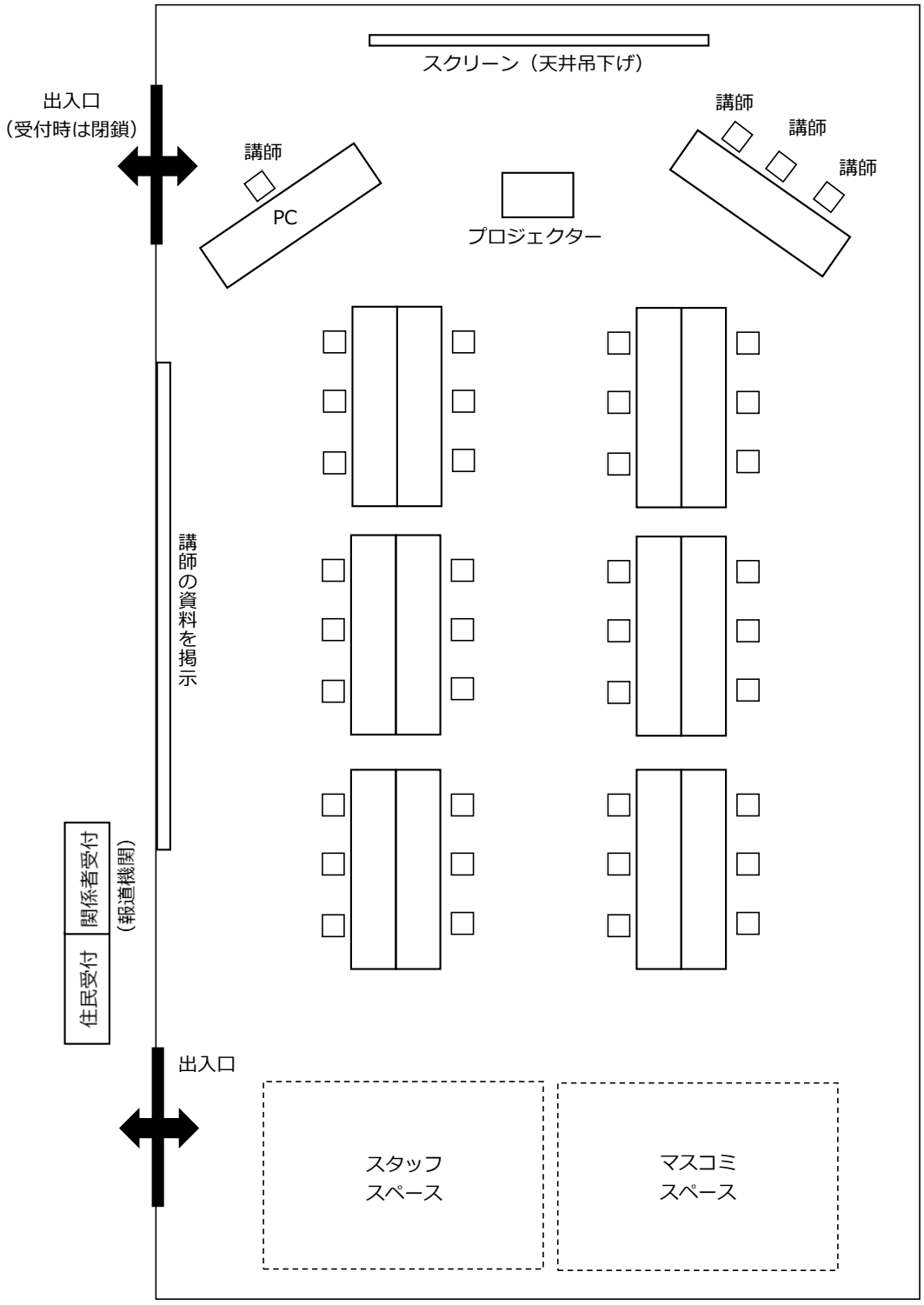
合計　　19名

(6) 会場レイアウト（関市上之保地区）

①【第１部】ワークショップ「災害・避難カードを書いてみよう」

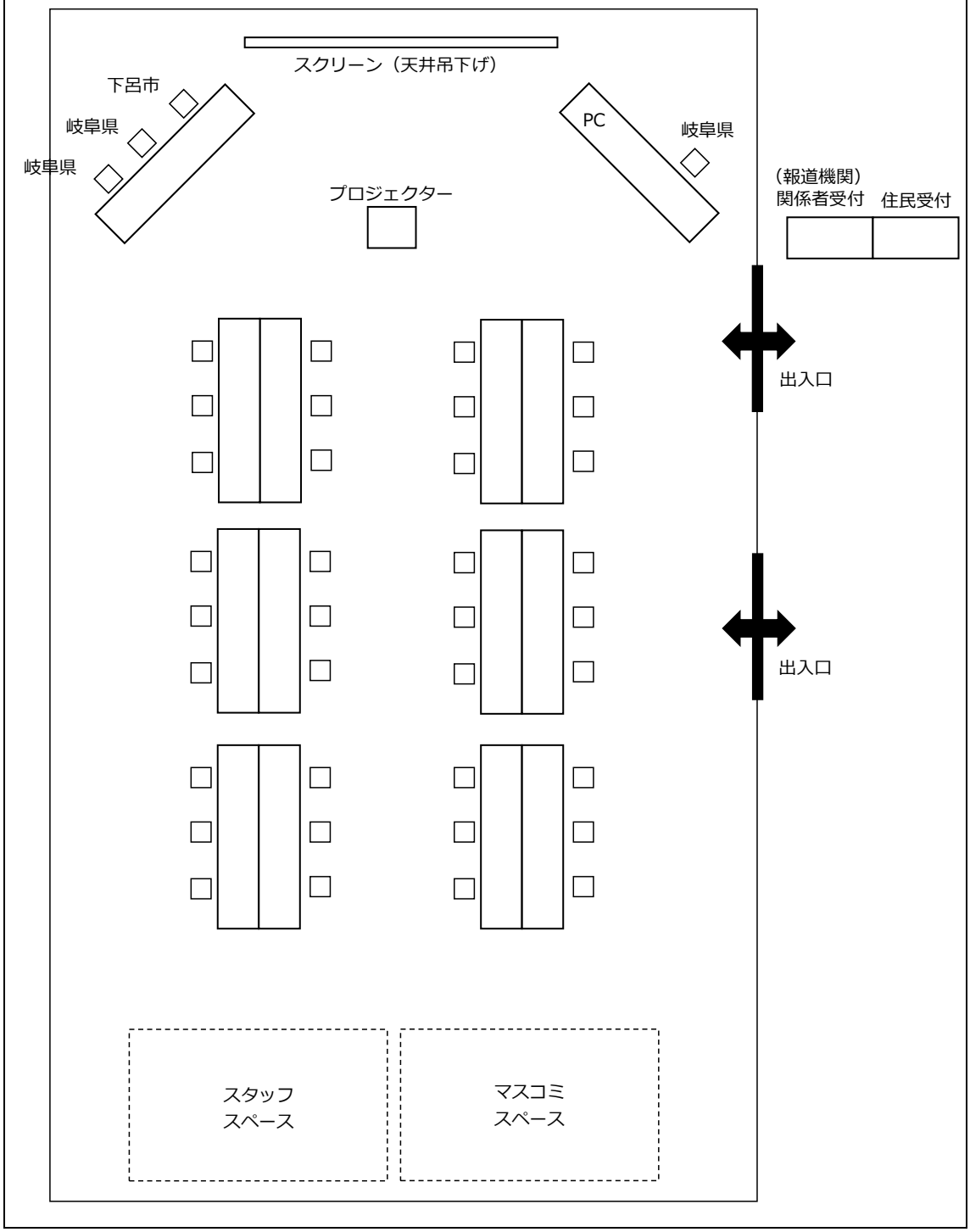


②【第２部】ワークショップ「災害・避難カードの活用について」

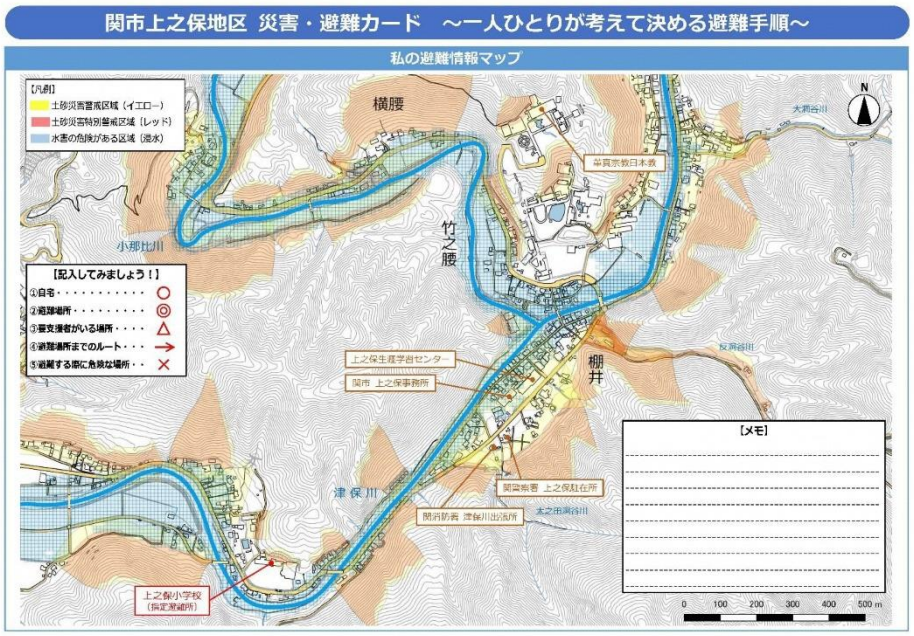


(7) 会場レイアウト（下呂市金山地区）

【第１部、２部共通】



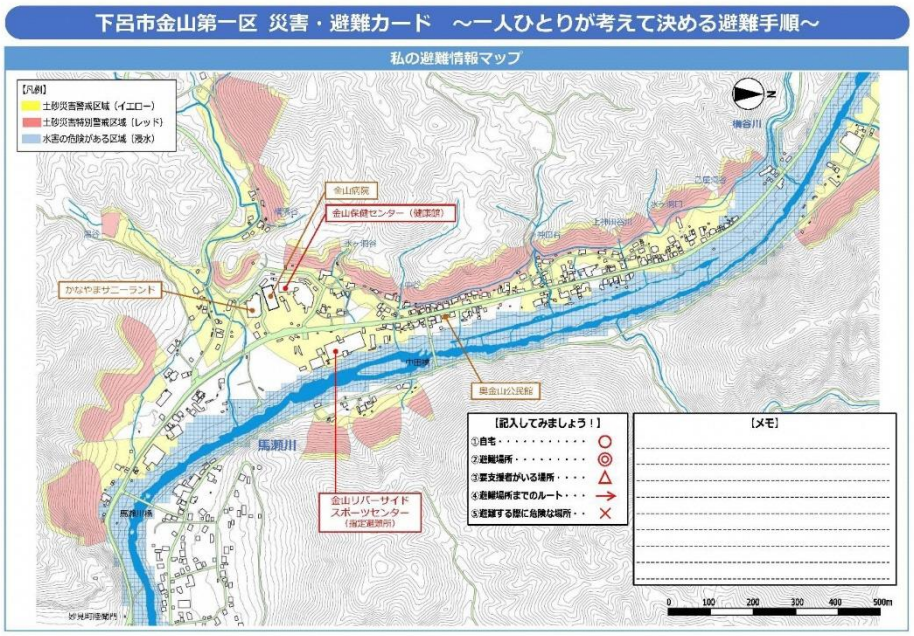
(8) 災害・避難カード（関市上之保地区）



1

2

(9) 災害・避難カード（下呂市金山第一区）



1

2

（10）災害・避難カードの活用に関するワークシート（共通）

「災害・避難カード」の活用について

早めに避難を完了するために、 皆でどう使っていきますか？	一人ひとりが避難の手順を考えるために、 どう家族や地域に広めますか？

(11) 準備物（共通）

項目	準備物等	備考	数量	確認
配布資料（個人）	次第	A4 版	60 部	
	【資料 1】一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について	A4 版	60 部	
	【資料 2】第 1 回, 第 2 回勉強会のふり返り	A4 版	60 部	
	【資料 3】災害・避難カード	A3 版	60 部	+20
	【資料 4】非常持出品リスト	A4 版	60 部	
	【資料 5】情報の入手方法	A4 版	60 部	
	アンケート用紙	A4 版	60 部	
	封筒	角型 2 号	60 枚	
配布資料（テーブル）	ワークシート	A1 版	6 枚	
その他（テーブル）	フセン（75×75mm、色指定なし）	–	適量	
	記入用サインペン	–	適量	
	記入用ボールペン	–	適量	
	記入用マーカーペン	–	適量	
その他（会場等）	名簿（参加者、関係者用）	A3 版	各 1 部	
	アンケート回収 BOX	–	2 個	
	会場案内用紙（会場入口掲示用）	–	2 枚	
	設営道具（テープ、磁石）	–	–	
	メモ用紙	–	–	
その他（電子機器等）	ノート PC	–	1 台	
	プロジェクター	–	1 台	
	ケーブル	–	–	
	延長コード	–	–	
	差し棒	–	–	
	デジタルカメラ	–	2 台	
	IC レコーダー	–	1 台	
	ビデオカメラ	–	1 台	
	三脚	–	1 台	
その他	カイロ	–	60 個	
	カイロ開封時用ごみ袋	–	1 枚	
	お茶	–	60 本	

(2)下呂市金山第一区

【第１回勉強会】次第

下呂市金山第一区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第１回）
次　第

日時：平成 31 年 1 月 16 日（水）19:00～21:30
場所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室

時間	プログラム
19:00～19:10	**開会** ○あいさつ 下呂市 金山振興事務所　金山地域振興課長 岐阜県 危機管理部 防災課　防災対策監 下呂市金山第一区　区長
19:10～19:30	**第１部 ガイダンス「本日の勉強会について」** ○開催趣旨の説明 ○全体的な検討スケジュールの説明 ○本日の勉強会についての説明 岐阜県 危機管理部 防災課
19:30～20:20	**第２部 ワークショップ「安全に避難するためには（7 月豪雨災害のふり返り 等)」** ○7 月豪雨災害のふり返り ○取ったら良かったと思う避難行動 ○他のグループの「ふり返り」確認
20:20～20:30	**休憩**
20:30～21:20	**第３部 講義「一人ひとりが考えて決める避難手順」** ○講義 清流の国ぎふ　防災・減災センター
21:20～21:30	**閉会** ○次回の開催内容の説明

●配布資料リスト
資料１　一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について
資料２　本日の勉強会について
資料３　大雨時の避難に必要な“所要時間”を計算しよう

【第１回勉強会】資料１

資料１

下呂市金山第一区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について

１　開催目的

平成３０年７月豪雨災害の際に、他県では、地域住民一人ひとりが避難場所などをあらかじめ認識するために作成した「災害・避難カード」が威力を発揮し、人的被害を防いだ事例がありました。

下呂市金山第一区においても、土砂災害等が多く発生したことから、自然災害の被害軽減のためには、住民自身による適切なタイミングでの避難が極めて重要となります。

そのため、「災害・避難カード」の作成をとおして、地域住民のみなさま一人ひとりが避難方法やタイミング、避難経路などについて話し合い、災害時にどのように行動するかを事前に決めておく取組みを実施します。

２　開催概要

計３回の勉強会を開催し、下呂市金山第一区における「災害・避難カード」を作成します。

具体的な内容と、各回の開催内容は以下のとおりです。

【第１回目（今回）】　平成３１年１月１６日（水）

勉強会の主旨やスケジュールなどを説明。お住まいの地区の災害リスクや、地区の防災対策の現状、避難にかかる時間などについて、みなさんと考えます。

【第２回目】　平成３１年２月３日（日）

まち歩きを実施し、災害のときに危険な場所、避難所などを確認し、避難場所まで安全に行くことができる方法などを確認します。

【第３回目】　平成３１年２月２４日（日）

第１、２回のワークショップ踏まえ、一人ひとりが「災害・避難カード」に避難にかかる時間、避難する時期や方法、経路、声掛けする方の氏名などを記入します。

3 災害・避難カードのイメージ

・災害・避難カードとは、災害発生時に、どんな情報をもとに、どの経路で、どこに避難するのか等を一目で分かるようにしたカードです。

・住民のみなさんが、過去の災害の記憶（情報）、避難経路上の危険箇所、避難するのにかかる時間、必要な防災対策（要配慮者への声かけ等）などを自らの手でカードに記載し、作成していきます。

・作成した「災害・避難カード」は、自宅の冷蔵庫など、普段目にとまる場所に置いておきます。また、今後防災訓練を行う際には、当カードを活用します。

○災害・避難カードのイメージ

災害・避難カード（●●地区）　～少しでも危険を感じたら迷わず避難！～

わたしの避難行動

災害	避難先	避難の合図
土砂災害	●●小学校 （そこまで逃げられない時は△△）	土砂災害の避難勧告

※避難先までの移動が危険と判断されるような状況の時は、自宅の上層階で山からできるだけ離れた部屋等へ移動

避難の心得

その1	**状況により、すばやく避難する** 自治体などからの情報を収集するとともに、避難準備情報や避難勧告などが発表されたら、早目に避難する
その2	**安全なうちに避難する** 雨が弱い、外が明るい、避難経路が利用可能等といった、避難先へと安全に移動するために必要な条件が整っているうちに避難する
その3	**防災メモを持つ** 事前に住所、氏名、連絡先などを記載したメモを用意し、身につけて避難する
その4	**家族とメッセージのやり取りを行う** 外出中の家族とは、携帯電話や「災害用伝言ダイヤル171」を活用して、「どこへ避難する」といったメッセージのやり取りを行う
その5	**助け合いながら避難** 近所のお年寄りなどへ声をかけながら、一緒に避難する

避難経路

「災害用伝言ダイヤル171」の使い方

電話で家族と連絡が取れないとき、「災害用伝言ダイヤル171」で自分から家族へのメッセージを録音でき、また、家族からのメッセージを聞くことができます。

［使い方］　※音声ガイダンスにしたがって録音、再生できます。

メッセージを録音する場合　「171」の後に「1」を押す　⇒　自宅の電話番号を押す（市外局番を忘れない）

メッセージを聞く場合　「171」の後に「2」を押す　⇒　自宅の電話番号を押す（市外局番を忘れない）

【第１回勉強会】資料２

資料２

一人ひとりが避難の手順を考える勉強会

本日の勉強会について

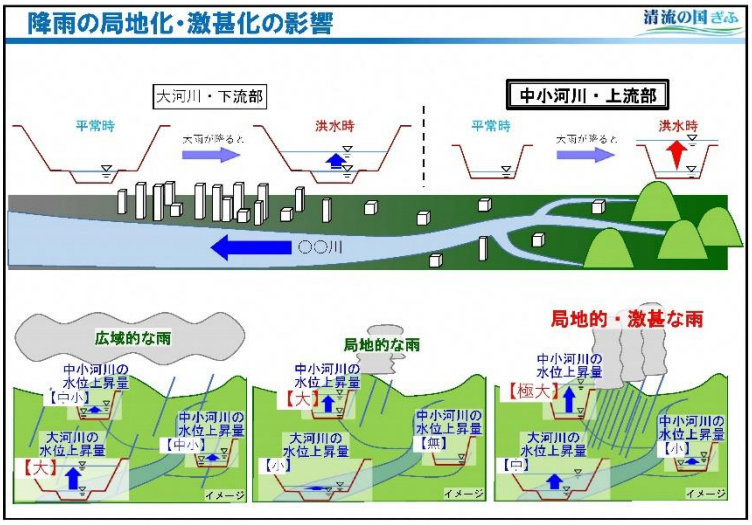
平成31年1月16日

1

河川災害

2

1


降雨の局地化・激甚化の影響
清流の国ぎふ
大河川・下流部
中小河川・上流部
平常時
洪水時
大雨が降ると
○○川
広域的な雨
局地的な雨
局地的・激甚な雨
中小河川の水位上昇量
【中小】
【大】
【極大】
【無】
【小】
大河川の水位上昇量
イメージ

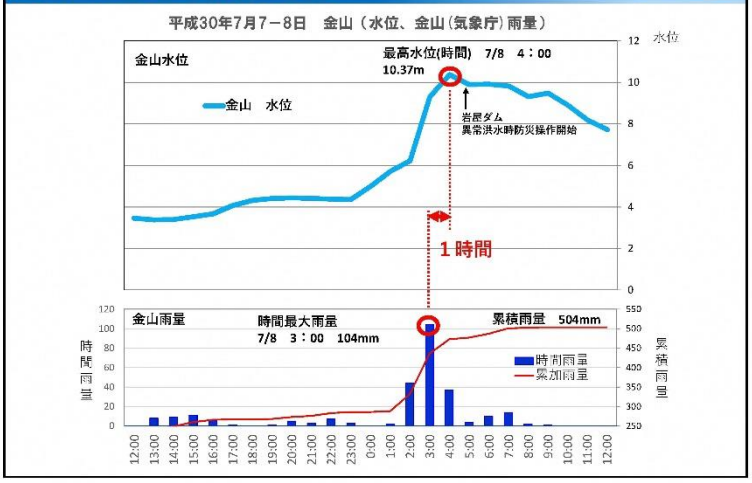
3

降雨の局地化・激甚化の影響
清流の国ぎふ
下呂市
金山第一区
金山水位観測所
金山雨量局

4

降雨の局地化・激甚化の影響

清流の国ぎふ



5

土砂災害

6

3

土砂災害の種類

清流の国ぎふ

土石流

谷から、土、石、木などが、大雨による水といっしょになって、一気に流れてくる現象。
（およそ時速40～50km）

土石流のおそれのある箇所
約6，500箇所

がけ崩れ

大雨や地震により、“がけ”が突然、崩れ落ちる現象。

がけ崩れのおそれのある箇所
約8，400箇所

地すべり

大雨により、地面が広い範囲にわたりゆっくりと動き出すものをいいます。

地すべりのおそれのある箇所
約100箇所

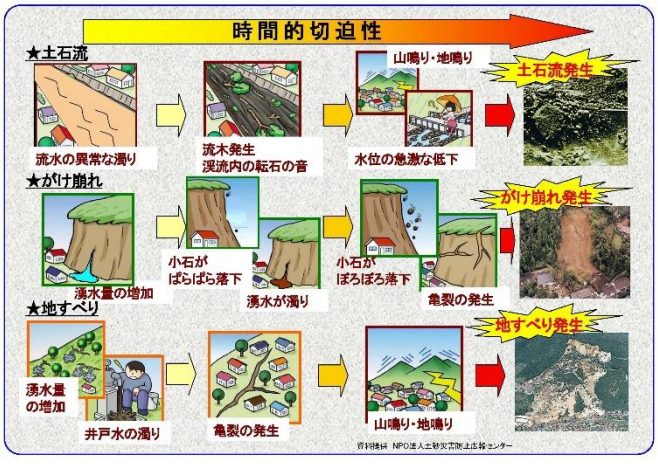
岐阜県内の土砂災害警戒区域数　約15，000箇所

資料提供　NPO法人土砂災害防止広報センター

7

土砂災害の前ぶれと呼ばれる現象

清流の国ぎふ



8

土砂災害防止法

清流の国ぎふ

土砂災害から住民の生命を守るために、
土砂災害が発生する恐れがある区域を明らかにし、
警戒避難体制の整備や一定の行為の制限を行う法律です。

基礎調査の実施
岐阜県が土砂災害により被害を受けるおそれのある場所の
地形や地質、土地の利用状況などを調査

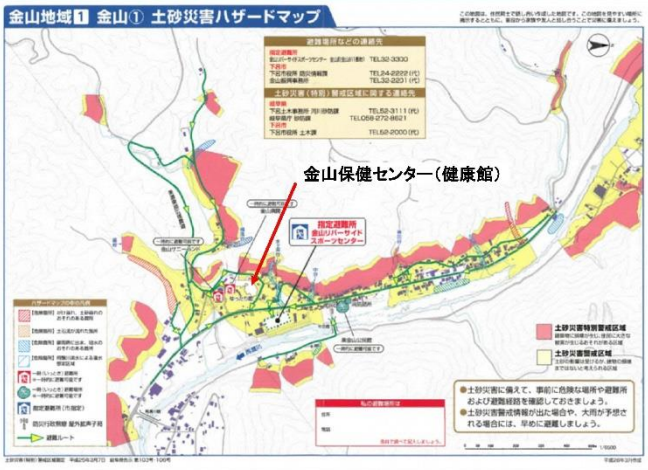
土砂災害警戒区域の指定
通称：イエローゾーン
（土砂災害のおそれがある区域）

土砂災害特別警戒区域の指定
通称：レッドゾーン
（建築物損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域）

9

土砂災害の危険性を表すマップ

清流の国ぎふ



10

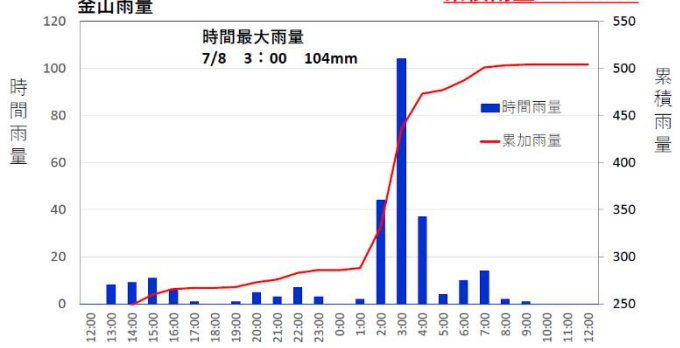
5

7月豪雨時の土砂災害の危険性

清流の国ぎふ

当時、累積雨量275mmの段階で、「土砂災害発生の危険性の基準」を超過していた。
２４時間の累積雨量では「土砂災害発生の危険性の基準」の超過時の約２倍を記録していた。

累積雨量　504mm



11

7月豪雨時の土砂災害例（近隣の災害）

清流の国ぎふ

7月8日発生　土石流災害　家之洞（岐阜県郡上市八幡町小那比）

12

7月豪雨時の土砂災害例（近隣の災害）

清流の国ぎふ

7月8日発生　土石流災害　家之洞（岐阜県郡上市八幡町小那比）

①谷部の崩落

②市道への土砂流入

③土砂氾濫

④家屋への土砂流入

13

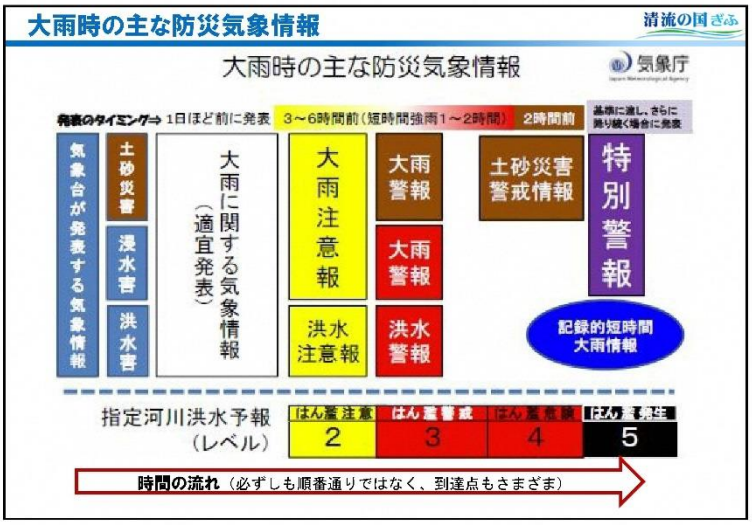
では、

このような
災害の**危険**を予測し、
身を守るために
必要な情報は・・・。

14

大雨時の主な防災気象情報

清流の国ぎふ



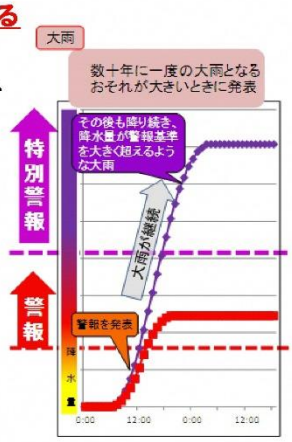
15

特別警報について

清流の国ぎふ

警報の発表基準をはるかに超える豪雨等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、**特別警報**を発表し、最大限の警戒を呼び掛けます。

特別警報が出た場合、
数十年に一度しかないような非常に危険な状況！
周囲の状況や市町村からの避難指示・避難勧告などの情報に留意し
ただちに命を守るための行動をとってください！



16

8

各市町村が発令する避難情報

清流の国ぎふ

避難情報の種類	発令時の状況	住民がとるべき避難行動	発令基準（市町村ごとの基準例）
避難準備・高齢者等避難開始	・人的被害の発生する危険性が高まった状況	・避難行動要支援者など、避難に時間を要する方（高齢者、障がい者、乳幼児を含む家族など）は、指定緊急避難場所などへの避難を開始 ・上記以外の方は、気象情報に注意し、非常用持出袋の用意などの避難準備を開始	・大雨警報（土砂災害）が発表され、土壌雨量指数が高まったとき ・河川水位が避難判断水位に到達したとき（はん濫警戒情報）
避難勧告	・人的被害の発生する危険性が明らかに高まった状況	・まだ避難行動を開始していない全ての住民が指定緊急避難場所などへの避難を開始	・土砂災害警戒情報が発表された時 ・河川水位がはん濫危険水位に到達したとき（はん濫警戒情報）
避難指示（緊急）	・人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況	・確実な避難を完了（まだ避難をしていない住民は、直ちに避難）	・上記の基準を上回る危険性が確認されたとき

17

7月豪雨時は、
避難指示（緊急）のみ発令。

- 基準水位がない河川あり（中小河川）。
- 中小河川は水位上昇が急。

18

新たな取組み

中小河川でも
避難情報を発令できるよう
基準を追加。

19

避難判断のための新たな取組み

清流の国ぎふ

1．中小河川における
避難判断参考水位の設定。
・家屋浸水が想定される一級河川に**危機管理型水位計**を設置。
・馬瀬川は既存の金山水位観測所に**避難判断参考水位**を設定。

2．**洪水警報の危険度分布図**の確認。
・3時間先の洪水予測。

3．**現地の情報収集体制**の強化
・消防・水防団からの情報収集　など

20

10

避難判断のための新たな取組み

清流の国ぎふ

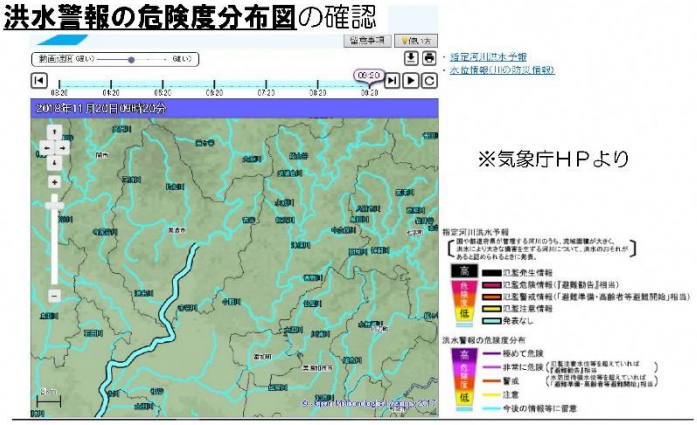
避難判断参考水位を新たに設定

21

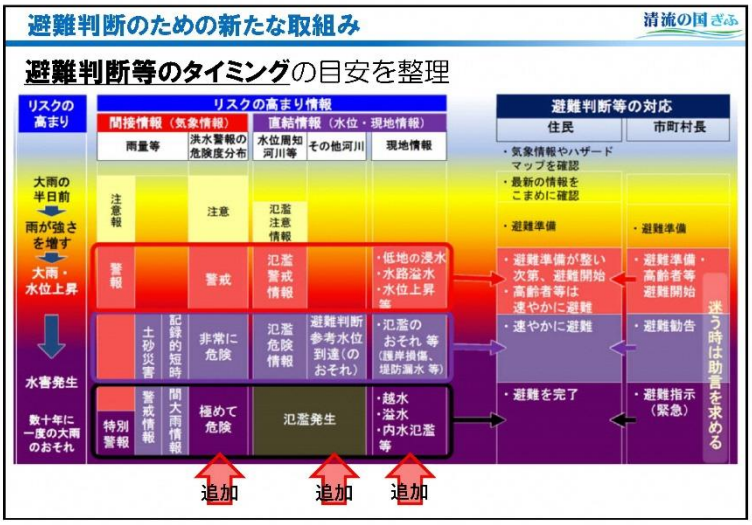
避難判断のための新たな取組み

清流の国ぎふ

洪水警報の危険度分布図の確認



22



23

しかし、

それだけでは**限界**。

取組を始めたばかり・・・
予測にも限界がある・・・

24

12

一人ひとりが
避難を考える取組み

自分の生活環境などをふり返り、
一人ひとりが避難の手順について考え、
どう行動するのか**あらかじめ決めておく**。

それが今回の取組み

25

【第１回勉強会】資料３

地区名＿＿＿＿＿＿　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿　資料３

大雨時の避難に必要な“所要時間”を計算しよう

- 大雨時避難の活動手順を整理します
- 『早めの避難』とは『スピード速く』ではなく、『タイミング早く』であることを理解して下さい

① 安全な所はどこですか？

② 片道何分ですか？(通常)　(徒歩)＿＿＿分　(車)＿＿＿分

③ 片道何分ですか？(豪雨時)　(徒歩)＿＿＿分　(車)使用不可

④ 避難を決断してから家を出るまでに何分必要ですか？　＿＿＿＿分

⑤ 避難を決断してから、安全な所に無事辿り着くまでに何分かかりますか？

②+④	②+④	③+④
(徒歩)＿＿＿分	(車)＿＿＿分	(豪雨時)＿＿＿分

■時間雨量が 20mm を越えると、屋外は危険

⑥ 持ち物は？

合計 ＿＿＿＿＿ ｋｇ

1

要支援者の支援手順と所要時間も整理しよう

⑦ 要支援者にとっての安全な所はどこですか？

⑧ 要支援者はどこにいますか？	
どなたですか？	さん
⑨ 気象情報の入手方法は？	
⑩ 避難開始を決断する目安は？	
⑪ 不安と感じる現象は？(複数)	
⑫ 避難開始を誰が決断しますか？	さん
⑬ 誰が避難開始を連絡しますか？	さん
⑭ 誰に避難開始を連絡しますか？	さん
⑮ 連絡手段は？	
⑯ 第二の連絡手段は？	
⑰ 安全な所の解錠手順は？	
⑱ 安全な所の解錠担当者は？(複数名)	さん　さん　さん
⑲ 避難手段は(徒歩、誰の車)？	
㉑避難ルートは？	

㉒命を守る為に必要な総所要時間（決断⇒連絡完了⇒避難準備完了
⇒安全な所の解錠完了⇒避難開始⇒避難中⇒全員の避難完了）は？

約　　時間　　分

㉓先送りや時間切れの原因は？

【第１回勉強会】参加者アンケート

一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第１回）
参加者アンケート

本日の勉強会で感じたことなどについて、ご記入をお願いいたします。
今後の参考とさせていただきます。

(1) 最初に、普段からの備えについて教えてください。

①ご自身が避難する避難場所を知っていますか。
知っていた ←　→ 知らなかった

②土砂災害や洪水のおそれがある場合、家族で避難場所や避難行動の方法を決めていますか。
はい ←　→ いいえ

③ハザードマップを確認したことがありますか。
はい ←　→ いいえ

(2) 次に、下記の各項目に対し、ご自分の感想と近い項目に○をつけてください。

①第１回勉強会の時間はどうでしたか。
短い ←　ちょうどよい　→ 長い

②配布資料はどうでしたか。
わかりやすい ←　どちらとも言えない　→ わかりにくい

③会場全体に掲示した資料や各テーブルに配置した資料はわかりやすいものでしたか。
わかりやすい ←　どちらとも言えない　→ わかりにくい

④説明の時間はどうでしたか。
短い ←　ちょうどよい　→ 長い

⑤ガイダンス「本日の勉強会について」の内容はいかがでしたか。
わかりやすい ←　どちらとも言えない　→ わかりにくい

⑥ワークショップ「安全に避難するためには（7 月豪雨災害のふり返り 等）」の内容はいかがでしたか。

わかりやすい ← どちらとも言えない → わかりにくい

⑦講義「一人ひとりが考えて決める避難手順」の内容はいかがでしたか。

楽しかった ← どちらとも言えない → つまらなかった

⑧いつまでに避難を完了するのがよいか分かりましたか。

はい ← どちらとも言えない → いいえ

⑨土砂災害や洪水に関することについて、知識が身につきましたか。

高まった ← どちらとも言えない → 高まらなかった

⑩第１回勉強会に参加したことで、防災の取組に対する意欲は高まりましたか。

高まった ← どちらとも言えない → 高まらなかった

(3) 最後に、今後情報提供して欲しいこと、第１回勉強会の印象や質問、地域で活動されていることなど、何でも自由にご記入ください。

性別　男性・女性
年代　20 代・30 代・40 代・50 代・60 代・70 代・80 代・90 代以上
地区　白山町 1，2，3，4，5，6 班・諏訪町 1，2，3，4，5 班
お名前　（　　） ※お名前のご記入は任意です。

ご協力ありがとうございました。お帰りの際にご提出ください。

【第１回勉強会】とったらよかったと思う避難行動（意見交換の結果）

①当時の行動やできなかったこと

・当時は、避難するタイミングがよくわからなかった。
・午前４時頃に、薬や服を持って金山病院に避難した。
・避難できなかった。隣の人が寝ていたため、付き添っていた。
・冠水した道、土砂が流出した道を通って避難した。
・避難の準備に時間がかかるためあらかじめ持ち物を決めておく。
・避難用具を備えておけばよかった。
・防災カバンを用意しておけばよかった（災害後、用意した）。
・大人３人家にいた。避難することもできなかった。雨音がすごく大石がごろごろと谷を転がる音がした。
・雨雲レーダーを随時確認しておけばよかった。

②命を守る具体的な気づき

・避難所のカギを区長が保管し、地域で開設することができるようにする。
・明るいうちに自主避難できればよかった。
・近所で連絡をどう取りあうか考えておく。
・警報が出そうな時に避難の準備をしておけばよかった。
・体験した災害について、災害に至る時間的経過や状況がイメージしやすいので、学校の授業に活用してはどうか。
・数件となりまで声をかけたい。
・日頃から班で話し合うことが必要。
・地域で確実に安全な場所があるのか？現実には厳しいのはないか。助かるためには、地域外に逃げることも必要かもしれない。
・地域が広範囲なので、緊急時にどのように連絡を取り合えばよいのかを考えておく。
・避難所で時間をつぶせるものを持っていけばよかった。

【第１回勉強会】参加者の感想

下呂市金山地区　第1回WSアンケート集計　　回答件数:31

(1) 最初に、普段からの備えについて教えてください。
①ご自身が避難する避難場所を知っていますか。

知っていた	30
知らなかった	1

②土砂災害や洪水のおそれがある場合、家族で避難場所や避難行動の方法を決めていますか。

はい	18
いいえ	13

③ハザードマップを確認したことがありますか。

はい	22
いいえ	9

(2) 次に、下記の各項目に対し、ご自分の感想と近い項目に○をつけてください。
①第1回勉強会の時間はどうでしたか。

短い	1
ちょうどよい	25
長い	5

②配布資料はどうでしたか。

わかりやすい	24
どちらとも言えない	6
わかりにくい	1

③会場全体に掲示した資料や各テーブルに配置した資料はわかりやすいものでしたか。

わかりやすい	25
どちらとも言えない	6
わかりにくい	0

④説明の時間はどうでしたか。

短い	0
ちょうどよい	31
長い	0

⑤ガイダンス「本日の勉強会について」の内容はいかがでしたか。

わかりやすい	23
どちらともいえない	8
わかりにくい	0

⑥ワークショップ「安全に避難するためには（7月豪雨災害のふり返り 等）」の内容はいかがでしたか。

わかりやすい	21
どちらともいえない	10
わかりにくい	0

⑦講義「一人ひとりが考えて決める避難手順」の内容はいかがでしたか。

楽しかった	16
どちらとも言えない	15
つまらなかった	0

⑧いつまでに避難を完了するのがよいか分かりましたか。

はい	27
どちらとも言えない	3
いいえ	1

⑨土砂災害や洪水に関することについて、知識が身につきましたか。

高まった	30
どちらとも言えない	1
高まらなかった	0

⑩第1回勉強会に参加したことで、防災の取組に対する意欲は高まりましたか。

高まった	27
どちらとも言えない	4
高まらなった	0

(3) 最後に、今後情報提供して欲しいこと、第1回勉強会の印象や質問、地域で活動されていることなど、何でも自由にご記入ください。

・避難所の錠を区長に。 ・近所に連絡をどうしてするか考える
避難するタイミングがよくわからない
一人暮らしのお年寄りなど高齢者世帯が多いので、特に、情報を徹底してほしいと思いました。
子どもたちが体験した災害なので、災害に至る時間的経過や状況がイメージしやすいので、学校の授業に活用してほしい。教材とすることも可能。家に帰って、子どもたちと話し合いを持ちたい。
今後多くこうした時間を作ってください。
第一区でこのような災害があったことで、家庭でも防災の話をすることができた。意識が高まり、今後も引き続き話をしていきたい。
日頃班で話し合うことが必要
今の地域で確実に安全な場所があるのか、現実問題厳しい。自分や家族は助かりたいが、今の地域を見捨てないとたすからないのか。
緊急時に、どのように連絡を取り合えばよいのか？ 地域が広範囲である。
初めての出来事であった。どうしていいかわからなかったことは事実である。早く避難するサインが出ていたかもしれないが、それを理解することはできなかった。区民はみな、そうでなかっただろうか。教訓にしたい。
勉強になりました。今回参加されていない住民の方々も広く参加されることを願います。
避難所に指定されている場所に、仮設トイレを早急に設置できるようにしていてほしい。
避難時には何を持って行けばよいか？

性別

男性	27
女性	4

年代

20代	0
30代	3
40代	4
50代	4
60代	18
70代	2
80代	0
90代以上	0

地区

白山町1班	3
白山町2班	5
白山町3班	5
白山町4班	2
白山町5班	0
白山町6班	0
諏訪町1班	4
諏訪町2班	3
諏訪町3班	5
諏訪町4班	3
諏訪町5班	0

下呂市金山第一区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第１回）
★事務局資料（確定版）★

１ 勉強会について

(1) 開催目的

平成 30 年 7 月豪雨災害の際に、他県では、地域住民一人ひとりが避難場所などをあらかじめ認識するために作成した「災害・避難カード」が威力を発揮し、人的被害を防いだ事例があった。

下呂市金山第一区においても、土砂災害等が多く発生したことから、自然災害の被害軽減のためには、住民自身による適切なタイミングでの避難が極めて重要となる。

そのため、「災害・避難カード」の作成を通して、地域住民一人ひとりが避難方法やタイミング、避難経路などについて話し合い、災害時にどのように行動するかを事前に決めておく取組みを実施する。

(2) 開催概要

計３回の勉強会を開催し、下呂市金山第一区における「災害・避難カード」を作成する。各回の開催内容は以下のとおりとする。

【第１回勉強会】

日時：平成 31 年 1 月 16 日（水）19:00～21:30

場所：金山町 健康館･保健センター １階 栄養指導室

内容：勉強会の開催趣旨やスケジュールなどを説明。地区の災害リスクや、地区の防災対策の現状、避難にかかる時間などについて、住民とともに考える。

【第２回勉強会】

日時：平成 31 年 2 月 3 日（日）9:30～12:00（予定）

場所：下呂市金山第一区内（調整中）

内容：まち歩きを実施し、災害のときに危険な場所、避難所などを確認し、避難場所まで安全に行くことができる方法などを確認する。

【第３回勉強会】

日時：平成 31 年 2 月 24 日（日）9:30～12:00（予定）

場所：金山町 健康館･保健センター １階 栄養指導室（調整中）

内容：第１回及び第２回ワークショップを踏まえ、一人ひとりが「災害・避難カード」に避難にかかる時間、避難する時期や方法、経路、声掛けする方の氏名などを記入する。

(3) 作成する「災害・避難カード」のイメージ

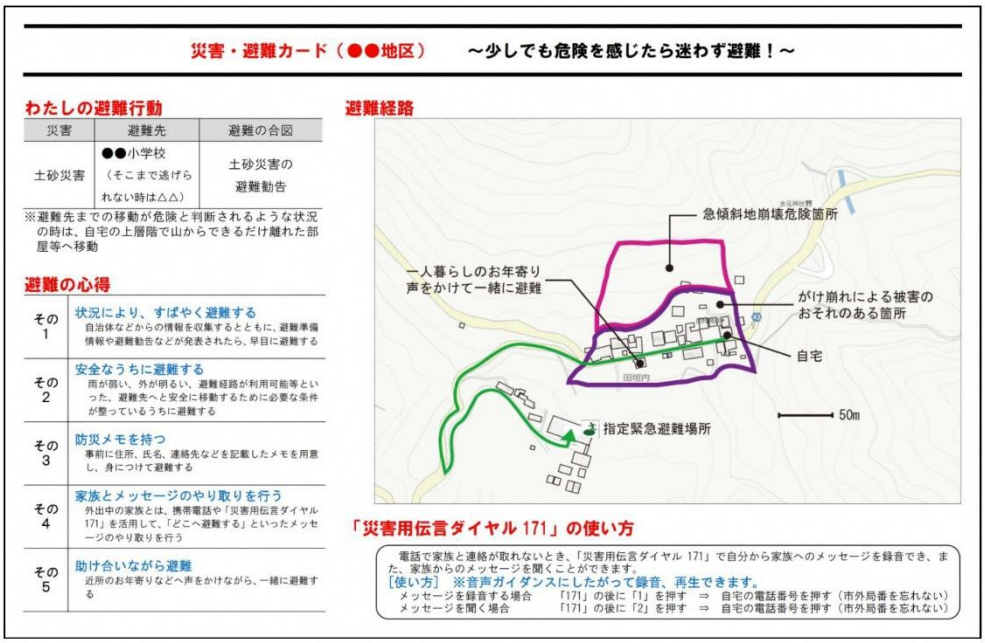
災害・避難カードとは、災害発生時に、どんな情報をもとに、どの経路で、どこに避難するのか等を一目で分かるようにしたカードである。

住民のみなさんが、過去の災害の記憶（情報）、避難経路上の危険箇所、避難するのにかかる時間、必要な防災対策（要配慮者への声かけ等）などを自らの手でカードに記載し、作成していく。

作成した「災害・避難カード」は、自宅の冷蔵庫など、普段日にとまる場所に置いておく。また、今後防災訓練を行う際には、当カードを活用する。

下呂市金山第 一区の「災害・避難カード」の構成は、金山第 一区長と下呂市危機管理課と協議しながら、第3回勉強会までに検討・確定する。

＜「災害・避難カード」のイメージ＞



災害・避難カード（●●地区）　～少しでも危険を感じたら迷わず避難！～

わたしの避難行動

災害	避難先	避難の合図
土砂災害	●●小学校 （そこまで逃げられない時は△△）	土砂災害の避難勧告

※避難先までの移動が危険と判断されるような状況の時は、自宅の上層階で山からできるだけ離れた部屋等へ移動

避難の心得

その1	状況により、すばやく避難する 自治体などからの情報を収集するとともに、避難準備情報や避難勧告などが発表されたら、早目に避難する
その2	安全なうちに避難する 雨が弱い、外が明るい、避難経路が利用可能等といった、避難先へと安全に移動するために必要な条件が整っているうちに避難する
その3	防災メモを持つ 事前に住所、氏名、連絡先などを記載したメモを用意し、身につけて避難する
その4	家族とメッセージのやり取りを行う 外出中の家族とは、携帯電話や「災害用伝言ダイヤル171」を活用して、「どこへ避難する」といったメッセージのやり取りを行う
その5	助け合いながら避難 近所のお年寄りなどへ声をかけながら、一緒に避難する

避難経路

「災害用伝言ダイヤル171」の使い方

電話で家族と連絡が取れないとき、「災害用伝言ダイヤル171」で自分から家族へのメッセージを録音でき、また、家族からのメッセージを聞くことができます。
［使い方］　※音声ガイダンスにしたがって録音、再生できます。
メッセージを録音する場合　「171」の後に「1」を押す　⇒　自宅の電話番号を押す（市外局番を忘れない）
メッセージを聞く場合　「171」の後に「2」を押す　⇒　自宅の電話番号を押す（市外局番を忘れない）

2 第１回勉強会について

(1) 開催プログラム

日時：平成 31 年 1 月 16 日（水） 19:00～21:30
場所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室

時間	プログラム
19:00～19:10	**開会** ○あいさつ 下呂市 金山振興事務所　金山地域振興課長 岐阜県 危機管理部 防災課　防災対策監 下呂市金山第一区　区長
19:10～19:30	**第１部 ガイダンス「本日の勉強会について」** ○開催趣旨の説明 ○全体的な検討スケジュールの説明 ○本日の勉強会についての説明 岐阜県 危機管理部 防災課
19:30～20:20	**第２部 ワークショップ「安全に避難するためには（7 月豪雨災害のふり返り 等)」** ○7 月豪雨災害のふり返り ○取ったら良かったと思う避難行動 ○他のグループの「ふり返り」確認
20:20～20:30	**休憩**
20:30～21:20	**第３部 講義「一人ひとりが考えて決める避難手順」** ○講義 清流の国ぎふ　防災・減災センター
21:20～21:30	**閉会** ○次回の開催内容の説明

【参加者配布資料】
資料１：一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について
資料２：本日の勉強会について
資料３：大雨時の避難に必要な“所要時間”を計算しよう

(2) 当日の動き

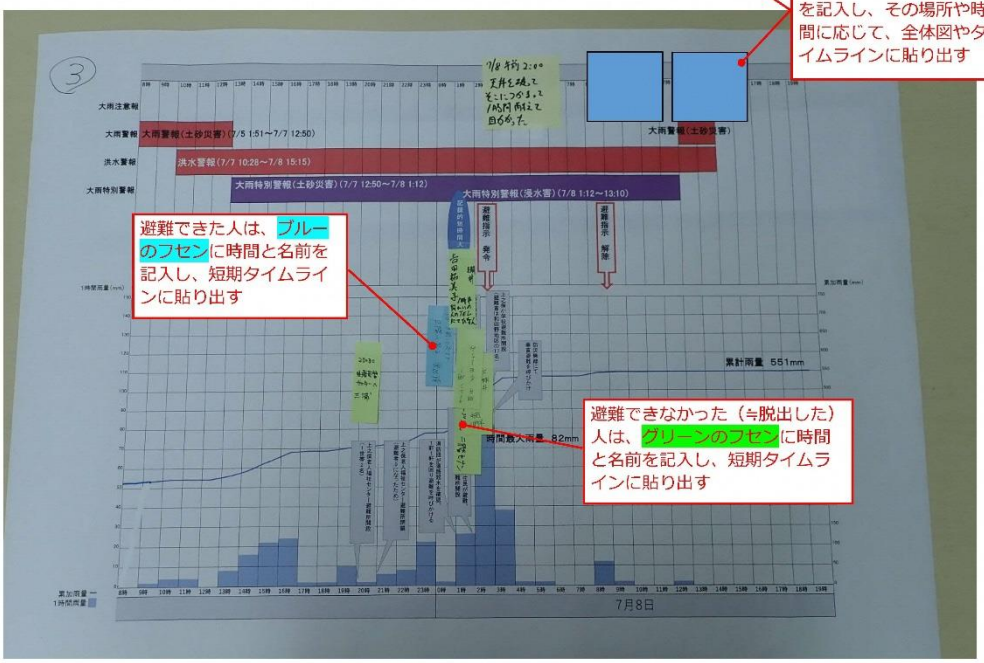
	時間	内容	役割分担
1	17:30	**集合** ○事務局スタッフは、17:30 までに現地に集合する ○金山振興事務所職員に会場を解錠していただき、荷物を搬入する	各自
2	17:35～18:00	**会場設営①** ○テーブルを 4 グループ分配置する ○参加者が想定より多かった時のために、2 グループ分余分に配置する ○1 グループあたり、テーブルは 2 本並べて配置する ○椅子を、1 グループあたり 8 脚配置する	委託業者が対応
3		**会場設営②** ○事務局用にテーブルを 2 本（講師等着席用）配置する ○そのうち 1 本は演台とする ○事務局用に椅子を 4 脚程度配置する ○傍聴者（関係者）用に椅子を 15 脚程度配置する	委託業者が対応
4		**会場設営③** ○スクリーンとプロジェクター台を配置する ○ノート PC とプロジェクターを設置し、投影を確認する	委託業者が対応
5		**会場設営④** ○入口付近（室外）に受付用にテーブルを 2 本配置する	委託業者が対応
6	18:00～18:15	**資料配布①** ○各グループに以下の資料を配置する （上から順番に） ・全体図（A0 版、1 枚） ・短期タイムライン（A1 版、1 枚） ○各グループに以下の WS グッズを配置する ・記入用ボールペン（10 本） ・マーカーペン（1 セット） ・75×75mm フセン（ピンク／イエロー／ブルー、各適量） ・75×25mm フセン（ブルー／グリーン、各適量）	委託業者が対応
7		**資料配布②** ○壁･ホワイトボードに掲示する資料を準備する ・全体図（A0 版、1 枚） ・長期タイムライン（A0 版、1 枚） ・メンディングテープ、磁石、画びょうなど	委託業者が対応

8	18:00～18:15	**資料配布③** ○受付用テーブルに以下の資料等を配置する ・参加者受付用紙（A3 版、3 枚） ・関係者受付用紙（A3 版、1 枚） ・記入用ボールペン（5 本） ・参加者配布資料一式（ペットボトル飲料、カイロ含む） ○テーブル割り図を掲示する ○健康館入口等に会場の案内用紙を掲示する	委託業者が対応
9	18:15～18:30	**事務局ミーティング** ○当該資料（(2) 当日の動き）を用いて、勉強会の流れを確認する ○第 2 部 WS の進め方、役割分担について確認する	委託業者が説明
10	18:30～19:00	**受付** ○参加者の受付をする ・名簿に名前を記入してもらい、班に○印をつけてもらう ・参加者配布資料一式を手渡し、テーブル割り図を使って案内する ・会場内に案内係を配置し、入ってきた参加者を各テーブルへ案内する ○関係者の受付をする ・名簿に所属と名前を記入してもらう ・岐阜県につなげる ○開会後 10 分程度は受付対応し、その後、受付用紙を持って会場に入る	委託業者と岐阜県ｽﾀｯﾌで対応 受付　2名 案内　4～5名程
11	19:00～19:10	**開会** ○全体の司会進行は委託業者が行う ○開会にあたり、下呂市からあいさついただく ○続いて、岐阜県からあいさついただく ○最後に、金山第一区長からあいさついただく ○配布資料の確認を行う ・配布資料に不足があれば、事務局スタッフが補充する ・アンケートの記入を依頼する	委託業者が司会進行 あいさつは、 ①下呂市 ②岐阜県 ③区長 の順番
12	19:10～19:30	**第 1 部 ガイダンス「本日の勉強会について」** ○第 1 部 ガイダンスは、岐阜県が説明する ・マイクを岐阜県に渡す ○資料 2 を用いて、勉強会の開催趣旨、全体的な検討スケジュールを説明する ○資料 1 を用いて、本日の勉強会について説明する ○資料 3 及びノート PC を用いて、本日の勉強会について説明する ○説明後、マイクを委託業者に戻す	委託業者が司会進行 岐阜県が説明

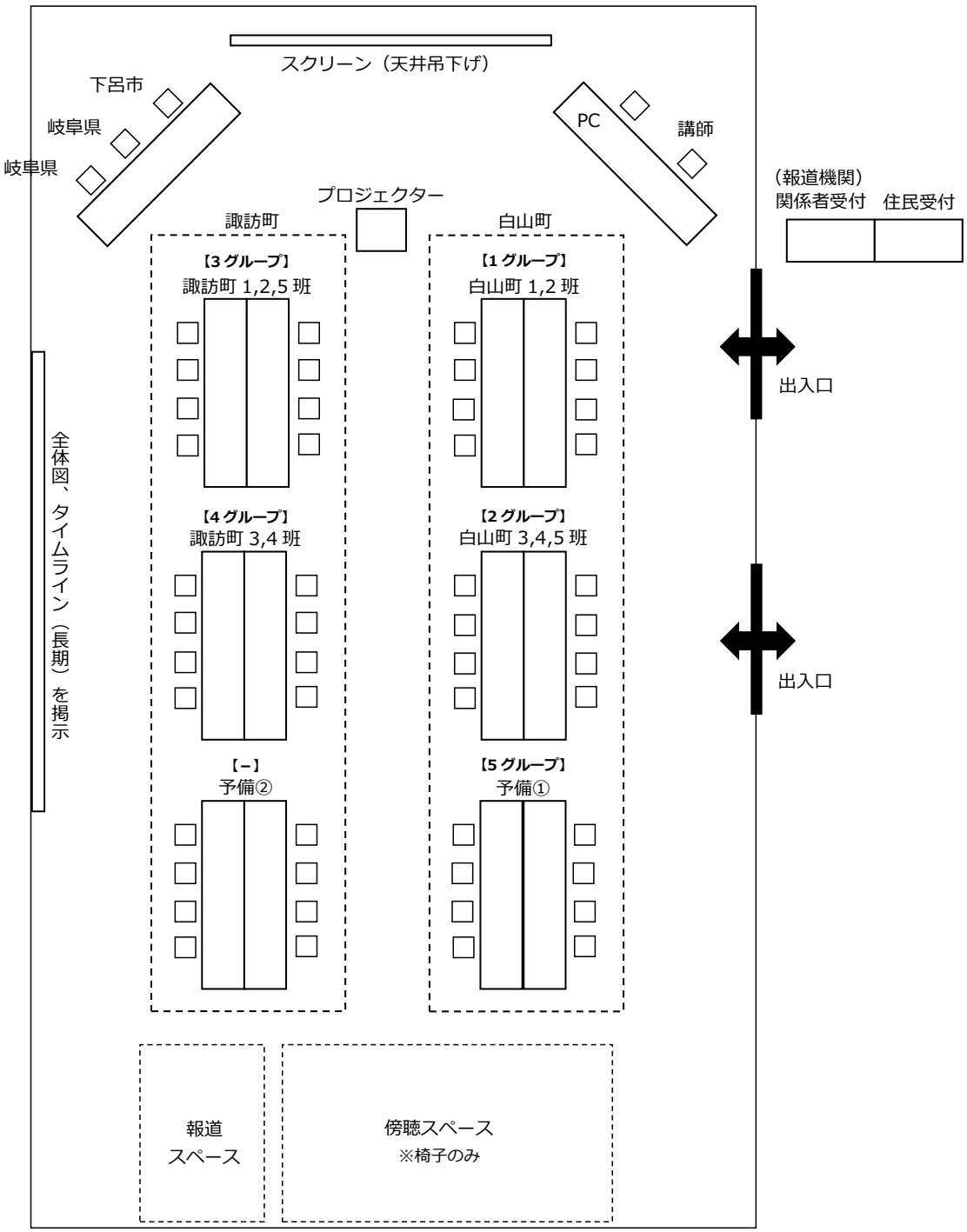
13	19:30～20:20	**第２部 ワークショップ「安全に避難するためには（7 月豪雨災害のふり返り 等)」** ○ワークショップの内容について、委託業者から説明する ○進行及びタイムキーパーも委託業者が務める ○事務局スタッフは、各グループに移動する ○7 月豪雨災害のふり返りを行う（30 分） ・発生した事象と取った避難行動について、参加者自身がフセンに書き出す ・フセンは 75×75mm、発生した事象はピンク、取った避難行動はイエロー ・書き出したフセンを全体図に貼り出す ・ペンが進まない参加者には、積極的に声をかけ、当時の様子を聞き出し、代わりにフセンに記入して全体図に貼り出す ・参加者が最初に確認した事象をチェック（フセンに○印をつける）し、短期タイムラインに記入する ・参加者自身がフセンに地区名と名前を記入し、短期タイムラインへ避難行動をとった時間の辺りに貼り出す ・フセンは 75×25mm、避難できたはブルー、避難できなかった（≒脱出した）はグリーン ○取ったら良かったと思う避難行動（15 分） ・取ったら良かったと思う行動について、参加者自身がフセンに書き出す ・フセンは 75×75mm、取ったら良かったと思う行動をブルー ・書き出したフセンを全体図や短期タイムラインに貼り出す ○他のグループの「ふり返り」確認（5 分） ・参加者が一斉に他のグループの「ふり返り」を確認する ・事務局スタッフはテーブルに残り、話し合いの内容を説明する ○参加者が自分のテーブルに戻ったところで、委託業者が第 2 部の終了を宣言する	委託業者が司会進行 各グループの担当スタッフは以下のとおり 【1 グループ】 4 名 【2 グループ】 3 名 【3 グループ】 3 名 【4 グループ】 3 名 【5 グループ】 3 名 ※参加者の人数に合わせてグループ数を調整
14	20:20～20:30	**休憩** ○10 分間程度の休憩を取る ○休憩時間は、全体の進行状況を見て調整する ○休憩中、事務局スタッフは各グループでの話し合いの結果を整理し、掲示用の全体図に記入する ○記入した全体図と長期タイムラインを壁やホワイトボードに貼り出す	岐阜県を中心に対応
15	20:30～21:20	**第３部 講義「一人ひとりが考えて決める避難手順」** ○委託業者より、講師を紹介する ○講師にマイクを手渡す ○講師の講義中にある避難に必要な所要時間の記入の際、事務局スタッフは参加者の記入をフォローする ○記入が終わった用紙を回収し、コピーして返却する（？） ○講師の講義が終わったら、マイクを委託業者に戻す	委託業者が司会進行

16	21:30～22:00	**後片付け** ○参加者からアンケートを回収する ○忘れ物がないよう、参加者に呼びかけながら、退室を促す ○テーブルと椅子を元の位置に戻す ○ノート PC とプロジェクターを閉じて、演台やスクリーンを元の位置に戻す ○フセンが貼り出された全体図、短期タイムラインは、写真を撮ってからしまう ○長期タイムライン、地区割り図、会場案内図など、跡が残らないように丁寧に剥がす	委託業者が全体指揮 全ｽﾀｯﾌで対応
17	22:00	**会場退出** ○会場から一切の荷物を運び出す ○忘れ物がないか確認する	－
18	22:00～22:15	**撤収** ○荷物を車に乗せて、撤収する	－

(3) ワークショップの進め方



(4) 会場レイアウト


スクリーン（天井吊下げ）
下呂市
岐阜県
岐阜県
PC
講師
プロジェクター
諏訪町
白山町
【3 グループ】
諏訪町 1,2,5 班
【1 グループ】
白山町 1,2 班
【4 グループ】
諏訪町 3,4 班
【2 グループ】
白山町 3,4,5 班
【－】
予備②
【5 グループ】
予備①
（報道機関）
関係者受付
住民受付
出入口
出入口
全体図、タイムライン（長期）を掲示
報道
スペース
傍聴スペース
※椅子のみ

(5) 準備物

項目	準備物等	備考	数量	確認
配布資料（個人）	次第	A4 版片面	70 部	
	事業概要資料【資料 1】	A4 版両面	70 部	
	本日の勉強会について（パワーポイント資料 2in1 印刷）【資料 2】	A4 版	70 部	
	大雨時の避難に必要な"所要時間"を計算しよう【資料 3】	A4 版両面	70 部	
	第１回アンケート	A4 版両面	70 部	
	非常用呼子笛	–	70 個	
	カイロ	–	70 個	
	角２封筒	角２	70 部	
配布資料（テーブル）	全体図	A0 版	5 枚	
	短期タイムライン	A1 版	5 枚	
会場掲示資料	全体図	A0 版	1 部	
	長期タイムライン	A0 版横長	1 部	
その他（テーブル）	記入用ボールペン（ジェットストリーム 0.7mm）	–	70 本	
	浸水状況記入用油性ペン（マッキー細･極細）	–	12 本	
	地区詳細図記入用マーカーペン（プロッキー10 色）	–	6 ｾｯﾄ	
	75mm×75mm ふせん（ピンク、イエロー、ブルー）	–	6 ｾｯﾄ	
	75mm×25mm ふせん（ブルー、グリーン）	–	6 ｾｯﾄ	
その他（会場）	名簿（参加者用、関係者用）	A3 版	２部	
	名簿記入用ボールペン（ジェットストリーム 0.7mm）	–	２本	
	会場案内図（健康館入口等での案内用）	A3 版	1 ｾｯﾄ	
	設営道具（テープ、ピン、ごみ袋など）	–	–	
	全体図（報道対応用）	A3 版	適量	
	A4 用紙（メモ用）	A4 版	適量	
	A3 用紙（メモ用）	A3 版	適量	
その他（電子機器等）	ノートPC	–	1 台	
	プロジェクター	–	1 台	
	ケーブル	–	1 本	
	延長コード	–	1 台	
	差し棒	–	1 本	
	デジタルカメラ	–	1 台	
	ビデオカメラ（あれば）+三脚	–	1 ｾｯﾄ	
	レーザーポインタ（スクロール機能付き）		1 台	
	IC レコーダー	–	1 台	
その他	お茶	–	100 本	

【第２回勉強会】次第

下呂市金山第一区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第２回）
次 第

日時：平成 31 年 2 月 3 日（日）9:30～12:00
場所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室 他

時間	プログラム
9:30～9:35	**開会** ○あいさつ（5 分） 岐阜県 危機管理部 防災課　地域防災支援監 下呂市金山第一区　区長
9:35～10:15	**【第１部】講義「次の大雨への備え ～危険と課題～」** ○勉強会の概要説明（5 分） 岐阜県 危機管理部 防災課 地域支援係長 ○講義（35 分） ・第１回勉強会のふり返り ・一人ひとりが考えて決める避難手順 ・自分の地域に予想される危険について 清流の国ぎふ 防災･減災センター
10:15～10:25	**休憩**
10:25～11:55	**【第２部】まち歩き「地域に潜む危険を知る」** ○まち歩きの手順説明（5 分） ○まち歩き（60 分） ○まち歩きを踏まえた意見交換（25 分） 清流の国ぎふ 防災･減災センター
11:55～12:00	**閉会** ○あいさつ 下呂市　金山振興事務所 ○第３回勉強会の開催内容の説明（5 分）

<配布資料>

次第
資料１　下呂市金山第一区 一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について
資料２　本日の勉強会について
資料３　第１回勉強会のふり返り
資料４　下呂市金山第一区 まち歩き用地図
参加者アンケート

【第２回勉強会】資料２

資料２

下呂市金山第一区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会
第１回勉強会のふり返り

１ 開催概要

開催日時：平成３１年１月１６日（水）　午後７時～午後９時 30 分
開催場所：下呂市金山町　健康館・保健センター１階　栄養指導室

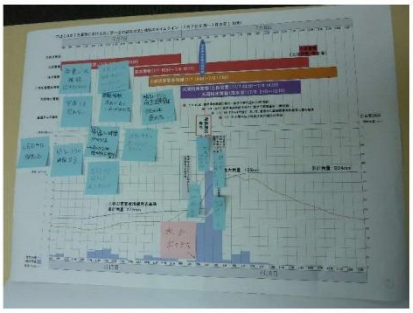
【第１部】 ガイダンス「本日の勉強会について」岐阜県 危機管理部 防災課

【第２部】ワークショップ「安全に避難するためには（７月豪雨災害のふり返り 等）」
○７月豪雨災害のふり返り
○とったらよかったと思う避難行動
○ほかのグループの「ふり返り」確認

◆住民の方の声

・リバスポに開放されている確認に行った 7/8　0:00 頃
・水抜きから水があふれたのを確認。1:30～徒歩で避難。
・冠水した道、土砂が流出した道を通って避難した。
・AM4:00 頃、パトカーの呼びかけで金山病院へ避難
・避難できなかった。隣の人が寝ていたため、付き添っていた。

・雨雲レーダーを随時確認しておけばよかった。（スマホなどで）
・防災カバンを用意しておけばよかった（災害後、用意した。
・警報が出そうな時になったら、避難の準備をしておけばよかった）。
・明るいうちに自主避難できればよかった。
・避難用具を備えておけばよかった。
・空振りを恐れない



1

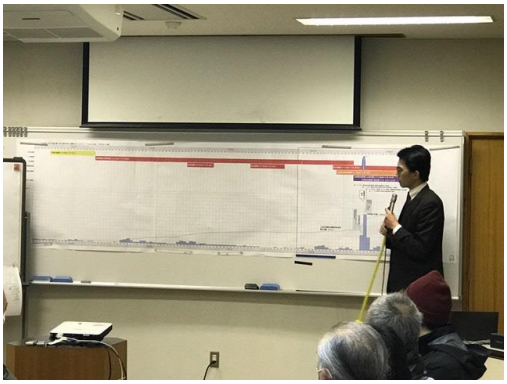
第３部 講義「一人ひとりが考えて決める避難手順」

○講義　清流の国ぎふ　防災・減災センター　　村岡　治道

→大雨時の避難に必要な“所要時間”を計算しよう

→要支援者の支援手順と所要時間も計算しよう

・注意報、警報などの情報は、前日から出ていた
・「避難」ではなく「脱出」になっていないか？
・いざという状況になる前に、早めに避難を完了しておく必要がある
・自分が避難にかかる時間を把握し、いつまでに避難を完了させるのが重要



2　参加者からの主な意見（参加者アンケートより）

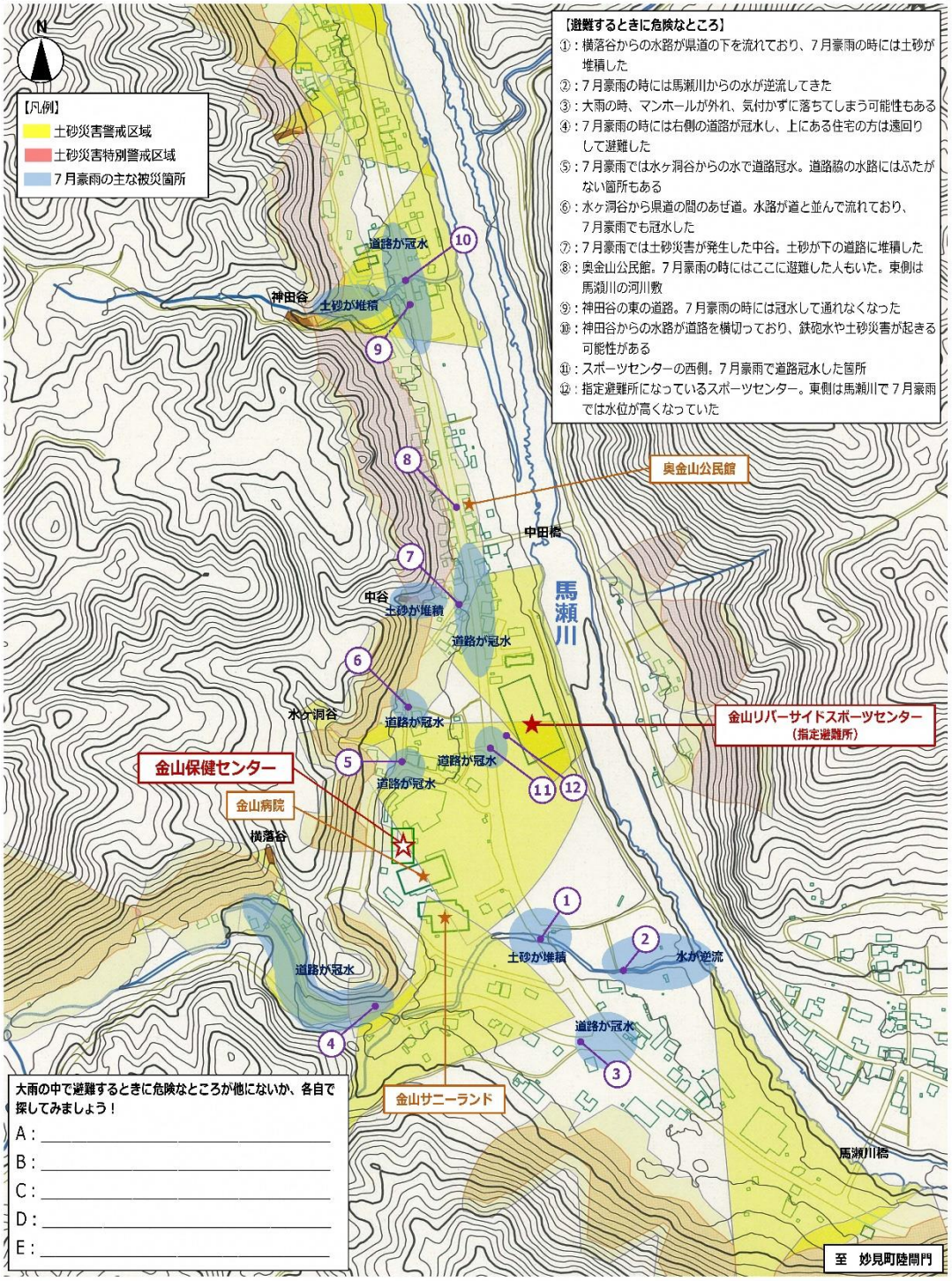
・子どもたちが体験した災害なので、災害に至る時間的経過や状況がイメージしやすいので、学校の授業に活用してほしい。教材とすることも可能。家に帰って、子どもたちと話し合いを持ちたい。
・今後多くこうした時間を作ってください。
・第一区でこのような災害があったことで、家庭でも防災の話をすることができた。意識が高まり、今後も引き続き話をしていきたい。
・日頃班で話し合うことが必要
・緊急時に、どのように連絡を取り合えばよいのか？
・初めての出来事であった。どうしていいかわからなかったことは事実である。早く避難するサインが出ていたかもしれないが、それを理解することはできなかった。区民はみな、そうでなかっただろうか。教訓にしたい。
・勉強になりました。今回参加されていない住民の方々も広く参加されることを願います。

・避難時には何を持って行けばよいか？

【第２回勉強会】資料３

下呂市金山第一区 まち歩き用地図
～大雨の中で避難するときに危険なところを確認してみましょう！～

資料３



【第２回勉強会】参加者アンケート

下呂市金山第一区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第２回）
参加者アンケート

本日の勉強会で感じたことなどについて、ご記入をお願いいたします。
今後の参考とさせていただきます。

（１）記の各項目に対し、ご自分の感想と近い項目に○をつけてください。

①第２回勉強会の時間はどうでしたか。
短い ← ちょうどよい → 長い

②配布資料はどうでしたか。
わかりやすい ← どちらとも言えない → わかりにくい

③説明の時間はどうでしたか。
短い ← ちょうどよい → 長い

④【第１部】講義「次の大雨への備え～危険と課題～」の内容はいかがでしたか。
わかりやすい ← どちらとも言えない → わかりにくい

⑤【第２部】まち歩き「地域に潜む危険を知る」の内容はいかがでしたか。
わかりやすい ← どちらとも言えない → わかりにくい

⑥第２回勉強会に参加したことで、防災の取組に対する意欲は高まりましたか。
わかりやすい ← どちらとも言えない → わかりにくい

⑦本日の内容を踏まえて、家族で避難行動の方法を決めておこうと思いましたか。
はい ← どちらとも言えない → いいえ

⑧本日の内容を踏まえて、金山第一区で避難行動の方法について話し合っていきたいと思いましたか。
そう思う ← どちらとも言えない → そう思わない

（２）最後に、今後情報提供して欲しいこと、第２回勉強会の印象や質問、地域で活動されていることなど、何でも自由にご記入ください。

性別　男性・女性
年代　20 代・30 代・40 代・50 代・60 代・70 代・80 代・90 代以上
地区　白山町 １，２，３，４，５，６ 班・諏訪町１，２，３，４，５ 班
お名前（　　）　※お名前のご記入は任意です。

ご協力ありがとうございました。お帰りの際にご提出ください。

【第２回勉強会】まち歩きを踏まえた気付き（意見交換の結果）

・連絡網の有効活用を考えていきたい。
・今回の勉強会をいかして、もっと自主的に避難しようと思った。
・早めの避難と日ごろの準備が大事だと思った。
・地域を歩くことは危険箇所の把握ができて良い事でした。
・川に目印となる岩があり、その岩が水につかると危ないことが分かった。
・倒木対策が大事であると分かった。
・谷川の土砂が流れこんでいる所が、まだまだいっぱいある。写真を撮ることで、皆にわかってもらえるようにしたいと思った。
・他地区の避難情報を紹介し、避難を呼びかける。
・詳しい気象情報を把握すること。
・現場を実際に見ることは大切であった。
・川の水が増水した形跡が残っているうちに、現場を再点検すること。
・自分たちの地区では、最近では、大雨または台風が近づく前に避難するようにしている。
・自分一人では気づかないようなことを、皆で見ることによって、違う見方での危険箇所を発見することができた。
・地域のつながりで、防災意識を高めていくことが大切。
・冠水する場所を事前にチェックしておく。
・話にあったように速くではなく早めに避難することが大事だとわかった。金山第一区という大きな組織での話し合いもよいが、もう少し小さい単位（例えば班ごととか）で話し合うこともいいと思う。
・地域をグループで歩いて現状がよく見えた。

【第２回勉強会】参加者の感想

下呂市金山地区　第2回WSアンケート集計　　回答件数:34

(1)下記の各項目に対し、ご自分の感想と近い項目に○をつけてください。

①第2回勉強会の時間はどうでしたか。

短い	2
ちょうどよい	30
長い	2

②配布資料はどうでしたか。

わかりやすい	25
どちらとも言えない	8
わかりにくい	1

③説明の時間はどうでしたか。

短い	1
ちょうどよい	33
長い	1

④【第1部】講義「次の大雨への備え~危険と課題~」の内容はいかがでしたか。

わかりやすい	30
どちらとも言えない	5
わかりにくい	0

⑤【第2部】まち歩き「地域に潜む危険を知る」の内容はいかがでしたか。

わかりやすい	26
どちらとも言えない	7
わかりにくい	2

⑥第2回勉強会に参加したことで、防災の取組に対する意欲は高まりましたか。

高まった	28
どちらとも言えない	6
高まらなった	0

⑦本日の内容を踏まえて、家族で避難行動の方法を決めておこうと思いましたか。

はい	32
どちらとも言えない	3
いいえ	0

⑧本日の内容を踏まえて、金山第一区で避難行動の方法について話し合っていきたいと思いましたか。

そう思う	34
どちらとも言えない	1
そう思わない	0

(3) 最後に、今後情報提供して欲しいこと、第2回勉強会の印象や質問、地域で活動されていることなど、何でも自由にご記入ください。

・避難所が行っても入れるかどうか？　・LEDライトはヘッドライトがよいか？　連絡網の有効活用を考えていきたい。
今回の勉強会をいかして、もっと自主的に避難しようと思いました。
・防災グッズについても検討してもらうとありがたいです。　・早めの避難が重要なことがわかりました。また、日頃の準備が大事だと思いました。
岩屋ダムの水量管理を考えてほしい(夏場)。和良川の雨量を知りたい。夜間の川の増水状態を確認したい(中田橋の水量レベル線があるとベスト)。
早めの情報が知りたい。
地域を歩くことは危険箇所の把握ができて良い事でした。
・とにかく早く避難する！！　・家の裏の川に大きな石が流れて川をふさいでいるので大雨の時に心配です。

実際に被害にあった所を昼間に見て歩くことで、危険なことがよくわかりました。避難する時の持ち物は何があればいいのか？　常日頃から気をつけたいと思う。
谷川の土砂が流れこんでいる所が、まだまだいっぱいあるので、写真を撮ることで、一番、皆にわかってもらえることだと思います。
今できることを早めに取組めたらと思いました。
・他地区の避難情報を紹介し、避難を呼びかける。　・詳しい気象情報。　・現場を実際に見ることは大切であった。　・川の水が増水した形跡が残っているうちに、現場を再点検する。
避難するのはいつか、もっと早く、伝えてほしいです。
最近では、大雨または台風が近づく前に、田渕では避難するようにしている。
・自分一人では気づかないようなことを、皆で見ることによって、違う見方での危険箇所を発見することができた。　・地域のつながりで、防災意識を高めることができた。
今回のように、普段から自分たちの住んでいる所を歩き、把握しておくことも大切（危険だと思うところ）。お話にあったように速くではなく早めに避難することが大事だとわかった。金山第一区という大きな組織での話し合いもよいが、もう少し小さい単位（例えば班ごととか）で話し合うこともいいと思う。
まち歩きの時間に限界があると思いますが、もっと多く時間を取ってほしい。開催の日数を増やしては？（勉強会）
大きな看板を立ててください。
地域をグループで歩いて現状がよく見えた。
指定避難所の位置、イエローゾーンである。どう設定するか？　健康館、病院、サニーランド、リバーサイドスポーツセンター、一緒の問題かと。
・次回は、地区はもちろん、行政（下呂市）も一緒になって、考えてほしい。　・行政（下呂市）より、もう少し多くの職員に参加してもらってはどうか。
岩屋ダムの水量管理を考えてほしい（夏場）。和良川の雨量を知りたい。夜間の川の増水状態を確認したい（中田橋の水量レベル線があるとベスト）。その時（7月7～8日）の話が聞きたい（所長様）。私たちの話も聞いてほしい。

性別

男性	27
女性	2

年代

20代	0
30代	2
40代	3
50代	6
60代	17
70代	3
80代	3
90代以上	0

地区

白山町1班	3
白山町2班	4
白山町3班	3
白山町4班	2
白山町5班	0
白山町6班	0
諏訪町1班	5
諏訪町2班	4
諏訪町3班	7
諏訪町4班	3
諏訪町5班	0

下呂市金山第一区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第２回）
★事務局資料★

１ 勉強会について

(1) 開催目的

平成 30 年 7 月豪雨災害の際に、他県では、地域住民一人ひとりが避難場所などをあらかじめ認識するために作成した「災害・避難カード」が威力を発揮し、人的被害を防いだ事例があった。

下呂市金山第一区においても、土砂災害等が多く発生したことから、自然災害の被害軽減のためには、住民自身による適切なタイミングでの避難が極めて重要となる。

そのため、「災害・避難カード」の作成を通して、地域住民一人ひとりが避難方法やタイミング、避難経路などについて話し合い、災害時にどのように行動するかを事前に決めておく取組みを実施する。

(2) 開催概要

計３回の勉強会を開催し、下呂市金山第一区における「災害・避難カード」を作成する。各回の開催内容は以下のとおりとする。

【第１回勉強会】

日時：平成 31 年 1 月 16 日（水）19:00～21:30

場所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室

内容：勉強会の開催趣旨やスケジュールなどを説明。地区の災害リスクや、地区の防災対策の現状、避難にかかる時間などについて、住民とともに考える。

済

【第２回勉強会】

日時：平成 31 年 2 月 3 日（日）9:30～12:00

場所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室 他

内容：まち歩きを実施し、災害のときに危険な場所、避難所などを確認し、避難場所まで安全に行くことができる方法などを確認する。

【第３回勉強会】

日時：平成 31 年 2 月 24 日（日）9:30～12:00（予定）

場所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室（調整中）

内容：第 1 回及び第 2 回ワークショップを踏まえ、一人ひとりが「災害・避難カード」に避難にかかる時間、避難する時期や方法、経路、声掛けする方の氏名などを記入する。

(3) 作成する「災害・避難カード」のイメージ

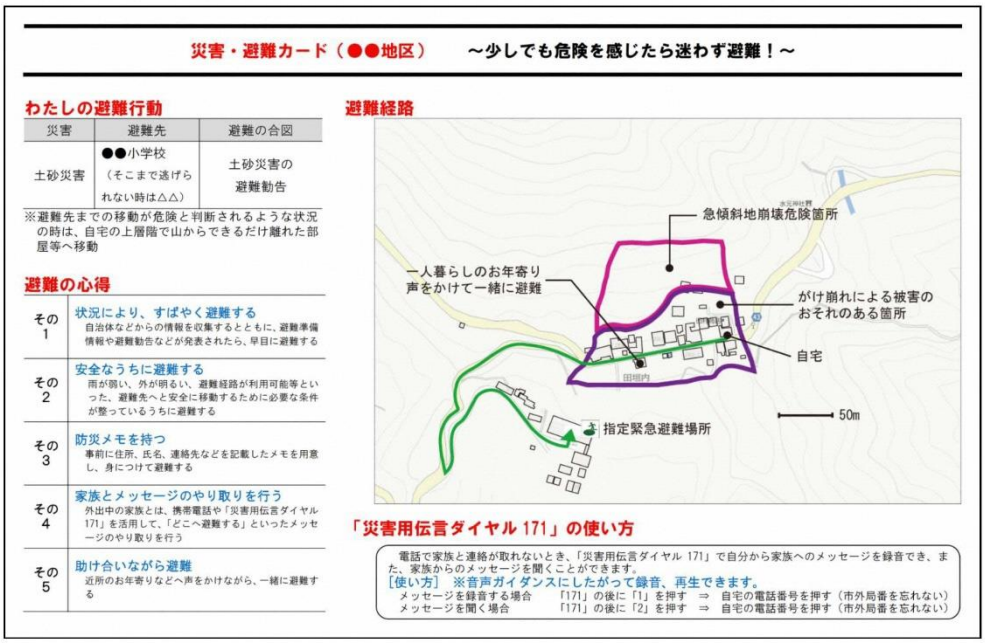
災害・避難カードとは、災害発生時に、どんな情報をもとに、どの経路で、どこに避難するのか等を一目で分かるようにしたカードである。

住民のみなさんが、過去の災害の記憶（情報）、避難経路上の危険箇所、避難するのにかかる時間、必要な防災対策（要配慮者への声かけ等）などを自らの手でカードに記載し、作成していく。

作成した「災害・避難カード」は、自宅の冷蔵庫など、普段日にとまる場所に置いておく。また、今後防災訓練を行う際には、当カードを活用する。

下呂市金山第 ·区の「災害・避難カード」の構成は、金山第 ·区長と下呂市危機管理課と協議しながら、第3回勉強会までに検討·確定する。

＜「災害・避難カード」のイメージ>



2 第２回勉強会について

(1) 開催プログラム

日時：平成 31 年 2 月 3 日（日）9:30～12:00
場所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室 他

時間	プログラム
9:30～9:35	**開会** ○あいさつ（5 分） 岐阜県 危機管理部 防災課　地域防災支援監 下呂市金山第一区　区長
9:35～10:15	**【第１部】講義「次の大雨への備え ～危険と課題～」** ○勉強会の概要説明（5 分） 岐阜県 危機管理部 防災課 地域支援係長 ○講義（35 分） ・第１回勉強会のふり返り ・一人ひとりが考えて決める避難手順 ・自分の地域に予想される危険について 清流の国ぎふ 防災･減災センター
10:15～10:25	**休憩**
10:25～11:55	**【第２部】まち歩き「地域に潜む危険を知る」** ○まち歩きの手順説明（5 分） ○まち歩き（60 分） ○まち歩きを踏まえた意見交換（25 分） 清流の国ぎふ 防災･減災センター
11:55～12:00	**閉会** ○あいさつ 下呂市金山振興事務所　金山地域振興課長 ○第３回勉強会の開催内容の説明（5 分）

<配布資料>

次第
資料１　下呂市金山第一区 一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について
資料２　第１回勉強会のふり返り
資料３　下呂市金山第一区 まち歩き用地図
参加者アンケート

(2) 当日の動き

	時間	内容	役割分担
1	8:00	**集合** ○事務局スタッフは、8 時までに現地に集合する	各自
2	8:00～8:30	**会場設営①** ○テーブルを 4 グループ分配置する ○参加者が想定より多かった時のために、2 グループ分余分に配置する ○1 グループあたり、テーブルは 2 本並べて配置する ○椅子を、1 グループあたり 8 脚配置する ○各テーブルに、地図とフセン、マジック等を配置する ※基本は第 1 回勉強会と同じ	委託業者を中心に対応
		会場設営② ○事務局用にテーブルを 1 本（講師等着席用）配置する ○演台としてテーブルを 1 本配置する ○事務局用に椅子を配置する ○傍聴者（関係者）用に椅子を 15 脚程度配置する ※基本は第 1 回勉強会と同じ	
		会場設営③ ○スクリーンとプロジェクター台を配置する ○委託業者 PC とプロジェクターを設置し、接続･投影を確認する ○マイクを確認する ※基本は第 1 回勉強会と同じ	
		会場設営④ ○入口付近（室外）に受付用にテーブルを 2 本配置する ※基本は第 1 回勉強会と同じ	
3	8:30～9:00	**事務局ミーティング** ○事務局資料を用いて、第 2 回勉強会のタイムスケジュールの確認、まち歩きにおけるグループ編成、役割分担について説明する	岐阜県から一言挨拶 委託業者から説明
4	9:00～9:30	**受付** ○参加者の受付をする ・名簿に名前を記入してもらい、班に○印をつけてもらう ・参加者配布資料一式を手渡し、テーブル割り図を使って案内する ・会場内に案内係を配置し、入ってきた参加者を各テーブルへ案内する ○関係者の受付をする ・名簿に所属と名前を記入してもらう ・岐阜県につなげる ○開会後 10 分程度は受付対応し、その後、受付用紙を持って会場に入る	委託業者を中心に対応

5	9:30～9:35	**開会** ○全体の司会進行は委託業者が行う ○開会にあたり、岐阜県からあいさつをいただく ○続いて、金山第一区長からあいさつをいただく ※講義＆まち歩きの時間を踏まえ、あいさつは手短にお願いする ○配布資料の確認を行う ・不足があれば、事務局スタッフが補充する ・アンケートの記入を依頼する	委託業者が司会進行 あいさつは、 ①岐阜県 ②区長 の順番
6	9:35～10:15	**【第１部】講義「次の大雨への備え ～危険と課題～」** ○創建より第１部に入ることをアナウンスする ○はじめに、岐阜県から勉強会の概要説明をいただくことをアナウンスする ○岐阜県にマイクを手渡す ○岐阜県より勉強会の概要を説明していただく ○マイクを委託業者に返す ○委託業者より講師を紹介し、「次の大雨への備え ～危険と課題～」と題して講義いただくことをアナウンスする ○プロジェクターを、業者 PC から講師 PC につなぎ変える ○講師にマイクを手渡す ○講師より、第１回勉強会のふり返り、第２部のまち歩きの趣旨説明等をしていただく ○マイクを委託業者に返す	委託業者が司会進行 岐阜県が概要説明 講師が講義
7	10:15～10:25	**休憩** ○委託業者より第１部の終了をアナウンスする ○休憩の後、再び栄養指導室に集まっていただくように依頼する	委託業者が司会進行
8	10:25～11:30	**【第２部】まち歩き「地域に潜む危険を知る」** ○委託業者より第２部に入ることをアナウンスする ○委託業者よりまち歩きの手順説明を行う ・４グループに分かれてまち歩きを行うこと ・各グループに事務局スタッフが数名付き、説明、説明補助、記録、安全確認等を行うこと ・道路を歩くため、事務局スタッフの誘導に従って欲しいこと ・体調不良等があればすぐに事務局スタッフまで伝えて欲しいこと ○説明後、健康館入口付近（駐車場）へグループ毎に集合する ・事務局スタッフは「●グループはこちらです」と参加者を集める ・紙に「●グループ」と書いたものを掲げて集まりやすいようにする ○カイロをグループの方に配布する ・ごみ袋を用意する ○各グループ参加者が集まった後、それぞれのルートでまち歩きを行う ・説明担当者は、ルート上のポイントで、参加者の気付きを促すように説明を行う	委託業者が司会進行 まち歩きにおける役割分担は(3)まち歩きのグループ編成を参照

9	11:30～11:55	○全グループがまち歩きを終了し、テーブルについたのを確認したら、委託業者よりまち歩きを踏まえた意見交換を行うことをアナウンスする ○スタッフは同行したグループの進行補助を行う ○まち歩きの中で気付いたこと、感じたことをフセンに書き出してもらい、図面に貼りだしてもらう ・フセンは 75×75mm、色は自由 ○図面に貼り出しながら、意見交換を行う ○落ち着いたところで、委託業者よりグループ毎に地図を壁に貼り出してもらうようにアナウンスする ・事務局スタッフが壁に貼り出す ・貼り出す場所は前方で、スクリーンを上げておく ○講師からの講評をいただく ・先生の講評は、ポイントごとに行う？ ・講師の質問等に対して、適宜事務局スタッフが意見交換の内容を補足説明する ・参加者は講師の周りに集まり、講評を聞いてもらう	委託業者が司会進行 講師より講評
10	11:55～12:00	**閉会** ○アンケートの記入と提出を依頼する ・事務局スタッフはアンケートを回収する ○下呂市あいさつ ○アンケート回収後、岐阜県より次回の開催内容と日時、場所について説明していただく ○委託業者より勉強会の終了をアナウンスする ○勉強会を終了する	委託業者が司会進行 下呂市あいさつ 岐阜県にて次回の説明
11	12:00～12:30	**後片付け** ○忘れ物がないよう、参加者に呼びかけながら、退室を促す ○会場（会議室、多目的ホール）の片づけを行う	各自
12	12:30	**撤収** ○会場から一切の荷物を運び出し、撤収する	各自

(3) まち歩きのグループ編成

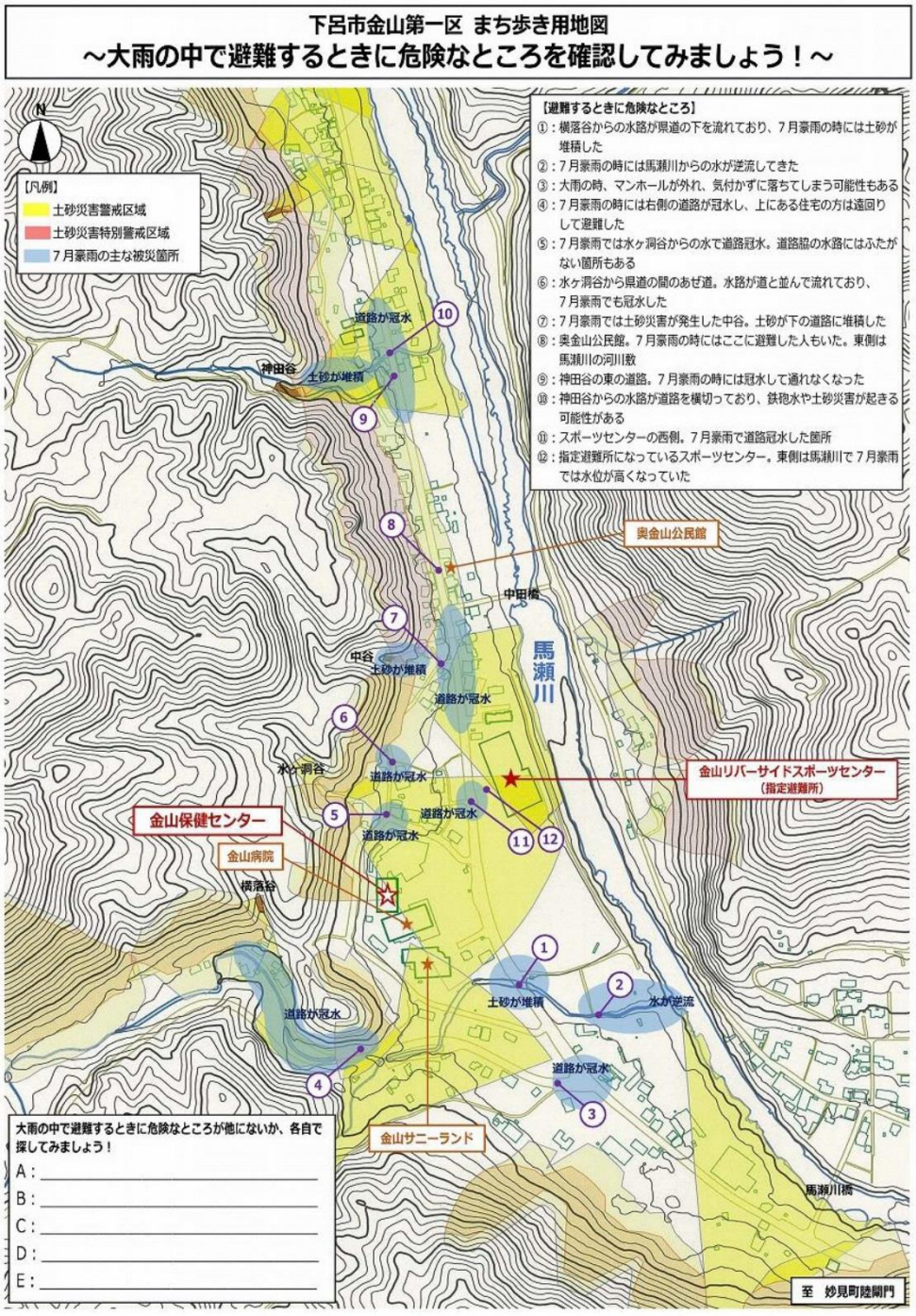
	所属	役職	氏名	役割

講師　　1名
岐阜県　13名　（報道対応1名、全体指揮1名、スタッフ11名）
下呂市　　2名
委託業者　5名

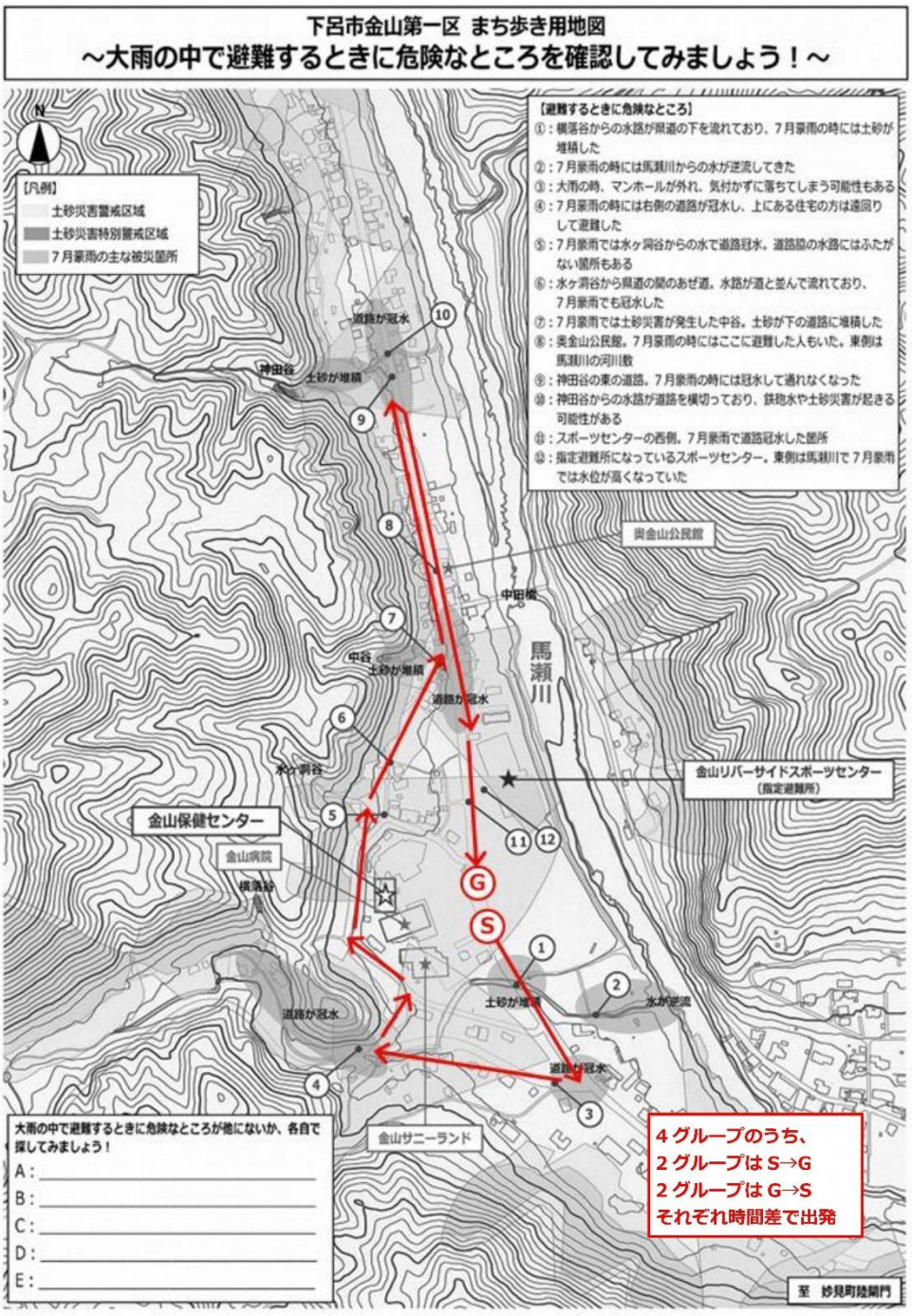
合計　　21名

グループ	説明	補助	記録	安全確認
本部	委託業者	委託業者	－	－
1G	岐阜県	岐阜県	委託業者	岐阜県
2G	岐阜県	下呂市	岐阜県	委託業者
3G	委託業者	下呂市	岐阜県	岐阜県
4G	岐阜県	岐阜県	岐阜県	岐阜県

(4) まち歩きのルート及びポイント



8


下呂市金山第一区 まち歩き用地図
～大雨の中で避難するときに危険なところを確認してみましょう！～
N
【凡例】
土砂災害警戒区域
土砂災害特別警戒区域
7月豪雨の主な被災箇所
【避難するときに危険なところ】
①：横落谷からの水路が県道の下を流れており、7月豪雨の時には土砂が堆積した
②：7月豪雨の時には馬瀬川からの水が逆流してきた
③：大雨の時、マンホールが外れ、気付かずに落ちてしまう可能性もある
④：7月豪雨の時には右側の道路が冠水し、上にある住宅の方は遠回りして避難した
⑤：7月豪雨では水ヶ洞谷からの水で道路冠水。道路脇の水路にはふたがない箇所もある
⑥：水ヶ洞谷から県道の間のあぜ道。水路が道と並んで流れており、7月豪雨でも冠水した
⑦：7月豪雨では土砂災害が発生した中谷。土砂が下の道路に堆積した
⑧：奥金山公民館。7月豪雨の時にはここに避難した人もいた。東側は馬瀬川の河川敷
⑨：神田谷の東の道路。7月豪雨の時には冠水して通れなくなった
⑩：神田谷からの水路が道路を横切っており、鉄砲水や土砂災害が起きる可能性がある
⑪：スポーツセンターの西側。7月豪雨で道路冠水した箇所
⑫：指定避難所になっているスポーツセンター。東側は馬瀬川で7月豪雨では水位が高くなっていた
奥金山公民館
中田橋
馬瀬川
金山リバーサイドスポーツセンター
（指定避難所）
金山保健センター
金山病院
横落谷
水ヶ洞谷
中谷
土砂が堆積
道路が冠水
神田谷
土砂が堆積
道路が冠水
土砂が堆積
水が逆流
道路が冠水
道路が冠水
金山サニーランド
G
S
大雨の中で避難するときに危険なところが他にないか、各自で探してみましょう！
A：
B：
C：
D：
E：
4グループのうち、
2グループはS→G
2グループはG→S
それぞれ時間差で出発
至 妙見町陸閘門

9

【まち歩きでの説明のポイント】

ポイント１：早めの避難の必要性の認識

・身の回りに予測される危険を現地確認し、それが形として現れる前に逃げることの必要性を認識してもらう

・「こうなってからでは逃げるのが遅い」という事を理解してもらう

ポイント２：安全に避難するための手順と時間の把握

・安全に避難するために把握すべき避難行動の阻害要因を現地で確認する

・実際に避難行動にかかる時間を体感してもらう

・避難所へ避難する時にどこに気を付ければいいのか、気を付けながら進むと時間がかかるということを理解してもらう

【各ポイントでの説明のポイント】

①：横落谷からの水路が県道の下を流れているが、７月豪雨の時には、土砂が堆積した

＜説明の趣旨＞

・横落谷からの水が県道を横切って馬瀬川に流れ込む箇所

・７月豪雨の時には、土砂が流れ込み道路に堆積した

②：７月豪雨の時には、馬瀬川からの水が逆流してきた

＜説明の趣旨＞

・１の馬瀬川方向。７月豪雨の時には、馬瀬川の水位が上がり、水が逆流してきたとのこと

③：マンホールは、大雨の時には外れてしまい、気づかずに落ちてしまう可能性がある

＜説明の趣旨＞

・南側から金山病院への裏手への避難ルートとなった道

・道路にマンホールがあり、浸水時に外れてしまう可能性がある

・夜間の避難や浸水時の避難では、マンホールの穴に気づかずに落ちる可能性もある

④：７月豪雨の時は、右側の道路が冠水し、上にある住宅の方は遠回りして避難した

＜説明の趣旨＞

・７月豪雨の時は、右側の道路側が横落谷からの水で冠水した

・２枚目の写真は、右側の道の上にある住宅。下に逃げられず、上側に避難した

・広域農道（３枚目写真）に出て、降りてくると、左の写真の左側の道路に出てくる

⑤：７月豪雨では水ヶ洞谷からの水で道路冠水した。道路脇に沿った水路にふたがない箇所もある

＜説明の趣旨＞

・水ヶ洞谷からの水が、道路脇の水路に流れ込む地形になっている

・水路にふたがない箇所もあり、夜間の避難時などには水路に落ちる危険がある

・ハザードマップの避難ルートになっているが、冠水していると避難時に危険になる

⑥：水ヶ洞谷から県道の間のあぜ道。水路が道と並んで流れており、７月豪雨でも冠水した

＜説明の趣旨＞

・生活道路として使用されていそうなあぜ道だが、水ヶ洞谷からの水路が脇を流れている

・一部避難ルートとしてハザードマップで記載されているが、避難の際は危険性が高い

⑦：７月豪雨では土砂災害が発生した中谷。土砂が下の道路に堆積した

＜説明の趣旨＞

・道路を横切るように水路が流れているが、大雨時は山からの水や土砂が道路上に流れ込む

・交差部分に欄干やガードレールなどもないため、夜間などでは危険

12

⑧：奥金山公民館。７月豪雨の時は、ここに避難した人もいた。東側は馬瀬川の河川敷

＜説明の趣旨＞

・ハザードマップでは、一時避難所に指定されている。７月豪雨の時は、ここに避難した人もいる

・東側は馬瀬川が近く、このあたりは水には浸からなかったが、川上、川下では浸かった場所もある

⑨：神田谷の東の道路。７月豪雨の時には冠水して通れなくなった

＜説明の趣旨＞

・写真左側が神田谷。谷から流れた水がたまり、道路が冠水した

・ここから北側でも冠水が起き、道路が通れなくなっていた

⑩：神田谷からの水路が道路を横切っており、鉄砲水や、土砂災害が起きる可能性がある

＜説明の趣旨＞

・神田谷の東側の県道。谷からの水路が、道路を横切っている

・柵はあるが、大雨時には鉄砲水や土石流が来ると、避難時に流されてしまう危険がある

⑪：スポーツセンターの西側。７月豪雨で道路冠水した箇所

＜説明の趣旨＞

・山からの水が水路からあふれて道路冠水が起きた

・県道との境はガードレールがあるが、沿道側は境があいまいな箇所もある

⑫：指定避難所になっているスポーツセンター。東側は馬瀬川で７月豪雨では水位が高くなっていた

＜説明の趣旨＞

・ハザードマップで指定避難所になっているスポーツセンター

・南側はすぐ馬瀬川が流れているが、護岸は整備されている

その他：妙見町陸閘門。７月豪雨の時は、馬瀬側の水位により閉鎖された

＜説明の趣旨＞

・まち歩きの範囲外。馬瀬川橋より 500mほど東にある

(5) 準備物

項目	準備物等	備考	数量	確認
配布資料（個人）	次第	A4 版	60 部	
	【資料１】一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について	A4 版	60 部	
	【資料２】第１回勉強会のふり返り	A4 版	60 部	
	【資料３】下呂市金山第一区 まち歩き用地図	A3 版	60 部	
	アンケート用紙	A4 版	60 部	
	ゴルフペン	－	60 本	
	封筒	角型２号	60 枚	
	ハザードマップ	A3 版	60 部	
配布資料（テーブル）	下呂市金山第一区 まち歩き用地図	A0 版	６枚	
その他（テーブル）	フセン（75×75mm、色指定なし）	－	適量	
	記入用ボールペン	－	適量	
	記入用油性ペン	－	適量	
	記入用マーカーペン	－	適量	
その他（会場等）	名簿（参加者、関係者用）	A3 版	各１部	
	アンケート回収 BOX	－	２個	
	会場案内用紙（健康館入口掲示用）	－	２枚	
	設営道具（テープ、磁石）	－	－	
	メモ用紙	－	－	
	まち歩きグループ割り図	A3 版	４枚	
その他（電子機器等）	ノート PC	－	１台	
	プロジェクター	－	１台	
	ケーブル	－	－	
	延長コード	－	－	
	差し棒	－	－	
	デジタルカメラ（うち２台は岐阜県にて準備）	－	４台	
	IC レコーダー	－	１台	
	ビデオカメラ	－	１台	
	三脚	－	１台	
その他	カイロ	－	60 個	
	カイロ開封時用ごみ袋	－	１枚	
	お茶	－	60 本	

【第３回勉強会】次第

下呂市金山第一区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第３回）
次 第

日時：平成 31 年 2 月 24 日（日）9:30～12:00
場所：金山町 健康館･保健センター 1 階 栄養指導室

時間	プログラム
9:30～9:35	**開会** ○あいさつ（5 分） 下呂市金山第一区　区長
9:35～11:00	**【第１部】ワークショップ「災害・避難カードを書いてみよう」** ○これまでの勉強会のふり返り（10 分） ○私の避難タイミングの検討（75 分） 清流の国ぎふ 防災･減災センター
11:00～11:10	**休憩**
11:10～11:50	**【第２部】ワークショップ「災害・避難カードの活用について」** ○災害・避難カードの活用について（40 分） 清流の国ぎふ 防災･減災センター
11:50～12:00	**閉会** ○あいさつ（10 分） 下呂市 金山振興事務所　金山地域振興課長 岐阜県 危機管理部 防災課　地域防災支援監

<配布資料>

次第
資料１　下呂市金山第一区 一人ひとりが避難の手順を考える勉強会について
資料２　第１回、第２回勉強会のふり返り
資料３　下呂市金山第一区 災害・避難カード
資料４　非常持出品リスト
資料５　「私のまちの危険情報を知るには？」情報の入手方法
参加者アンケート

資料２

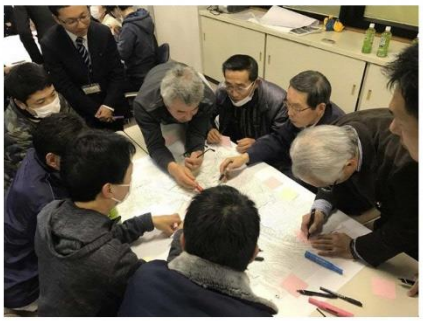
下呂市金山地区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会
第１回勉強会のふり返り

１ 開催概要

第１部 ガイダンス「本日の勉強会について」岐阜県 危機管理部 防災課

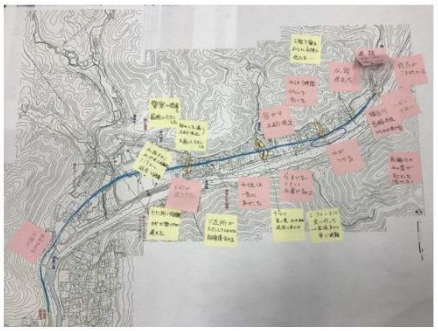
第２部 ワークショップ「安全に避難するためには（７月豪雨災害のふり返り 等）」

○７月豪雨災害のふり返り
○とったらよかったと思う避難行動
○ほかのグループの「ふり返り」確認



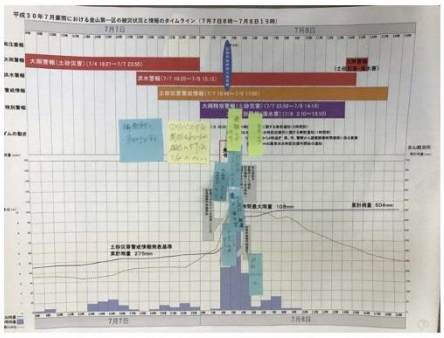
○当時の状況、避難行動 等

・橋を渡って逃げようした時には、川の水位が橋下１ｍ位まで上昇していた。
・川岸にある竹藪の所まで水位が上がっていた。
・川の水位が短時間で一気にあがった。
・家の２階で寝るように子どもに伝えた。
・金山病院が避難所として開設された時、警察や消防団等が病院まで誘導していた。
・土砂が流出した道路や、冠水した道路を通って避難した。



○取ったら良かった行動 等

・隣数件に声掛けをして一緒に逃げればよかった。
・連絡網を整備していても、土壇場では使う余裕がないと実感した。
・地域の情報をどこから収集すればいいのか分からなかった。
・過信せず早めの行動をとることが大切かと思う。



第３部 講義「一人ひとりが考えて決める避難手順」

○講義　清流の国ぎふ　防災・減災センター

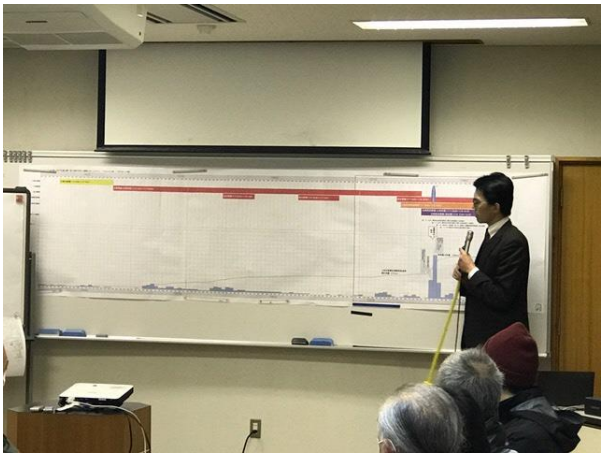
→大雨時の避難に必要な“所要時間”を計算しよう

→要支援者の支援手順と所要時間も計算しよう

出ていた

・「避難」ではなく「脱出」になっていないか？

・いざという状況になる前に、早めに避難を完了しておく必要がある



2　参加者からの主な意見（参加者アンケートより）

・早く避難するサインが出ていたかもしれないが、それを理解することは出来なかった。
・この地域で確実に安全な場所があるのか。現実問題厳しいと感じる。
・一人暮らしのお年寄りなど高齢者世帯が多いので、特に情報を徹底してほしい。
・日頃、班で話し合うことが必要。
・このような災害があったことで、家庭でも防災の話をすることができた。意識が高まり今後も引き続き話をしていきたい。
・子供たちが体験した災害なので、災害に至る時間的経過や状況がイメージしやすいので、学校の授業に活用してほしい。教材とすることも可能。
・家に帰って子ども達と話し合いを持ちたい。
・今後、多くこのような時間を作ってほしい。

下呂市金山地区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会
第２回勉強会のふり返り

1　開催概要

開催日時：平成３１年２月３日（日）　午前９時 30 分～午前 12 時

開催場所：金山町　健康館・保健センター　１階　栄養指導室

【第１部】　講義「次の大雨への備え　～危険と課題」

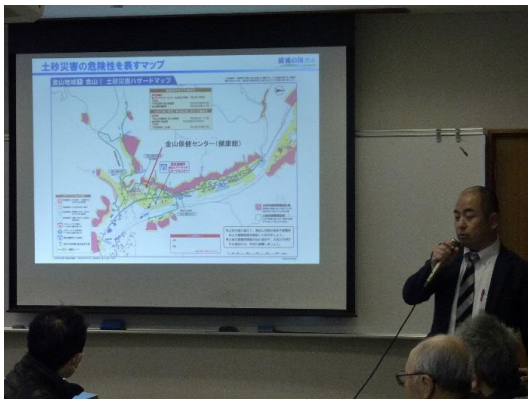
○勉強会の概要説明　　岐阜県 危機管理部 防災課

○講義　　清流の国ぎふ　防災・減災センター

・第１回勉強会のふり返り

・一人ひとりが考えて決める避難手順

・自分の地域に予想される危険について



◆講義の主な内容

・７月豪雨の時に、この地域では十分警戒はしていた、という話だが、他の家の心配をする一方で自分は大丈夫と思っていた。
・避難するタイミングをうかがってはダメ。
・命を守るためには早く避難すること。
・「冠水した道路を通って避難」は「脱出」。
・暴風によって避難できない危険もある。
・普段気にせず歩いている道も、雨や風の中では危険な道になることも。
・土砂災害では家にいても危険。
・マンホールのふたが開いているかもしれない。
・自分が率先して逃げることが、家族や近所の人、消防団など、多くの人を助けることになる。

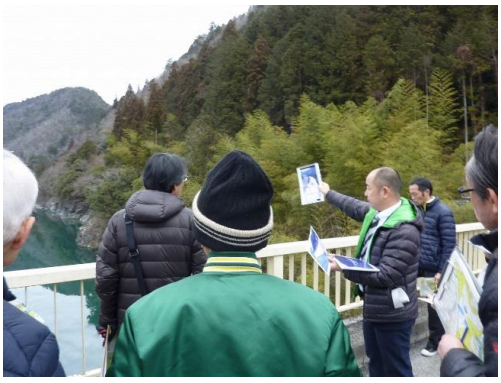
【第２部】　まち歩き「地域に潜む意見を知る」

○まち歩きの手順説明

○まち歩き

○まち歩きを踏まえた意見交換

講評　清流の国ぎふ　防災・減災センター



2　参加者からの主な意見（まち歩きからの気づき、参加者アンケートより）

・危険な場所が多い。車で通るのと歩くのでは見え方が違う

・裏山の倒木が気になる。風が強くなる前の避難が必要。

・山からの水を流すための水路が小さいため、冠水してしまう。

・冠水するため避難が困難になる恐れ。

・歩道、水路のふたが噴き上がってはずれていた。

・側溝のふたがない。

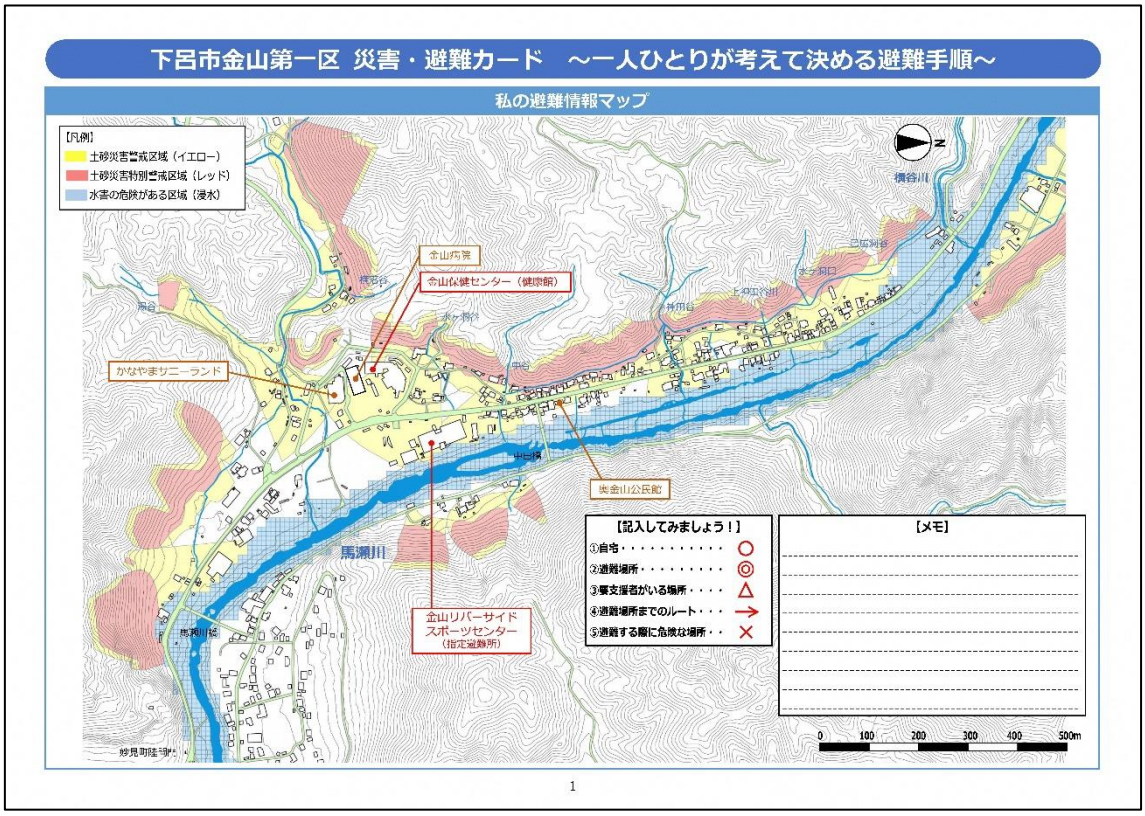
・地域を歩くことは危険箇所の把握ができて良い事でした。

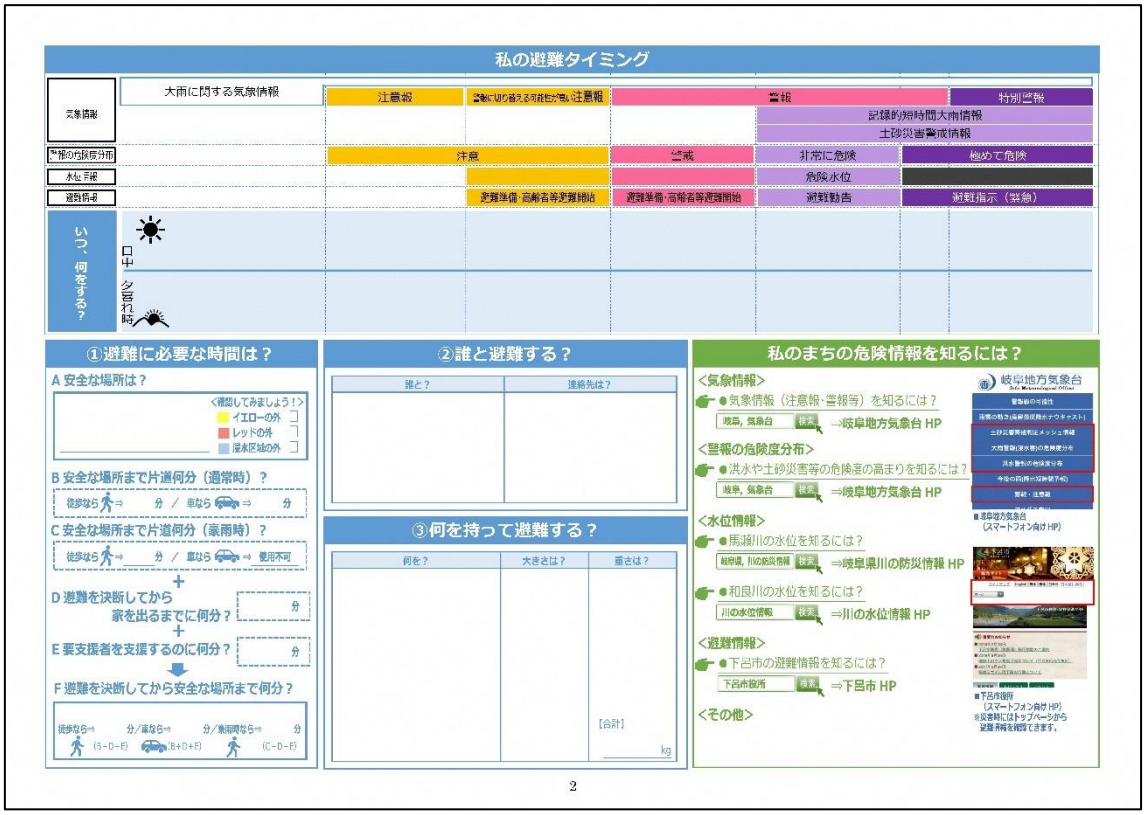
・実際に被害にあった所を昼間に見て歩くことで、危険なことがよくわかりました。避難する時の持ち物は何があればいいのか？　常日頃から気をつけたいと思う。

・自分一人では気づかないようなことを、皆で見ることによって、違う見方での危険箇所を発見することができた。

・今回のように、普段から自分たちの住んでいる所を歩き、把握しておくことも大切（危険だと思うところ）。お話にあったように速くではなく早めに避難することが大事だとわかった。金山第一区という大きな組織での話し合いもよいが、もう少し小さい単位（例えば班ごととか）で話し合うこともいいと思う。

【第３回勉強会】資料３


下呂市金山第一区 災害・避難カード ～一人ひとりが考えて決める避難手順～
私の避難情報マップ
【凡例】
土砂災害警戒区域（イエロー）
土砂災害特別警戒区域（レッド）
水害の危険がある区域（浸水）
金山病院
金山保健センター（健康館）
かなやまサニーランド
馬瀬川
金山リバーサイド スポーツセンター（指定避難所）
【記入してみましょう！】
①自宅
②避難場所
③要支援者がいる場所
④避難場所までのルート
⑤避難する際に危険な場所
【メモ】
0 100 200 300 400 500m
1

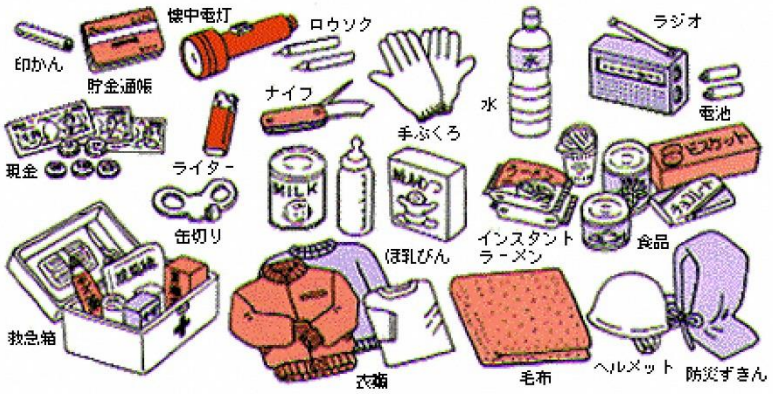

私の避難タイミング
大雨に関する気象情報
注意報
警報
特別警報
記録的短時間大雨情報
土砂災害警戒情報
注意
警戒
非常に危険
極めて危険
危険水位
避難準備・高齢者等避難開始
避難勧告
避難指示（緊急）
いつ、何をする？
日中
夕暮れ時
①避難に必要な時間は？
A 安全な場所は？
B 安全な場所まで片道何分（通常時）？
C 安全な場所まで片道何分（豪雨時）？
D 避難を決断してから家を出るまでに何分？
E 要支援者を支援するのに何分？
F 避難を決断してから安全な場所まで何分？
②誰と避難する？
誰と？
連絡先は？
③何を持って避難する？
何を？
大きさは？
重さは？
私のまちの危険情報を知るには？
<気象情報>
●気象情報（注意報・警報等）を知るには？
⇒岐阜地方気象台 HP
<警報の危険度分布>
●洪水や土砂災害等の危険度の高まりを知るには？
⇒岐阜地方気象台 HP
<水位情報>
●馬瀬川の水位を知るには？
⇒岐阜県川の防災情報 HP
●和良川の水位を知るには？
⇒川の水位情報 HP
<避難情報>
●下呂市の避難情報を知るには？
⇒下呂市 HP
<その他>
岐阜地方気象台
2

【第３回勉強会】資料４

資料４

非常持出品リスト

※下呂市 HP「下呂市防災点検の日」より



消防庁 HP から

- 印かん
- 貯金通帳
- 現金
- 懐中電灯
- ロウソク
- ライター
- 缶切り
- 救急箱
- ナイフ
- 手ぶくろ
- ほ乳びん
- 衣類
- 食品
- 水
- インスタントラーメン
- 毛布
- ラジオ
- 電池
- ヘルメット
- 防災ずきん

【第３回勉強会】資料５

資料５

災害・避難カード
「私のまちの危険情報を知るには？」

情報の入手方法（下呂市）

1

＜気象情報＞
●気象情報（警報級の可能性）とは？

岐阜，気象台　検索

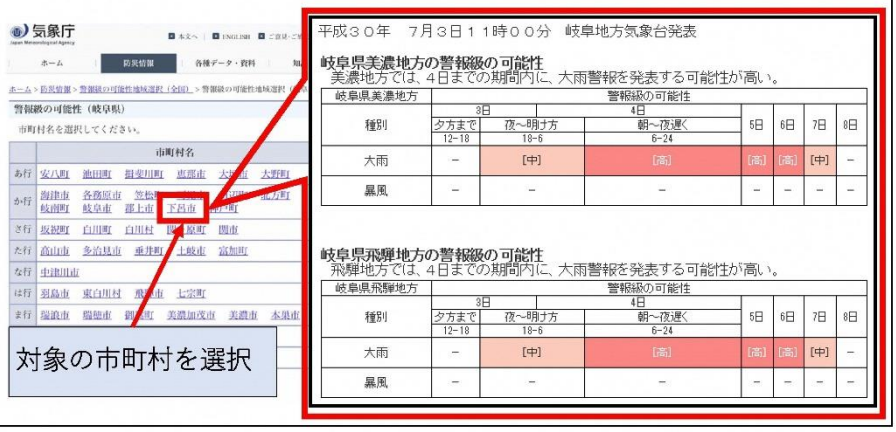
岐阜地方気象台
Gifu Meteorological Office

- 警報級の可能性
- 雨雲の動き(高解像度降水ナウキャスト)
- 土砂災害警戒判定メッシュ情報
- 大雨警報(浸水害)の危険度分布
- 洪水警報の危険度分布
- 今後の雨(降水短時間予報)
- 警報・注意報

2

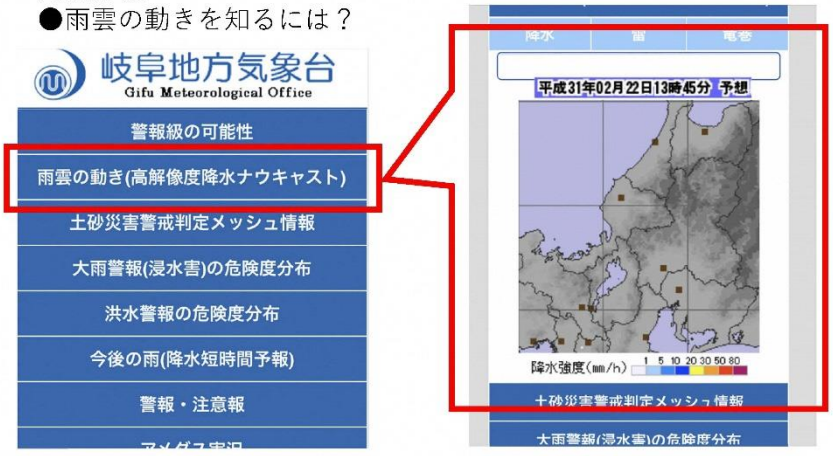
1

＜気象情報＞
●気象情報（警報級の可能性）とは？



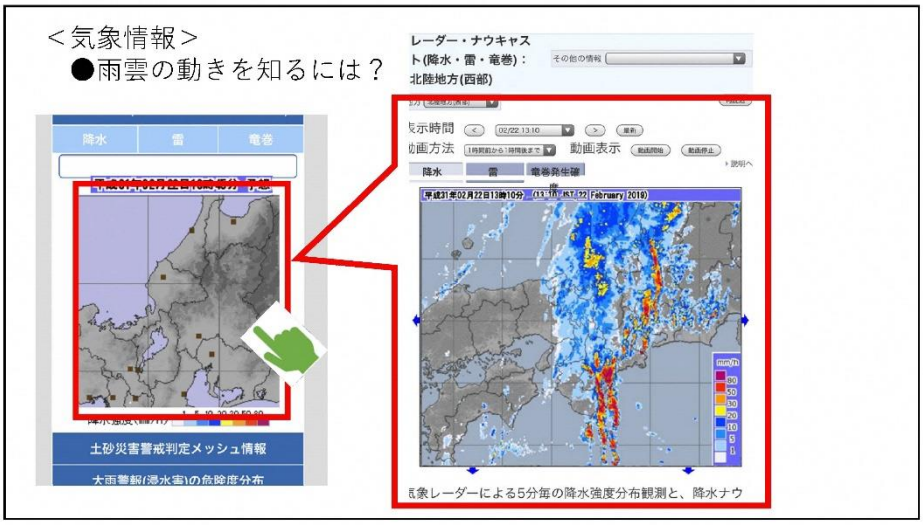
3

＜気象情報＞
●雨雲の動きを知るには？

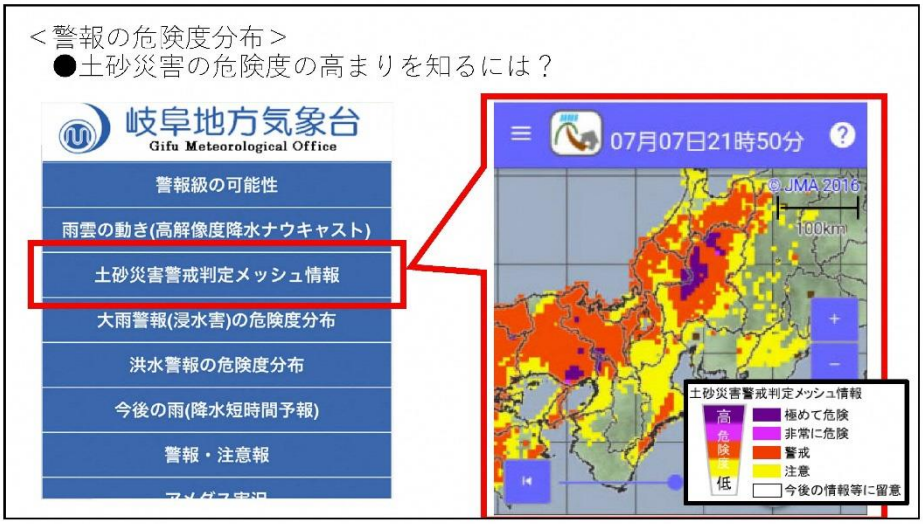


4

2


＜気象情報＞
●雨雲の動きを知るには？
降水
雷
竜巻
土砂災害警戒判定メッシュ情報
レーダー・ナウキャス
ト(降水・雷・竜巻)：
北陸地方(西部)
動画表示
降水
雷
竜巻発生確
February 2019
気象レーダーによる5分毎の降水強度分布観測と、降水ナウ

5


＜警報の危険度分布＞
●土砂災害の危険度の高まりを知るには？
岐阜地方気象台
Gifu Meteorological Office
警報級の可能性
雨雲の動き(高解像度降水ナウキャスト)
土砂災害警戒判定メッシュ情報
大雨警報(浸水害)の危険度分布
洪水警報の危険度分布
今後の雨(降水短時間予報)
警報・注意報
07月07日21時50分
© JMA 2016
100km
土砂災害警戒判定メッシュ情報
高
危険度
低
極めて危険
非常に危険
警戒
注意
今後の情報等に留意

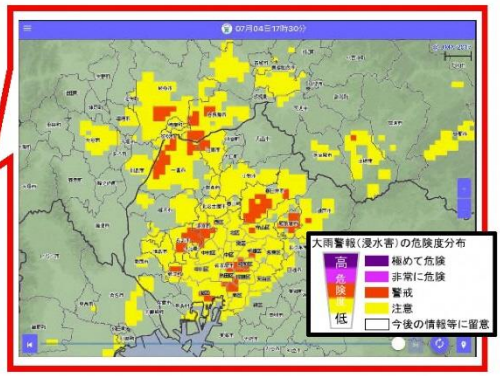
6

3

＜警報の危険度分布＞
●大雨（浸水害）の危険度の高まりを知るには？

岐阜地方気象台
Gifu Meteorological Office

- 警報級の可能性
- 雨雲の動き(高解像度降水ナウキャスト)
- 土砂災害警戒判定メッシュ情報
- 大雨警報(浸水害)の危険度分布
- 洪水警報の危険度分布
- 今後の雨(降水短時間予報)
- 警報・注意報
- アメダス実況



7

＜警報の危険度分布＞
●洪水の危険度の高まりを知るには？

岐阜地方気象台
Gifu Meteorological Office

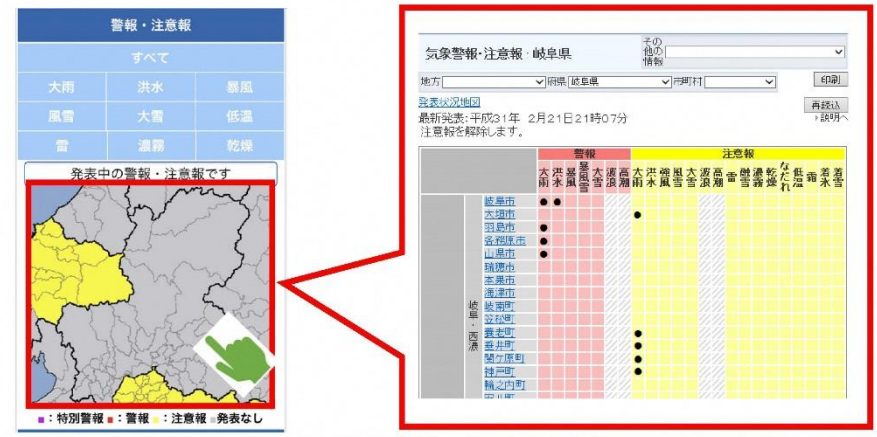
- 警報級の可能性
- 雨雲の動き(高解像度降水ナウキャスト)
- 土砂災害警戒判定メッシュ情報
- 大雨警報(浸水害)の危険度分布
- 洪水警報の危険度分布
- 今後の雨(降水短時間予報)
- 警報・注意報
- アメダス実況

8

＜気象情報＞
●気象情報（注意報・警報等）を知るには？

9

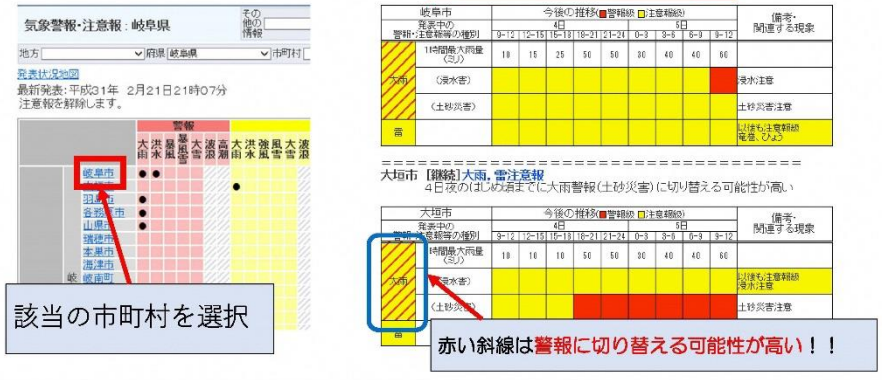
＜気象情報＞
●気象情報（注意報・警報等）を知るには？



10

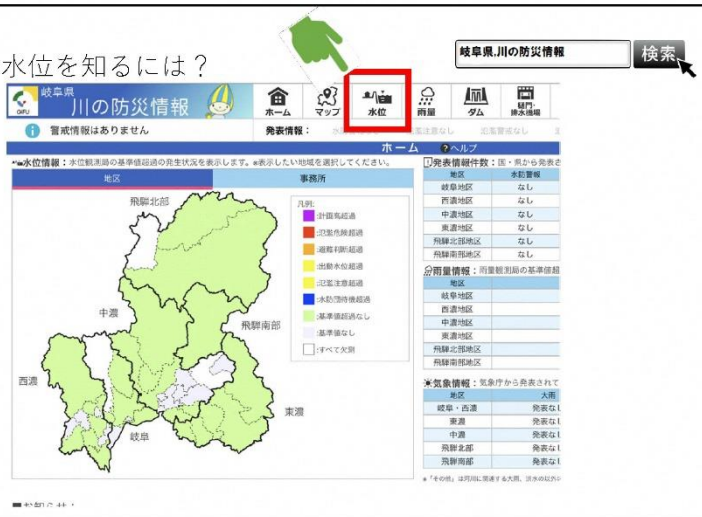
5

＜気象情報＞
●気象情報（注意報・警報等）を知るには？



11

＜水位情報＞
●馬瀬川の水位を知るには？



12

6

＜水位情報＞
●馬瀬川の水位を知るには？

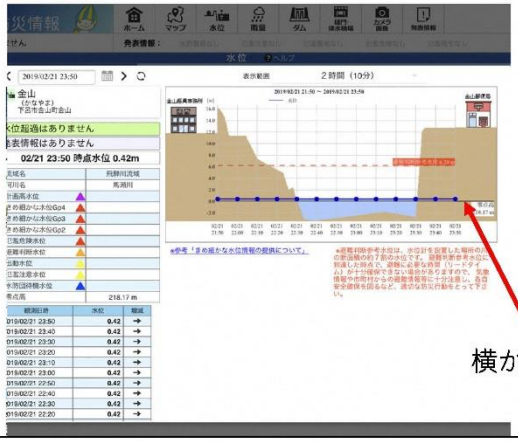
13

＜水位情報＞
●馬瀬川の水位を知るには？

14

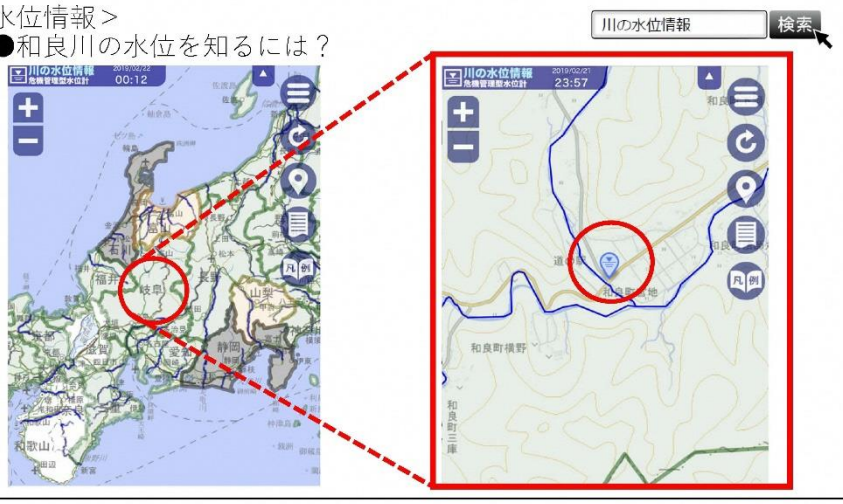
7

＜水位情報＞
●馬瀬川の水位を知るには？



15

＜水位情報＞
●和良川の水位を知るには？



16

8

＜水位情報＞
●和良川の水位を知るには？

17

＜避難情報＞
●下呂市の避難情報を知るには？

18

9

テレビやラジオ等での表現

注意報や警報の伝え方・・・定型

「大雨に関する気象情報」として、
以後に予測されることを
付け加えて伝える。

19

危険を伝えることができるよう
慎重に言葉を選択し、１００文字程度で表現。

【注意！】
表現の内容は、
どの地域でも起こる可能性がある。
他人事ではない。

20

10

○過去の大きな災害になぞらえて表現。
例：○○豪雨に匹敵する。

○インパクトのある語句で表現。
例：命に危険を及ぼす土砂災害が発生していて
もおかしくない極めて危険な状態。

例：朝倉では15:38までの１時間に観測史上１位
となる129.5mmの降水量を観測した。

○雨雲の現状と今後の予測。

○県内の記録的な雨の観測地や災害の状況。

21

【注意！】
表現の内容は、
どの地域でも起こる可能性がある。
他人事ではない。

22

11

平成３０年７月豪雨の際に
気象庁が記者会見（はじめて）

梅雨前線の停滞、南からの湿った風の流入、
過去の経験や予報資料からの予測、
週末にかかること　などから

○平成３０年７月５日
「西日本と東日本における８日頃にかけての大雨について」
○平成３０年７月６日
「西日本と東日本における記録的な大雨について」
○平成３０年７月７日
「西日本と東日本における記録的な大雨について」

23

○平成３０年７月５日
「西日本と東日本における８日頃にかけての大雨について」

○　西日本と東日本では、記録的な大雨となるおそれがあります。

○　西日本から東日本にかけて、台風第７号の影響や、太平洋高気圧の縁に沿って暖かく湿った空気が流れ込み、梅雨前線の活動が活発になり、広い範囲で大雨が続いています。この状況は、**８日頃にかけて続く見込み**です。**非常に激しい雨が断続的に数日間降り続き、記録的な大雨となるおそれがあります。**

24

12

○平成３０年７月６日
「西日本と東日本における記録的な大雨について」

○　太平洋高気圧の縁に沿って暖かく湿った空気が流れ込み、西日本から東日本に停滞する梅雨前線の活発な活動が続いています。この影響により、西日本及び東日本では、猛烈な雨を伴って、広い範囲で記録的な大雨となっています。

○　引き続き、西日本と東日本では、**猛烈な雨が断続的に明後日８日まで降り続く見込み**です。**今後、重大な災害の発生するおそれが著しく高くなり、大雨特別警報を発表する可能性があります。**

25

○平成３０年７月７日
「西日本と東日本における記録的な大雨について」

○　西日本と東日本に停滞している梅雨前線の活動は、一昨日５日から活発な状況が続いています。この影響で、西日本から東日本にかけての広い範囲で記録的な大雨が続いており、広島県、岡山県、鳥取県、兵庫県、京都府に大雨特別警報を発表しています。

○　西日本と東日本では、梅雨前線が８日にかけて停滞し、活動が活発な状況が続きます。**現在雨が止んだり、弱まっているところでも再び雨が強まり、８日にかけて局地的に非常に激しい雨が降るおそれがあります。**

26

13

気象庁の報道発表資料

27

【第３回勉強会】参加者アンケート

下呂市金山第一区
一人ひとりが避難の手順を考える勉強会（第３回）
参加者アンケート

本日の勉強会で感じたことなどについて、ご記入をお願いいたします。
今後の参考とさせていただきます。

（１）記の各項目に対し、ご自分の感想と近い項目に○をつけてください。

①第３回勉強会の時間はどうでしたか。
短い ← ちょうどよい → 長い

②配布資料はどうでしたか。
わかりやすい ← どちらとも言えない → わかりにくい

③説明の時間はどうでしたか。
短い ← ちょうどよい → 長い

④【第１部】ワークショップ「災害・避難カードを書いてみよう」の内容はいかがでしたか。
わかりやすい ← どちらとも言えない → わかりにくい

⑤【第２部】ワークショップ「災害・避難カードの活用について」の内容はいかがでしたか。
わかりやすい ← どちらとも言えない → わかりにくい

⑥第３回勉強会に参加したことで、防災の取組に対する意欲は高まりましたか。
わかりやすい ← どちらとも言えない → わかりにくい

⑦本日の内容を踏まえて、家族で避難行動の方法を決めておこうと思いましたか。
はい ← どちらとも言えない → いいえ

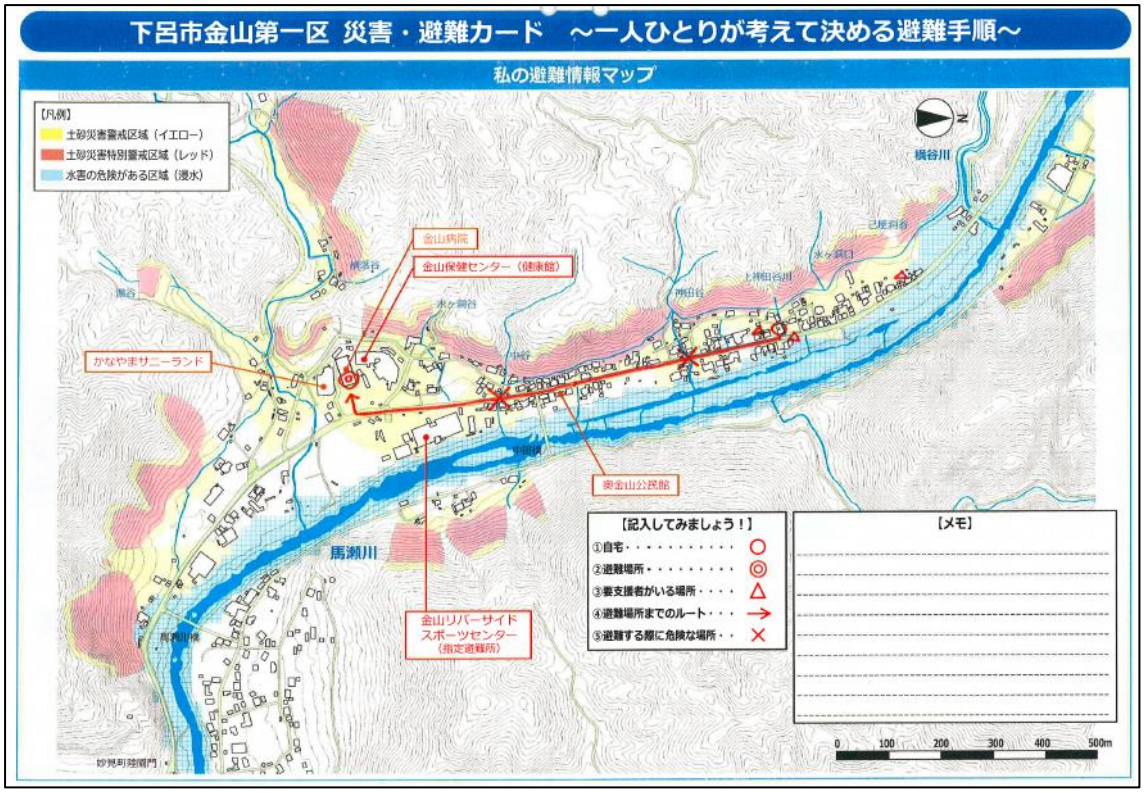
⑧本日の内容を踏まえて、金山第一区で避難行動の方法について話し合っていきたいと思いましたか。
そう思う ← どちらとも言えない → そう思わない

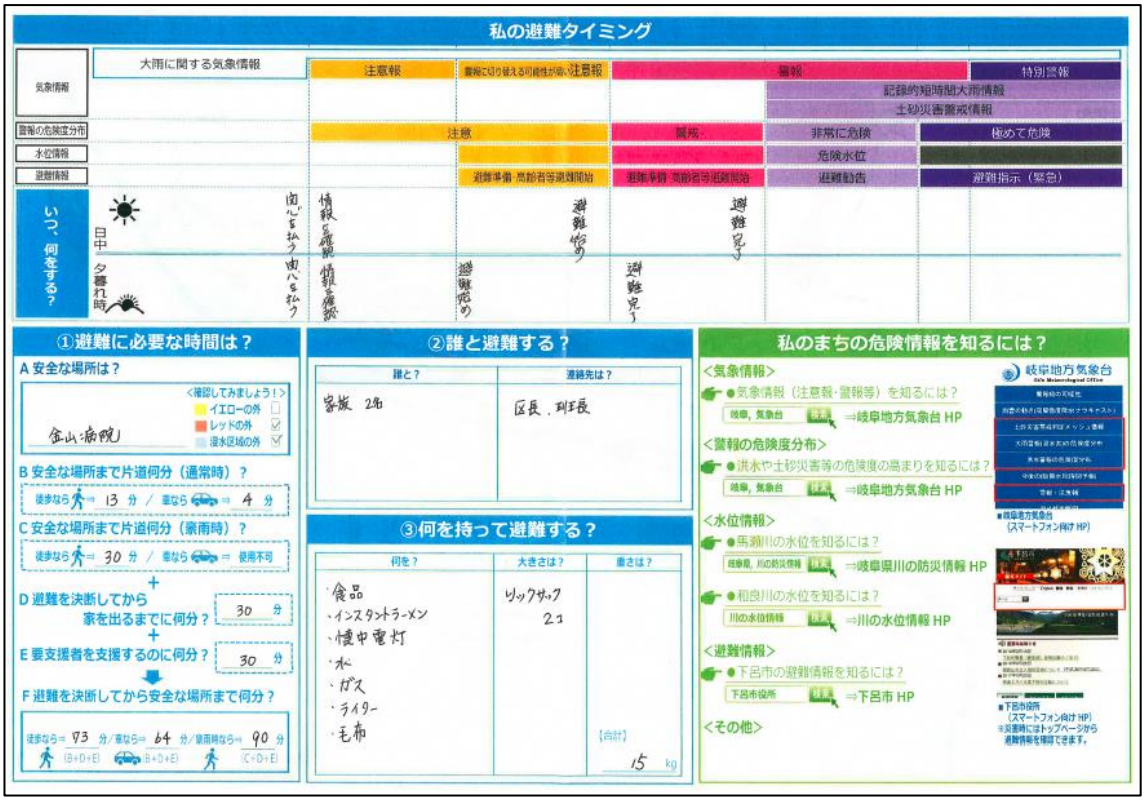
（２）最後に、今後情報提供して欲しいこと、第３回勉強会の印象や質問、地域で活動されていることなど、何でも自由にご記入ください。

性別　**男性・女性**
年代　**20 代・30 代・40 代・50 代・60 代・70 代・80 代・90 代以上**
地区　**白山町 １，２，３，４，５，６ 班・諏訪町１，２，３，４，５ 班**
お名前　**（　　）**　※お名前のご記入は任意です。

ご協力ありがとうございました。お帰りの際にご提出ください。

【第３回勉強会】災害・避難カードの記入例





【第３回勉強会】災害・避難カードの普及・啓発（意見交換の結果）

・作成したカードを、台所など見える場所に置いておく。
・自主防災組織で避難カードの再確認を行う。
・６月の防災訓練の時に、本番を想定して実際に避難してみる。
・避難のタイミングが非常にむずかしい。フライングするぐらいの感じで避難することが必要だと思う。
・避難する際の持っていく道具を準備しておくことが大切だと判った。
・日々災害に対する情報について話し合う事が大事である。
・こまめに情報を収集することで早めに準備し、無事に避難できるようにしなければいけないと思った。
・災害、避難カードを複数コピーして家族が共有できるようにしたい。子供達にもわかるように説明しておきたい。
・今回のカードを地区で回覧して共有したい。
・避難経路について、家族で意見交換をうる
・小学校で出前授業をしてもらう
・避難の時期、行動手順等が明確になった。
・独居老人及び高齢夫婦へ、地区で避難場所、時間、持ち物を決めたカードを配布する。
・区の会議や班の集まりの時にカードを使用する。
・地域の行事があった時に今日学んだことを説明することができたらいいと思う

【第３回勉強会】参加者の感想

下呂市金山第一区　第3回WSアンケート集計　　回答件数:32

(1) 下記の各項目に対し、ご自分の感想と近い項目に○をつけてください。

①第3回勉強会の時間はどうでしたか。

短い	6
ちょうどよい	26
長い	0

②配布資料はどうでしたか。

わかりやすい	29
どちらとも言えない	3
わかりにくい	0

③説明の時間はどうでしたか。

短い	5
ちょうどよい	27
長い	0

④【第1部】ワークショップ「災害・避難カードを書いてみよう」の内容はいかがでしたか。

わかりやすい	24
どちらとも言えない	7
わかりにくい	0

◆第2部に参加された方にお聞きします。

⑤【第2部】ワークショップ「災害・避難カードの活用について」の内容はいかがでしたか。

わかりやすい	25
どちらとも言えない	6
わかりにくい	0

⑥第3回勉強会に参加したことで、防災の取組に対する意欲は高まりましたか。

高まった	31
どちらとも言えない	0
高まらなった	0

⑦本日の内容を踏まえて、家族で避難行動の方法を決めておこうと思いましたか。

はい	31
どちらとも言えない	0
いいえ	0

⑧本日の内容を踏まえて、上之保地区で避難行動の方法について話し合っていきたいと思いましたか。

そう思う	31
どちらとも言えない	0
そう思わない	0

(3) 最後に、今後情報提供して欲しいこと、第2回勉強会の印象や質問、地域で活動されていることなど、何でも自由にご記入ください。

大変いい勉強をさせていただきました。ありがとうございました。勉強会だけに終わらないように、区の中で、自主防災の中で、話し合い今後の防災対策に活かしていきたいと思います。
大変良い勉強会ありがとうございました。今後も、県下にワークショップを開催していくと言うことで防災に強い県をめざして下さい。
川の中州が全て見えなくなったくらいの水量で上流で何ミリ（50ミリ　100ミリ）降ったら、どこまで水位が上がるのか計算してほしい。
第3回の勉強会で、これから先、大雨の時の避難の時期の最確認が出来た。
・避難のタイミングが非常にむずかしい。・フライングするぐらいの感じで避難することが必要だと思います。・避難する際の持っていく道具を準備しておくことが大切だと判った。

・早めの避難で車は良いのか？・危機感を持続するには？・地域の安全な場所の確認の大切さが理解できた。
いかに実戦できるかが課題です。
ありがたい事でした。早めのヒナンをします。妻と来たかった。
日々災害に対する情報を話し合う事が大事である。避難のタイミングが非常にむずかしい。避難カードを今後どのようにつかうか考える必要がある。
・こまめに情報を収集することで早めに準備し、無事に避難できるようにしなければいけない。・災害、避難カードを複数コピーして家族が共有できるようにしたい。子供達にもわかりやすい様に説明しておく。
大変勉強になりました。これから、近所のつながりを強め、いざとなった時に共助できるようにしていきたい。
時間が決まっているので無理な事ですが、説明をゆっくりしてほしい。頭の整理がつかないうちに、次々と話がでてくるとついていけないです。早めの行動が大事だと理解出来ました。
なぜ、イエローゾーンの場所が、指定避難所として認定されているか疑問に思う。家でも今回の避難カードを使って、話をにつめていきたい。
・防災に関する情報が得られた。
地図が変わっている所があるので、新しくなった物があると良いと思います。
避難の時期、行動手順等明確になった。
勉強会でわかった事は災害の起きる前に安全な方々で近所の人に、声をかけて素早く避難することが大切だと思います。

性別

男性	23
女性	1

年代

20代	0
30代	2
40代	3
50代	8
60代	13
70代	3
80代	1
90代以上	0

地区

白山町1班	1
白山町2班	5
白山町3班	2
白山町4班	2
白山町5班	0
白山町6班	0
諏訪町1班	4
諏訪町2班	3
諏訪町3班	5
諏訪町4班	4
諏訪町5班	0

問い合わせ先
○　岐阜県危機管理部防災課
〒５００－８５７０
岐阜県岐阜市薮田南２－１－１
TEL：０５８－２７２－１１１１
FAX：０５８－２７１－４１１９
メール：c11115@pref.gifu.lg.jp